

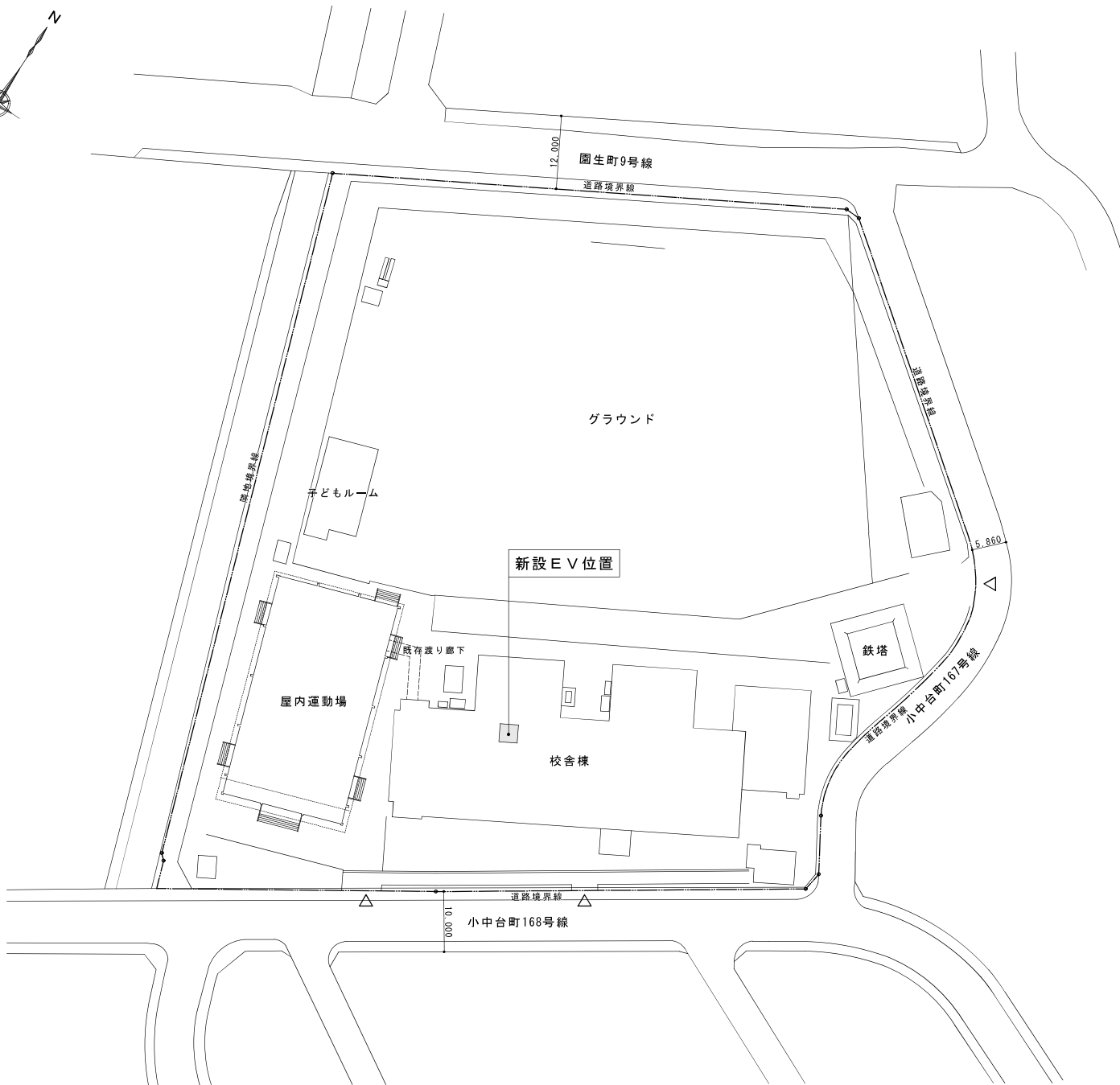
千葉市立小中台南小学校エレベータ設置工事

図面番号	図面名称	図面番号	図面名称
A-00	表紙・図面リスト	S-01	新構造設計特記仕様書その1
A-01	案内図・配置図	S-02	新構造設計特記仕様書その2
A-02	仕上表	S-03	新鉄筋コンクリート構造配筋標準図-1
A-03	1階平面図（撤去図・改修図）	S-04	新鉄筋コンクリート構造配筋標準図-2
A-04	2階平面図（撤去図・改修図）	S-05	新鉄筋コンクリート構造配筋標準図-3
A-05	3階平面図（撤去図・改修図）	S-06	鉄骨標準図-1
A-06	4階平面図（撤去図・改修図）	S-07	鉄骨標準図-2
A-07	5階平面図（撤去図・改修図）	S-08	既存伏図、断面リスト
A-08	断面詳細図（撤去図）	S-09	エレベータ伏図
A-09	断面詳細図（改修図）	S-10	部材リスト
A-10	1階平面詳細図（撤去図）		
A-11	1階平面詳細図（改修図）	M-01	1階仮設計画図【既存】（参考）
A-12	2階平面詳細図（撤去図・改修図）	M-02	1階仮設計画図【工事中】（参考）
A-13	3階平面詳細図（撤去図・改修図）	M-03	2階・5階仮設計画図【既存・工事中】（参考）
A-14	4階平面詳細図（撤去図・改修図）	M-04	3階・4階仮設計画図【既存・工事中】（参考）
A-15	5階平面詳細図（撤去図・改修図）		
A-16	展開図（撤去図）	E-01	配置図・案内図
A-17	展開図（改修図）	E-02	受変電・電灯設備 単線結線図
A-18	天井伏図（撤去図）	E-03	電気設備 1階 平面図
A-19	天井伏図（改修図）	E-04	電気設備 2階 平面図
A-20	家具図・建具表（改修図）	E-05	電気設備 3階 平面図
A-21	スロープ平面詳細図（撤去図・改修図）	E-06	電気設備 4階 平面図
A-22	スロープ断面詳細図（撤去図・改修図）	E-07	電気設備 5階 平面図
A-23	外部仮設計画図（参考）	E-08	電気設備 1階 平面詳細図
A-24	内部仮設計画図-1（参考）	E-09	電気設備 2階 平面詳細図
A-25	内部仮設計画図-2（参考）	E-10	電気設備 3階 平面詳細図
A-26	内部仮設計画詳細図（参考）	E-11	電気設備 4階 平面詳細図
A-27	防火区画図-1	E-12	電気設備 5階 平面詳細図
A-28	防火区画図-2		
A-29	防火区画図-3	EV-1	昇降機設備図-1
		EV-2	昇降機設備図-2（参考）
		EV-3	昇降機設備図-3（参考）

工事場所：千葉市小中台南小学校
千葉市稲毛区小仲台8丁目15番1号



案内図 S=1:3000



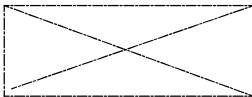
配置図 S=1:500

工事概要

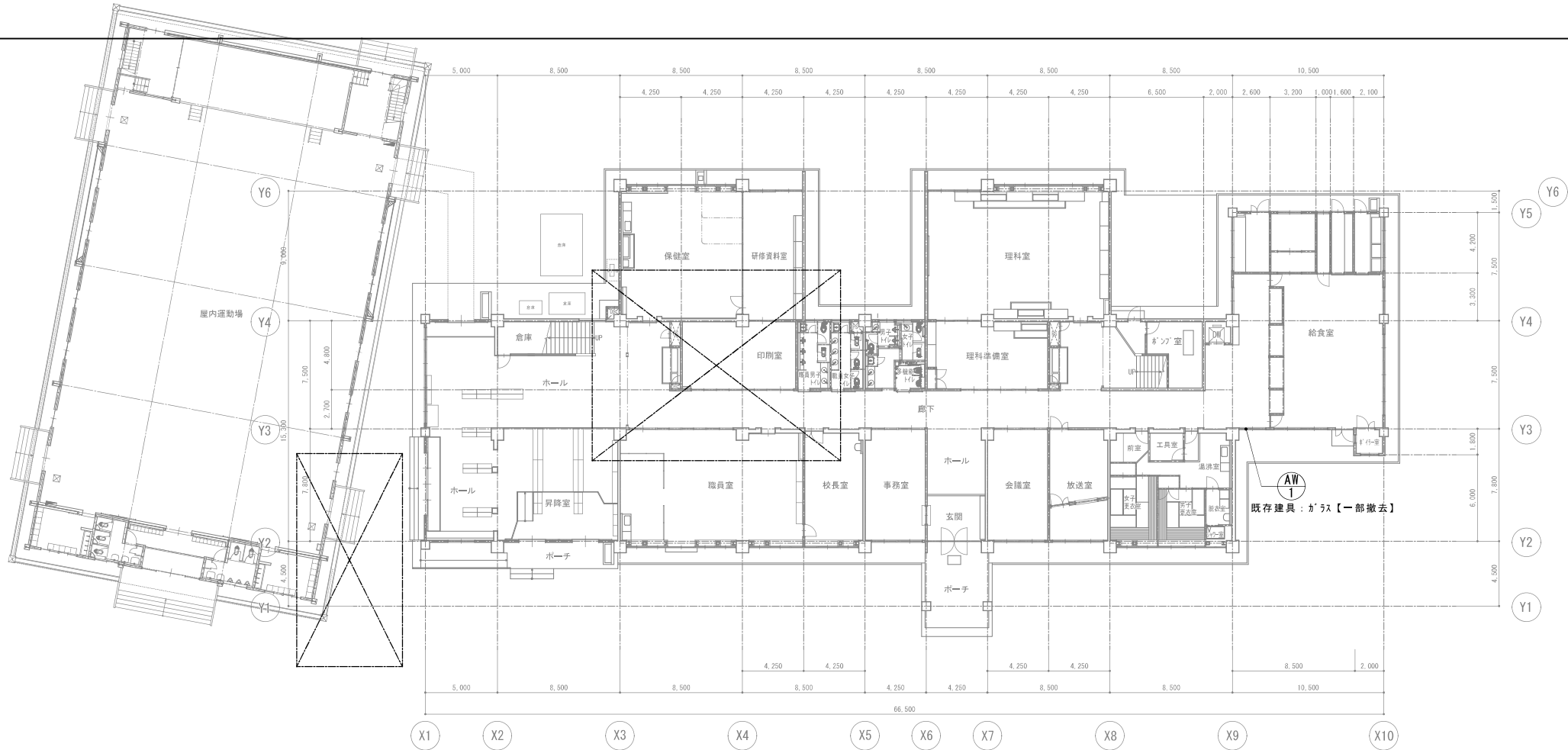
工事名称	千葉市立小中台南小学校エレベータ設置工事	用途地域	第一種中高層住居専用地域
工事場所	千葉市稲毛区小仲台8丁目15番1号	防火地域	建築基準法22条区域
学校名	千葉市立小中台南小学校	その他の地域地区	第一種高度地区(20m)
前面道路	小中台町168号線 幅員 10.0m	容積率・建ぺい率	200% / 60%
構造・階数	校舎棟：鉄筋コンクリート造 地上5階建	日影規制	3h、2h、4.0m
工事内容	内付けエレベータ設置(1~5階)		

■内部仕上表																											
階	室名		床	巾木	壁・腰壁	天井	廻り縁	天井高	備考																		
1F	印刷室	既存	ビニル床シート t=2.0+モザイク t=30+コンクリート t=120+防湿シート t=0.15 +捨てコンクリート t=50+敷砂利 t=150 【一部撤去】	ビニル巾木 (H=100) 【一部撤去】	壁：EP モザイク t=20+コンクリート t=120 【一部撤去】 フサ壁：EP 石膏ボード t=12.5 (LGS下地 W65) 【撤去】	化粧石膏ボード t=9.5 (LGS下地) 【一部撤去】	塩ビ製 【一部撤去】	2.750	ﾌﾞﾚｯﾄﾞﾊﾞｰﾅｰｼｮﾝ【撤去】、室名札【取外し】 ﾌﾞﾚｯﾄﾞ引違い戸【障子：取外し】 造付戸棚×３【撤去】、ｽﾏｰﾄﾞﾚｯﾄ戸棚×１【撤去】、既存家具・備品 【一部移設】																		
		改修	ビニル床シート t=2.0+モザイク t=30+コンクリート t=120+防湿シート t=0.15 +捨てコンクリート t=50+再生砕石 t=150 【一部新設】 (土間ｺﾝ配筋)ﾀﾞｲﾔｸﾞﾗﾑ・ｺﾛ筋；D10@200(接着系ｱﾝｶｰD10@200共) 【新設】	ビニル巾木 (H=100) 【一部新設】	EV壁(1時間耐火)：EP 強化石石膏ボード t=21片面二重張り (LGS W100) 【新設】	化粧石膏ボード t=9.5 (LGS下地) 【一部新設】	塩ビ製 【一部新設】	2.750	ｽﾏｰﾄﾞﾚｯﾄﾊﾞｰﾅｰｼｮﾝ【新設】、室名札【再取付】 ﾌﾞﾚｯﾄﾞ引違い戸【障子：再取付】、天井点検口【新設】 収納棚×２【新設】、既存家具・備品 【一部再設置】																		
	研修資料室	既存	ビニル床シート t=2.0+モザイク t=30	ビニル巾木 (H=100)	壁：EP モザイク t=20	化粧石膏ボード t=9.5 (LGS下地)	塩ビ製	2.750	ﾌﾞﾚｯﾄﾞ引違い戸【障子：取外し】																		
		改修	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	2.750	ﾌﾞﾚｯﾄﾞ引違い戸【障子：再取付】																		
	職員室	既存	ビニル床シート t=2.0+モザイク t=30 【一部撤去】	ビニル巾木 (H=100)	壁：EP モザイク t=20	化粧石膏ボード t=9.5 (LGS下地)	塩ビ製	2.750	ﾌﾞﾚｯﾄﾞﾊﾞｰﾅｰｼｮﾝ【撤去】、室名札【取外し】																		
		改修	ビニル床シート t=2.0+モザイク t=30 【一部新設】	既存のまま	既存のまま	既存のまま	既存のまま	2.750	ｽﾏｰﾄﾞﾚｯﾄﾊﾞｰﾅｰｼｮﾝ【新設】、室名札【再取付】																		
	廊下	既存	ビニル床シート t=2.0+モザイク t=30+コンクリート t=120+防湿シート t=0.15 +捨てコンクリート t=50+敷砂利 t=150 【一部撤去】	ビニル巾木 (H=100) 【一部撤去】	壁：EP モザイク t=20+コンクリート t=120 【一部撤去】	化粧石膏ボード t=9.5 (LGS下地) 【一部撤去】	塩ビ製 【一部撤去】	2.750	天井点検口【撤去】																		
		改修	ビニル床シート t=2.0+モザイク t=30+コンクリート t=120+防湿シート t=0.15 +捨てコンクリート t=50+再生砕石 t=150 【一部新設】 (土間ｺﾝ配筋)ﾀﾞｲﾔｸﾞﾗﾑ・ｺﾛ筋；D10@200(接着系ｱﾝｶｰD10@200共) 【新設】	ビニル巾木 (H=100) 【一部新設】	雑壁：EP 石膏ボード t=12.5 (LGS W65) 【新設】 既存壁：EP 【一部塗替】	化粧石膏ボード t=9.5 (LGS下地) 【一部新設】	塩ビ製 【一部新設】	2.750	天井点検口【新設】																		
2F	書庫(図書準備室)	既存	ビニル床シート t=2.0+モザイク t=30+コンクリート t=120 【一部撤去】	ビニル巾木 (H=100) 【一部撤去】	壁：EP モザイク t=20+コンクリート t=120 【一部撤去】 フサ壁：EP 石膏ボード t=12.5 (LGS下地 W65) 【撤去】	化粧石膏ボード t=9.5 (LGS下地) 【一部撤去】	塩ビ製 【一部撤去】	2.800	ﾌﾞﾚｯﾄﾞﾊﾞｰﾅｰｼｮﾝ【撤去】、室名札【取外し】 造付本棚×３【撤去】 既存家具・備品 【一部移設】																		
		改修	ビニル床シート t=2.0+モザイク t=30 【一部新設】	ビニル巾木 (H=100) 【一部新設】	EV壁(1時間耐火)：EP 強化石石膏ボード t=21片面二重張り (LGS W100) 【新設】 既存壁：EP 【一部塗替】	化粧石膏ボード t=9.5 (LGS下地) 【一部新設】	塩ビ製 【一部新設】	2.800	ｽﾏｰﾄﾞﾚｯﾄﾊﾞｰﾅｰｼｮﾝ【新設】、室名札【再取付】 ﾌﾞﾗｯｸﾄﾗｯｸ×５(参考：西尾家具工芸社 M-104 同等品) 【新設】、天井点検口【新設】 既存家具・備品 【一部再設置】																		
3F	PC準備室	既存	ビニル床シート t=2.0+モザイク t=30+コンクリート t=120 【一部撤去】	ビニル巾木 (H=100) 【一部撤去】	壁：EP モザイク t=20+コンクリート t=120 【一部撤去】 フサ壁：EP 石膏ボード t=12.5 (LGS下地 W65) 【撤去】	化粧石膏ボード t=9.5 (LGS下地) 【一部撤去】	塩ビ製 【一部撤去】	2.800	ﾌﾞﾚｯﾄﾞﾊﾞｰﾅｰｼｮﾝ【撤去】、室名札【取外し】 既存家具・備品 【一部移設】																		
		改修	ビニル床シート t=2.0+モザイク t=30 【一部新設】	ビニル巾木 (H=100) 【一部新設】	EV壁(1時間耐火)：EP 強化石石膏ボード t=21片面二重張り (LGS W100) 【新設】	化粧石膏ボード t=9.5 (LGS下地) 【一部新設】	塩ビ製 【一部新設】	2.800	ｽﾏｰﾄﾞﾚｯﾄﾊﾞｰﾅｰｼｮﾝ【新設】、室名札【再取付】 天井点検口【新設】 既存家具・備品 【一部再設置】																		
4F	資料室	既存	ビニル床シート t=2.0+モザイク t=30+コンクリート t=120 【一部撤去】	ビニル巾木 (H=100) 【一部撤去】	壁：EP モザイク t=20+コンクリート t=120 【一部撤去】 フサ壁：EP 石膏ボード t=12.5 (LGS下地 W65) 【撤去】	化粧石膏ボード t=9.5 (LGS下地) 【一部撤去】	塩ビ製 【一部撤去】	2.800	ﾌﾞﾚｯﾄﾞﾊﾞｰﾅｰｼｮﾝ【撤去】、室名札【取外し】 ｽﾏｰﾄﾞ棚×１【撤去】、掲示板・背面黒板【撤去】 既存家具・備品 【一部移設】																		
		改修	ビニル床シート t=2.0+モザイク t=30 【一部新設】	ビニル巾木 (H=100) 【一部新設】	EV壁(1時間耐火)：EP 強化石石膏ボード t=21片面二重張り (LGS W100) 【新設】 既存壁：EP 【一部塗替】	化粧石膏ボード t=9.5 (LGS下地) 【一部新設】	塩ビ製 【一部新設】	2.800	ｽﾏｰﾄﾞﾚｯﾄﾊﾞｰﾅｰｼｮﾝ【新設】、室名札【再取付】 天井点検口【新設】 既存家具・備品 【一部再設置】																		
5F	資料室	既存	ビニル床シート t=2.0+モザイク t=30+コンクリート t=120 【一部撤去】	ビニル巾木 (H=100) 【一部撤去】	壁：EP モザイク t=20+コンクリート t=120 【一部撤去】 フサ壁：EP 石膏ボード t=12.5 (LGS下地 W65) 【撤去】	化粧石膏ボード t=9.5 (LGS下地) 【一部撤去】	塩ビ製 【一部撤去】	2.750	ﾌﾞﾚｯﾄﾞﾊﾞｰﾅｰｼｮﾝ【撤去】、室名札【取外し】 掲示板・背面黒板【撤去】 既存家具・備品 【一部移設】																		
		改修	ビニル床シート t=2.0+モザイク t=30 【一部新設】	ビニル巾木 (H=100) 【一部新設】	EV壁(1時間耐火)：EP 強化石石膏ボード t=21片面二重張り (LGS W100) 【新設】 既存壁：EP 【一部塗替】	化粧石膏ボード t=9.5 (LGS下地) 【一部新設】	塩ビ製 【一部新設】	2.750	ｽﾏｰﾄﾞﾚｯﾄﾊﾞｰﾅｰｼｮﾝ【新設】、室名札【再取付】 天井点検口【新設】 既存家具・備品 【一部再設置】																		
2～5F 共通	廊下	既存	ビニル床シート t=2.0+モザイク t=30 【一部撤去】	ビニル巾木 (H=100) 【一部撤去】	壁：EP モザイク t=20+コンクリート t=120 【一部撤去】	化粧石膏ボード t=9.5 (LGS下地) 【一部撤去】	塩ビ製 【一部撤去】	2F～4F：2.800 5F：2.750	天井点検口(2～5F)【撤去】 (2F・5F)冷水器【移設】																		
		改修	ビニル床シート t=2.0+モザイク t=30 【一部新設】	既存のまま	雑壁：EP 石膏ボード t=12.5 (LGS W65) 【新設】 既存壁：EP 【一部塗替】	化粧石膏ボード t=9.5 (LGS下地) 【一部新設】	塩ビ製 【一部新設】	2F～4F：2.800 5F：2.750	天井点検口(2～5F)【新設】 (2F・5F)冷水器【再取付】																		
1～5F 共通	昇降路	既存	—	—	—	—	—	—																			
		改修	ELVﾋﾞｯﾄ：ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾛの上、浸透型塗布防水【新設】	—	LGS W100現し【新設】	ﾛｯｸｳｰﾙ t=30吹付【新設】	—	—																			
■耐火リスト(耐火建築物)				■内装制限リスト(不燃)					■その他特記事項																		
—屋根—					ロックウール t=30 NM-8 6 0 1					床仕上等の接着材は、F☆☆☆☆等級とする																	
内壁 ELVｼｬｯﾄ区画		LGS W100+強化石膏ボード t=21二重張り(片面)(1時間耐火FP06GNP-0189) (吉野石膏Sウォール・100程度)			強化石膏ボードt=21 NM-8 6 1 5					天井裏等に使用する材料はF☆☆☆☆等級以上とする																	
—柱(耐火被覆)—					石膏ボードt=12.5 NM-8 6 1 9					家具類、建具類、建具枠はF☆☆☆☆等級とする																	
梁(耐火被覆)		ロックウール t=25(1時間耐火FP060BM-9408)			化粧石膏ボードt=9.5 NM-1 8 6 4					※アスベスト含有材【レベル3】																	
—床—										該当なし																	
■工事区分表																											
区分表				建築	電気	昇降機	区分表				建築	電気	昇降機	区分表				建築	電気	昇降機							
1	昇降路の築造、防火区画工事			○			10	乗場関係機器取付後の壁、床仕上工事			○			19	その他建築に関する工事			○			-28	エレベーター防火シャッター等の 運動用接点信号の配管・配線の引込工事				○	
2	昇降路の建築構造梁の耐火被覆工事			○			11	ビット防水仕上工事			○			20	動力、照明電源及び設置線引込工事				○		29	昇降路の壁または囲いは間隙無きものとする			○		
3	各階乗場開口工事及び補強工事			○			12	カゴ数居～壁を125mm以内にする銅板設置地下工事			○			21	ビットコンセント設置工事(点検用：必要により防水型)				○		30	エレベータ入口三方枠					○
4	三方枠取付後の裏詰め工事並びに耐火処理工事			○			-13	停止階間が10mを超える場合、昇降路救出口の設置工事(W750xH200)			○			22	煙感知器設置工事				○								
5	三方枠・インゲート等と壁間の塞ぎ板による隙間塞ぎ工事					○	14	ビットが法定又は必要寸法より深い場合の埋め戻し工事			○			23	インターホン用及び監視用配管配線工事 (昇降路制御盤から外部取付位置まで)				○								
6	乗場表示装置等の取付用地下銅板の設置工事			○			-15	ビット点検用タラップの設置工事					○	24	館内放送(スピーカー)付の場合の信号線引込工事				○								
7	機器搬入仮設開口及び搬入後の復旧工事			○			16	ビットに段差がある場合、転落防止柵又は壁の設置工事			○			25	エレベーター遠隔監視用電話回線工事				○								
8	レール取付用プレート設置工事及び錆止塗装			○			17	つり合いおもり側の直下部厚壁工事 ビット下利用がある場合、二重スラブ又は			○			26	その他信号線の昇降路外配管配線工事				○								
9	レール取付用ビーム設置工事			○			-18	屋上、開放廊下等外気と接する乗場雨水まけ対策工事			○			-27	地震時非常着床階の避難通路照明及び非常灯設置工事				○								
千葉市都市局建築部営繕課				工事名称 千葉市立小中台南小学校エレベータ設置工事				設計年月日 令和6年2月日		変更年月日 令和 年 月 日		設計事項 特記事項		変更年月日 令和 年 月 日		設計事項 特記事項		変更年月日 令和 年 月 日		図面名		仕上表		縮尺	A1：— A3：—	図面番号	A-02

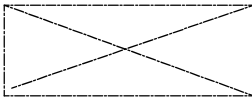
改修範囲：詳細図参照



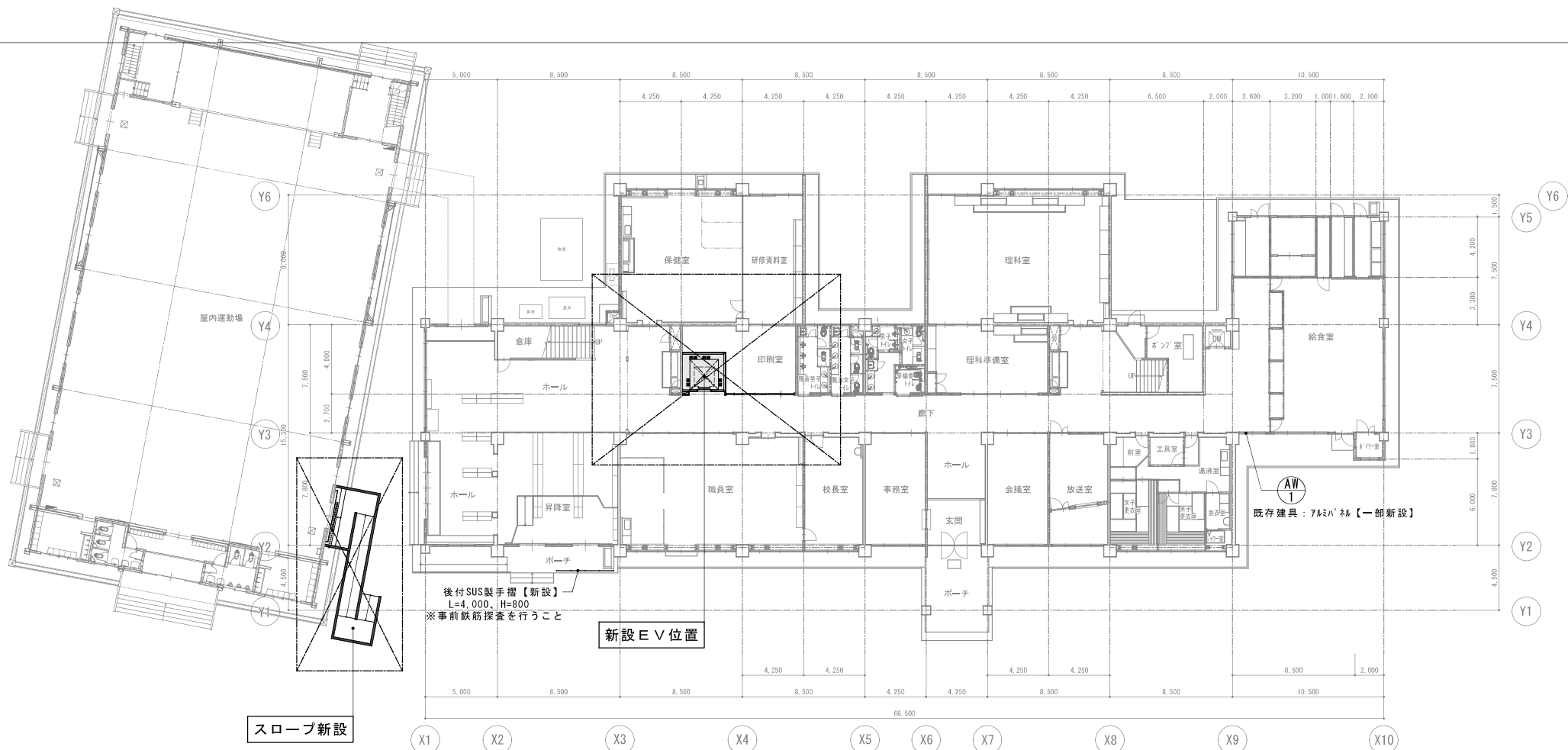
撤去図



改修範囲：詳細図参照



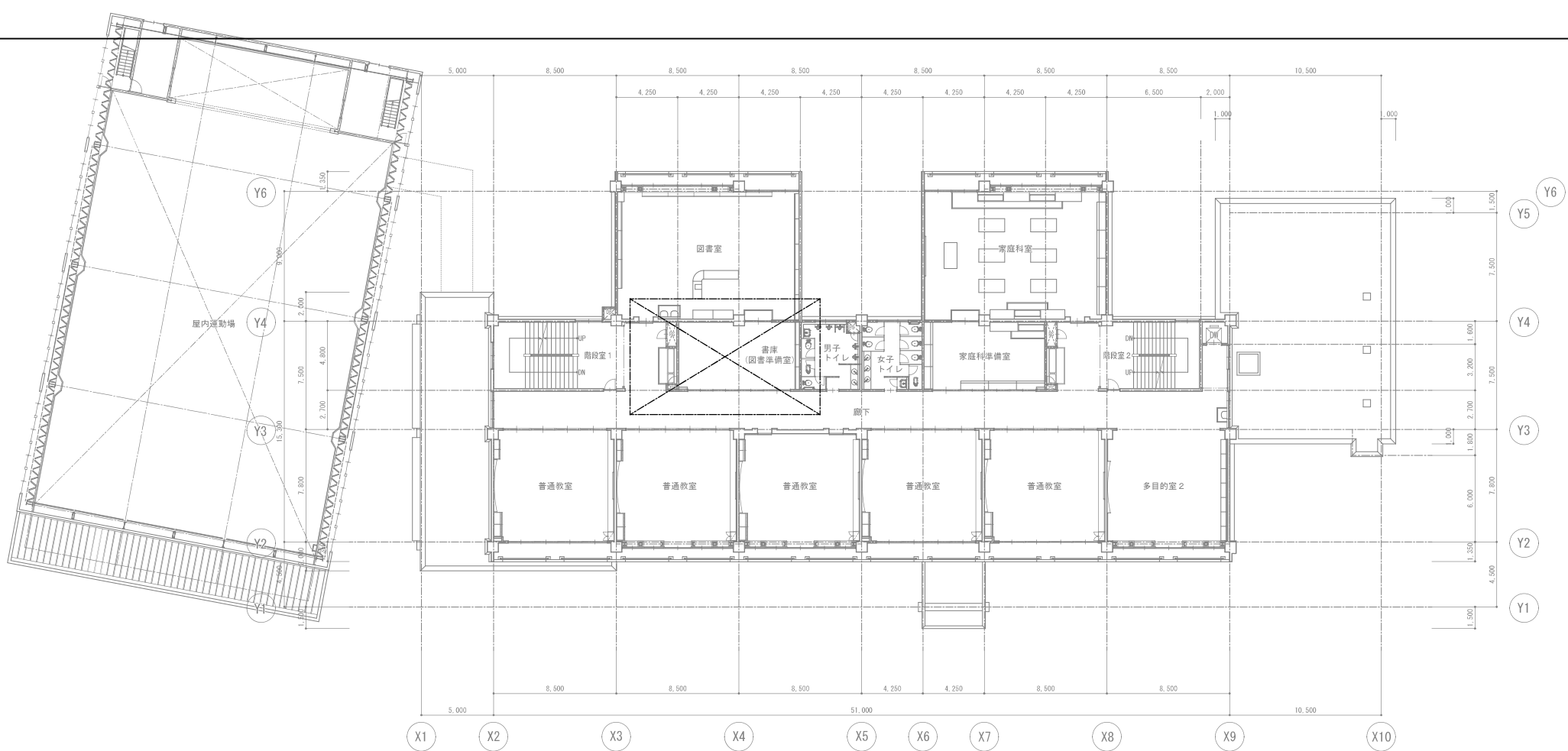
改修図



改修範囲：詳細図参照



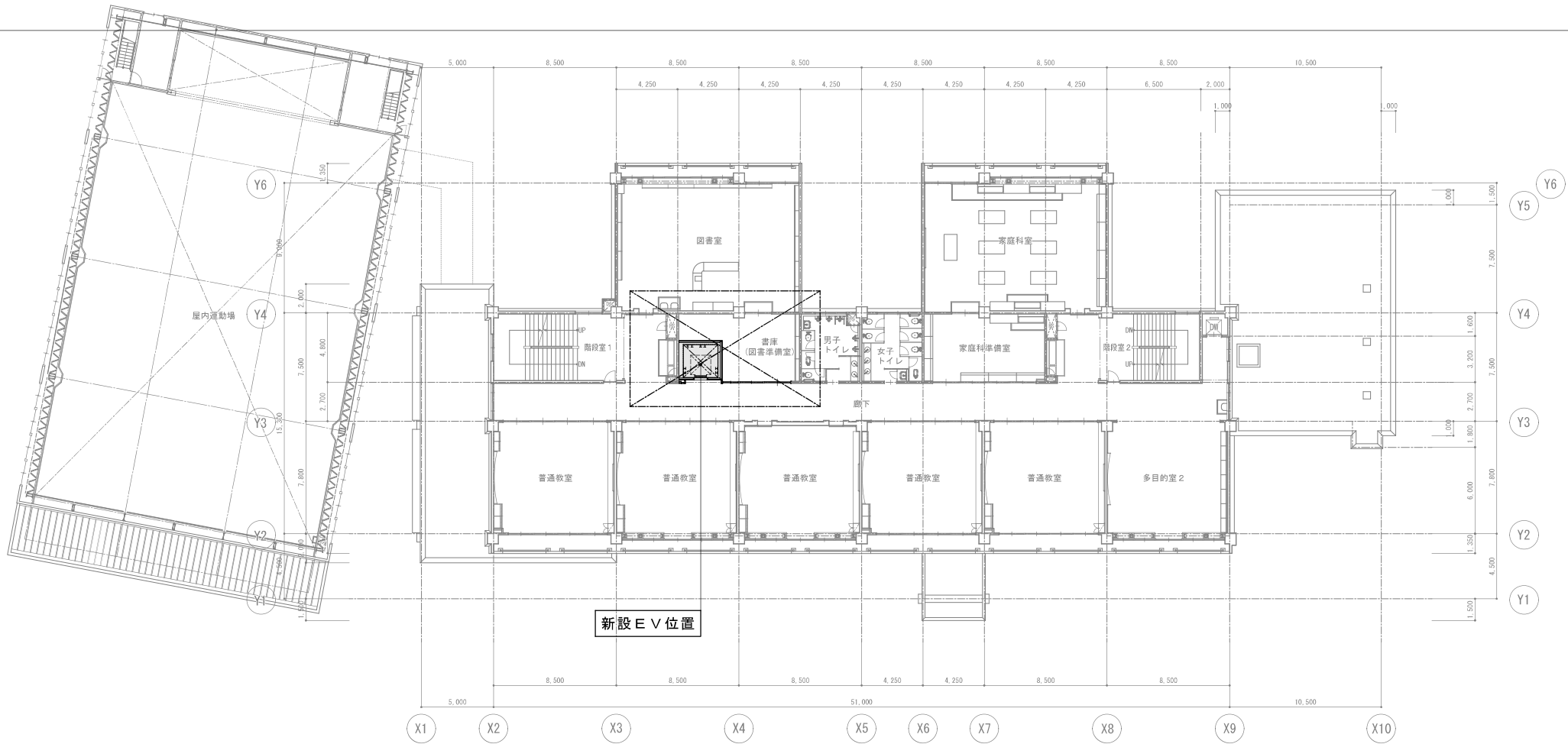
撤去図



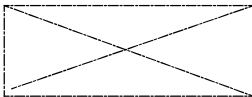
改修範囲：詳細図参照



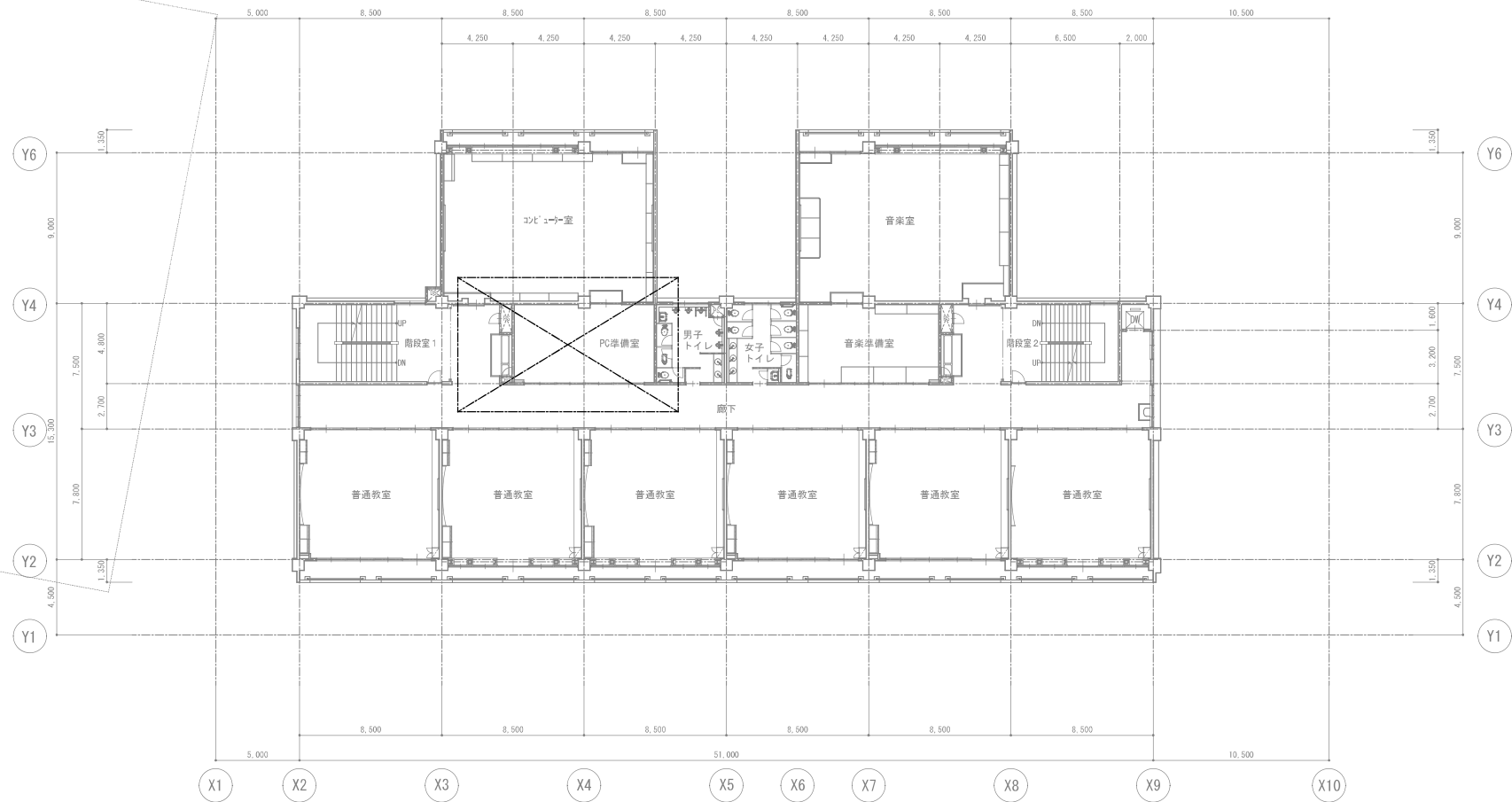
改修図



改修範囲：詳細図参照



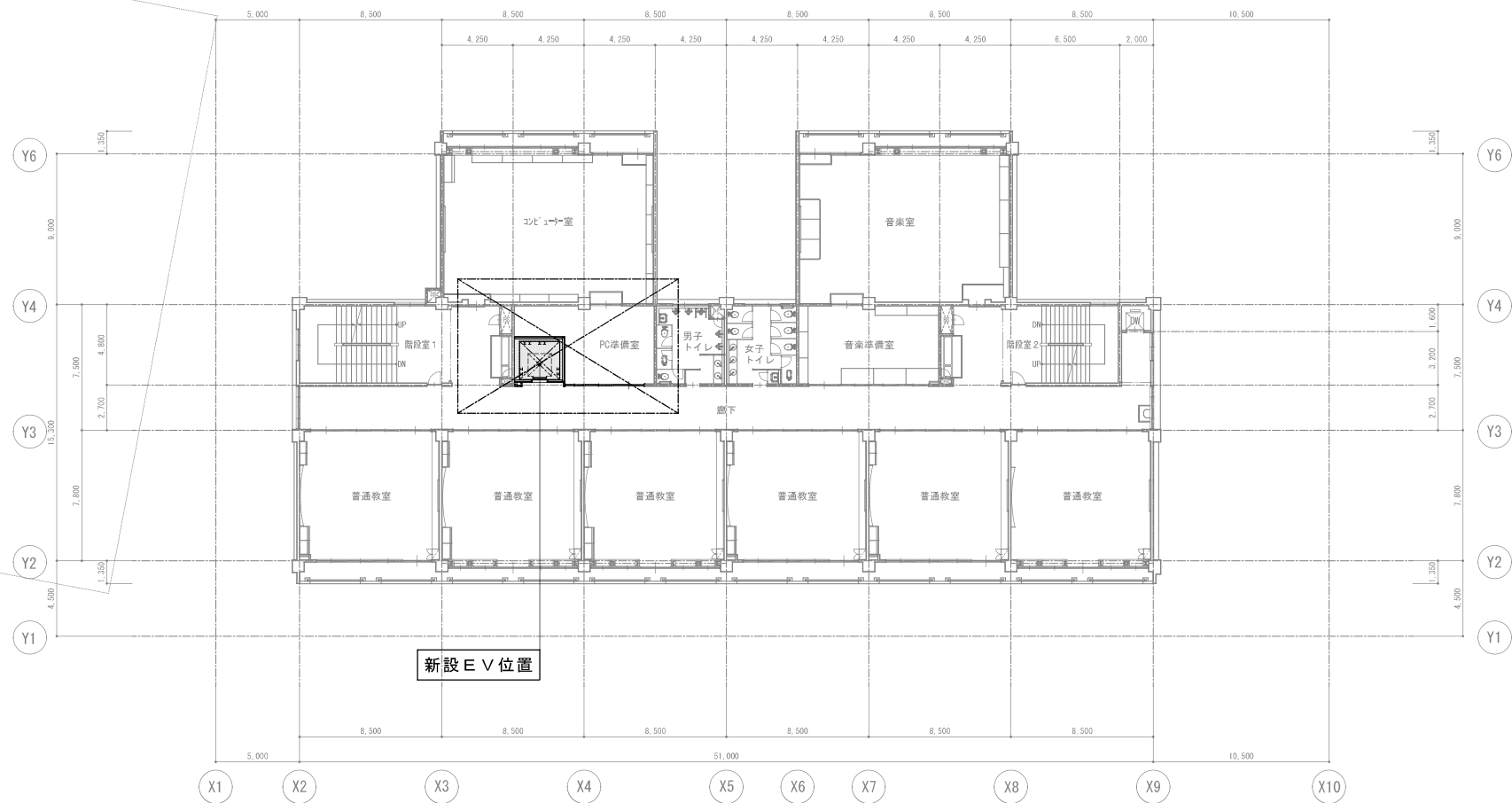
撤去図



改修範囲：詳細図参照

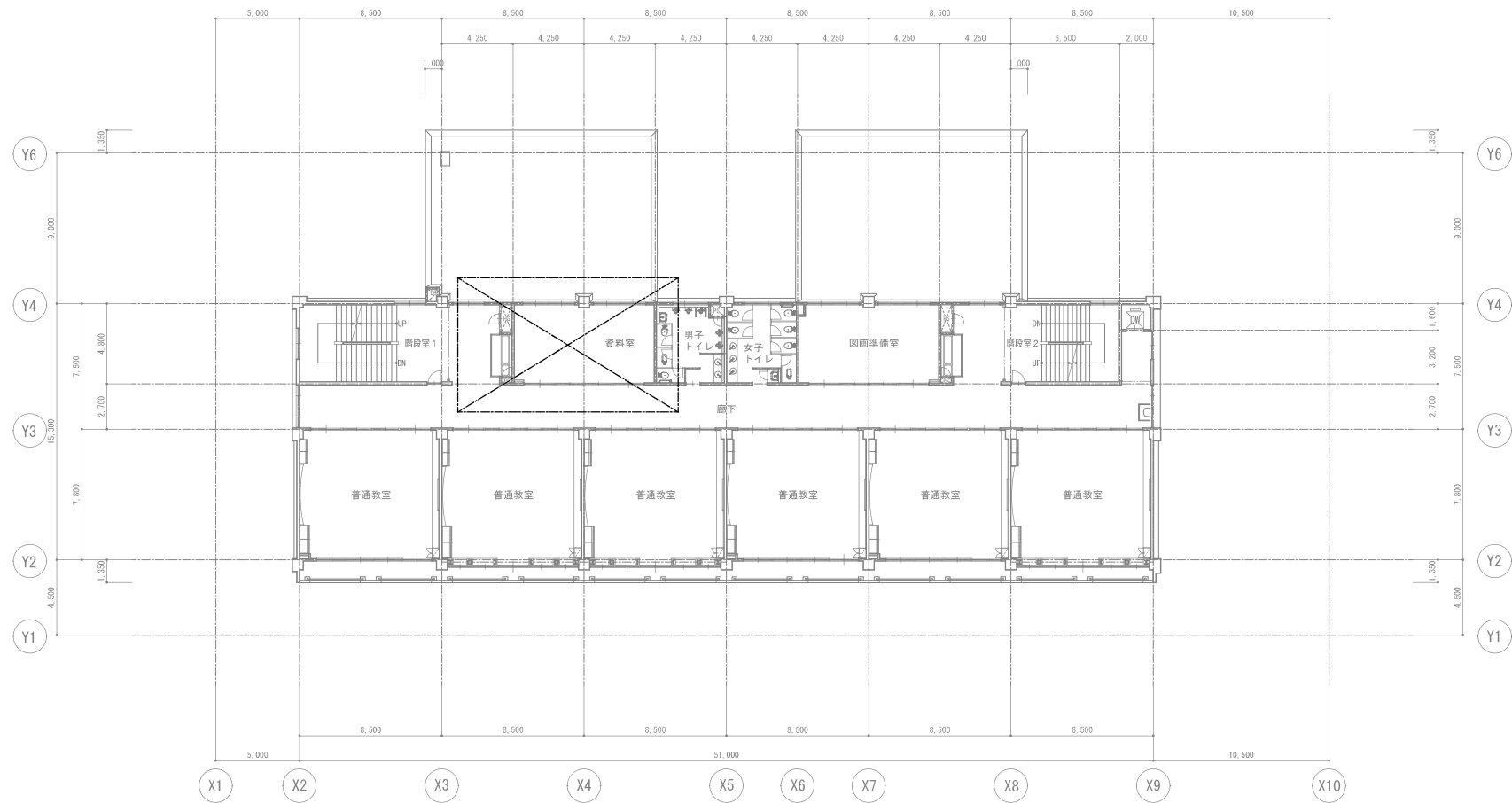


改修図



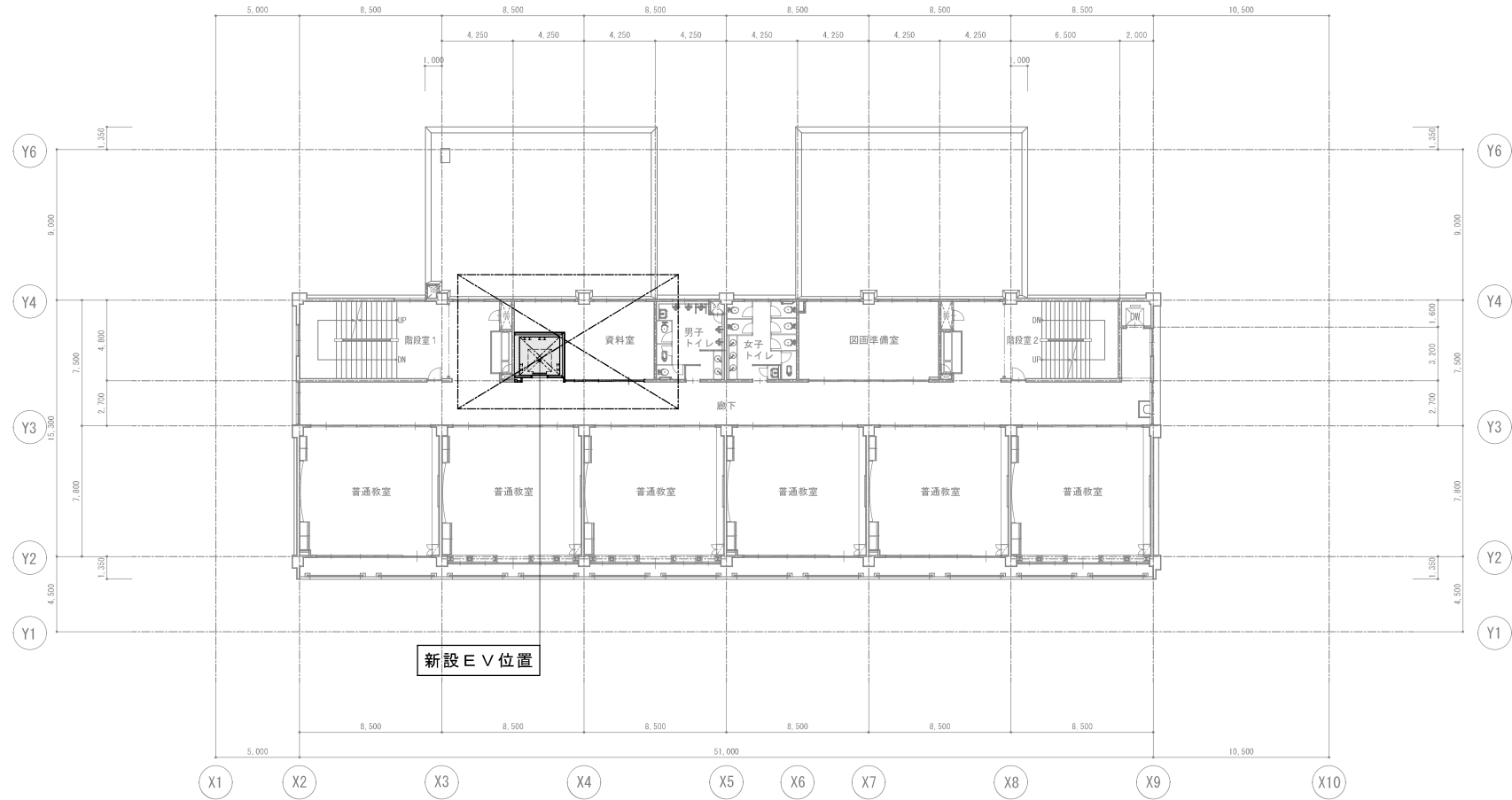
改修範囲：詳細図参照

撤去図



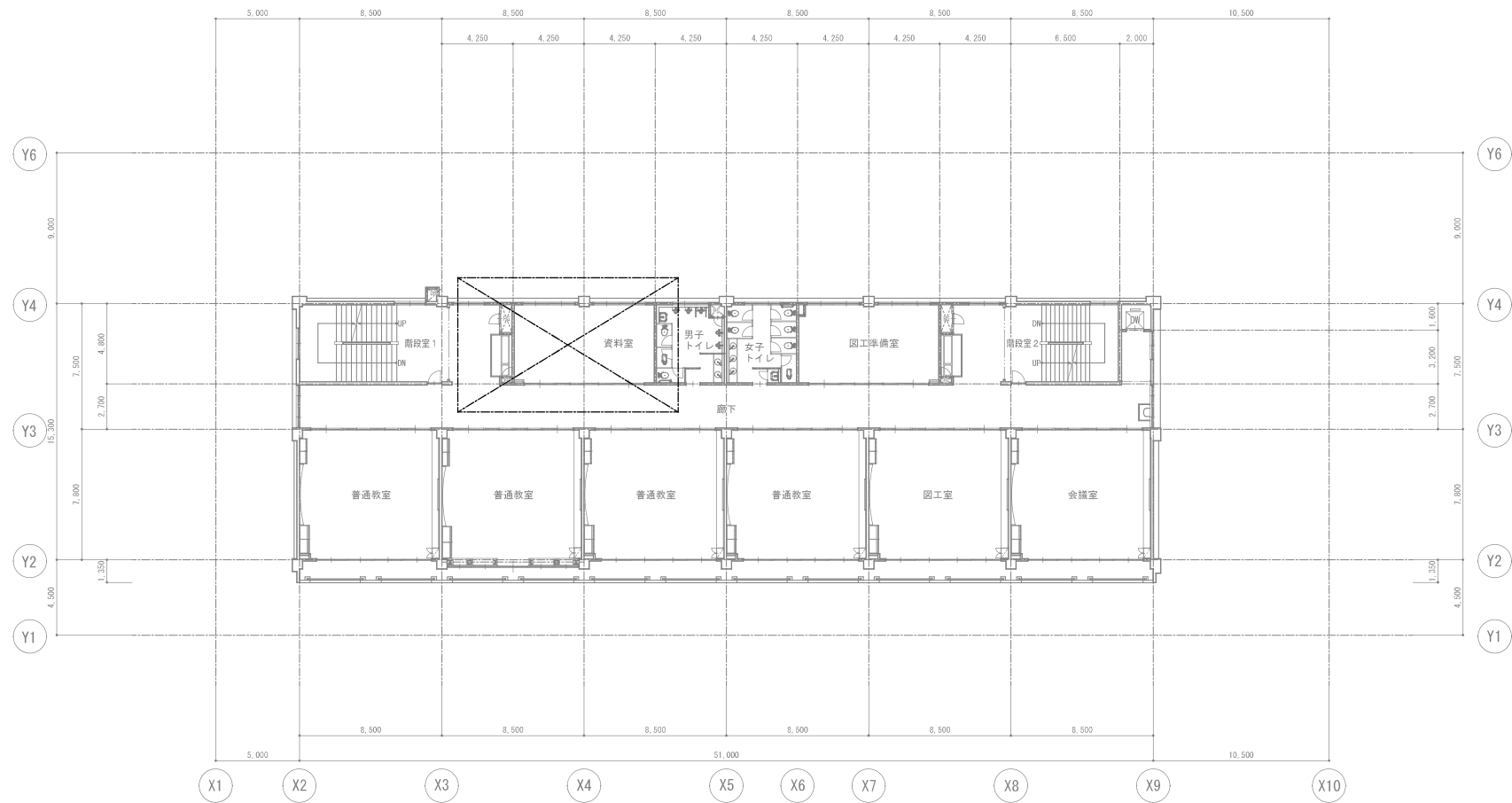
改修範囲：詳細図参照

改修図



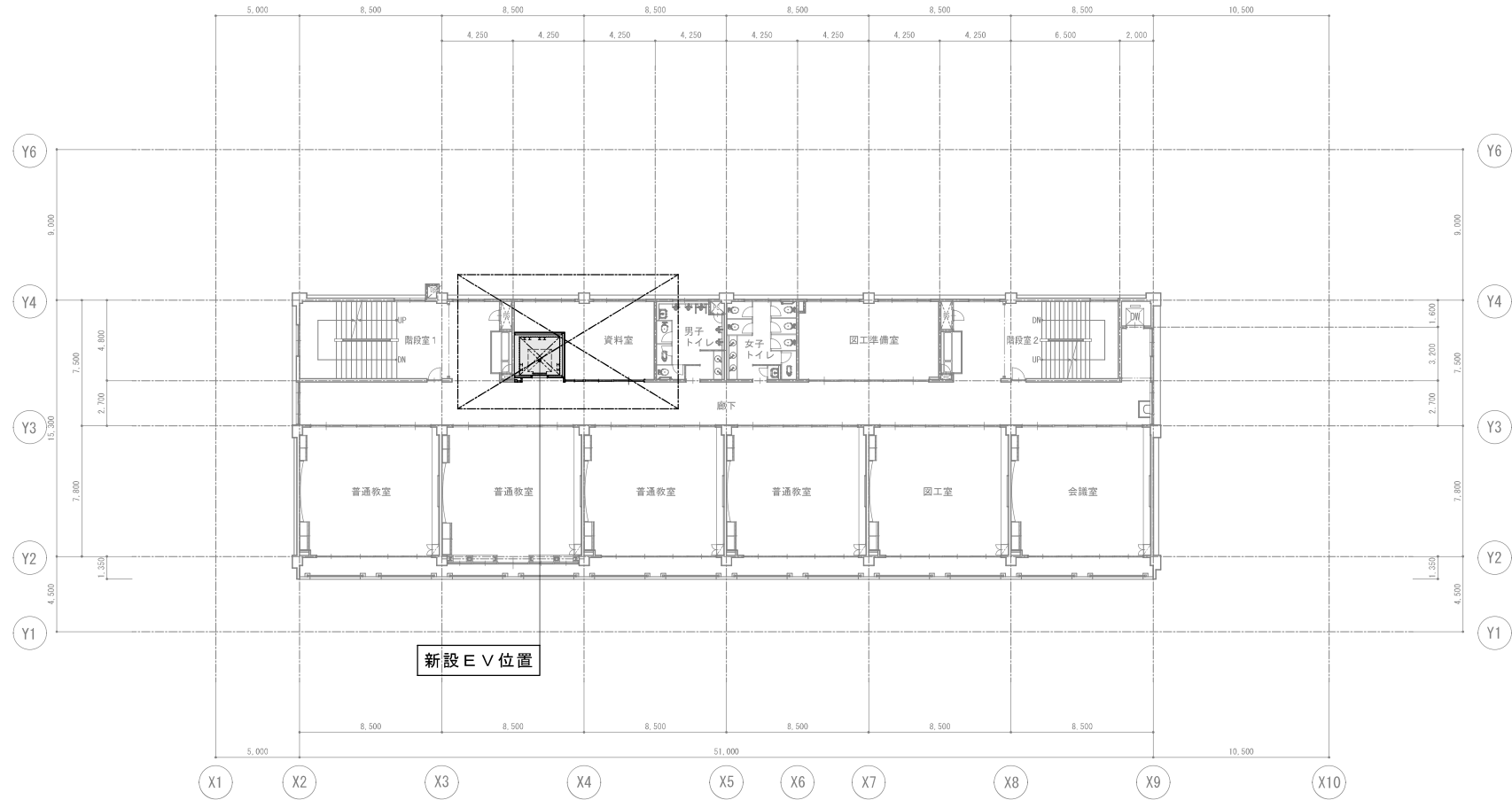
改修範囲：詳細図参照

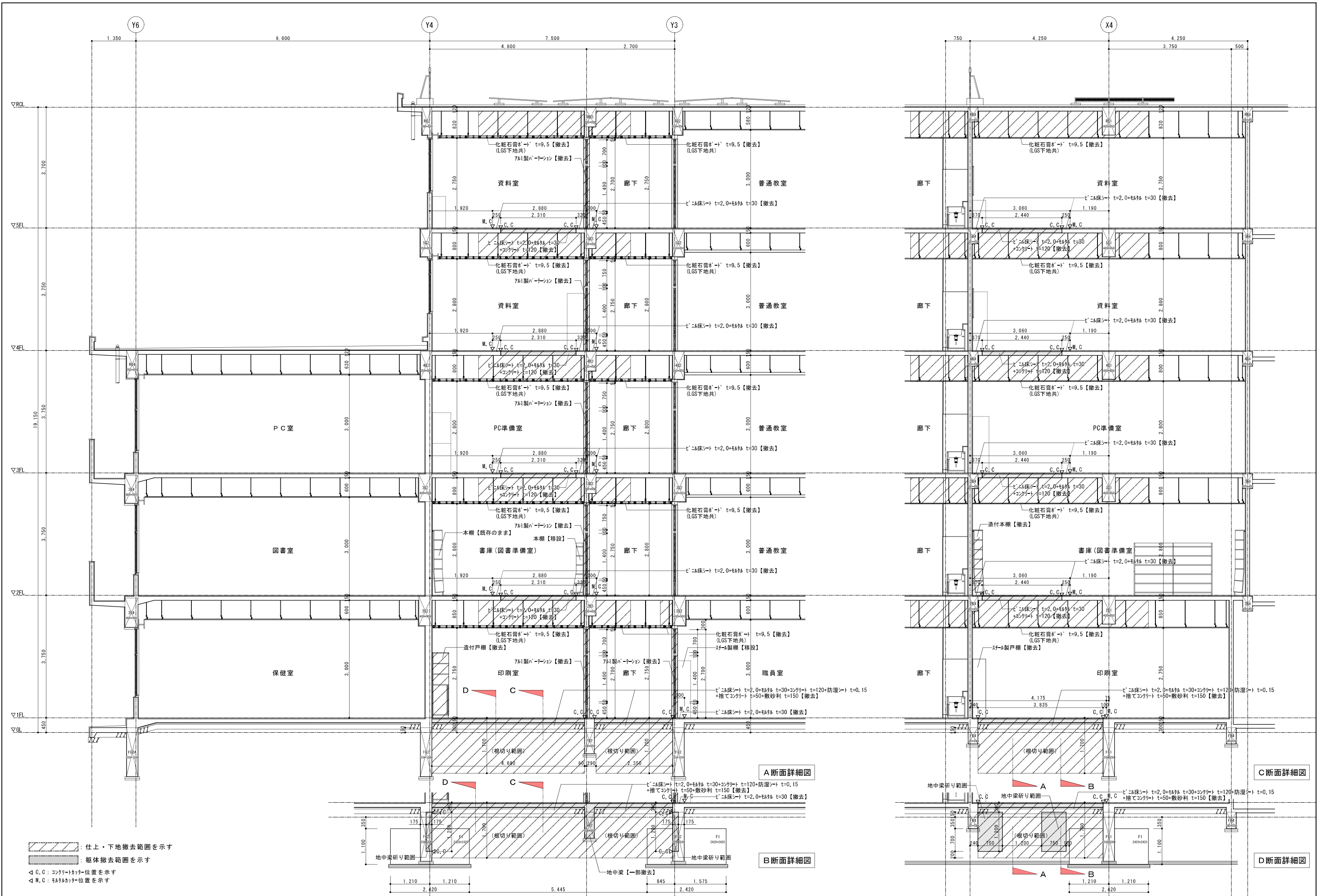
撤去図



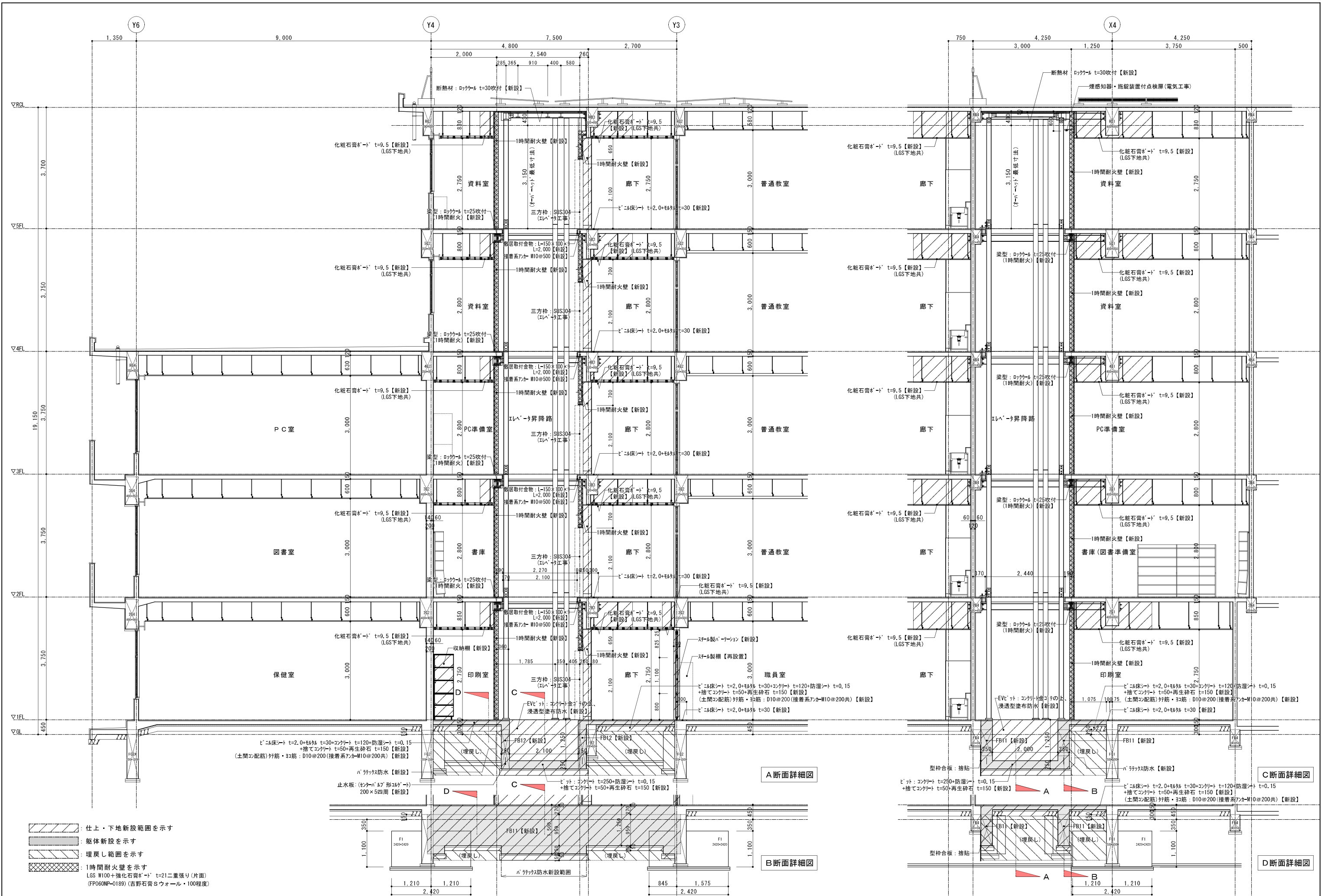
改修範囲：詳細図参照

改修図





千葉市都市局建築部営繕課		工事名称 千葉市立小中台南小学校エレベータ設置工事		設計年月日 令和 6年 2月 日	変更年月日 令和 年 月 日	設計者 特記事項	図 面 名 断面詳細図 (撤去図)	縮 尺 A1 : 1/50 A3 : 1/100	図 面 番 号 A-08
--------------	--	------------------------------	--	---------------------	-------------------	-------------	----------------------------	-----------------------------------	--------------------------





- 仕上・下地新設範囲を示す
- 躯体新設を示す
- 埋戻し範囲を示す
- 1時間耐火壁を示す
LGS W100+強化石膏ボード t=21二重張り(片面)
(FP060NP-0189) (吉野石膏Sウォール・100程度)

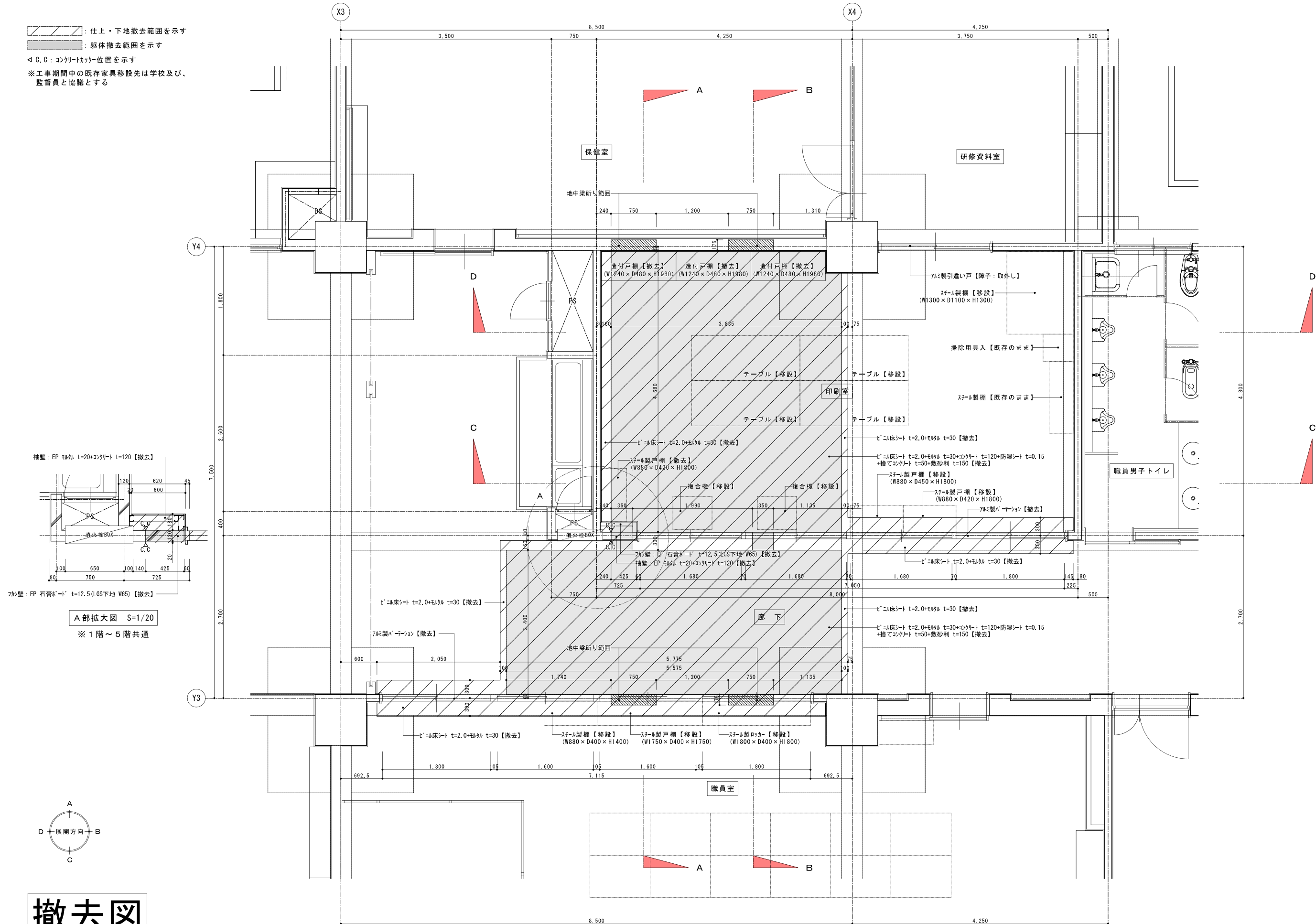
A断面詳細図

B断面詳細図

C断面詳細図

D断面詳細図

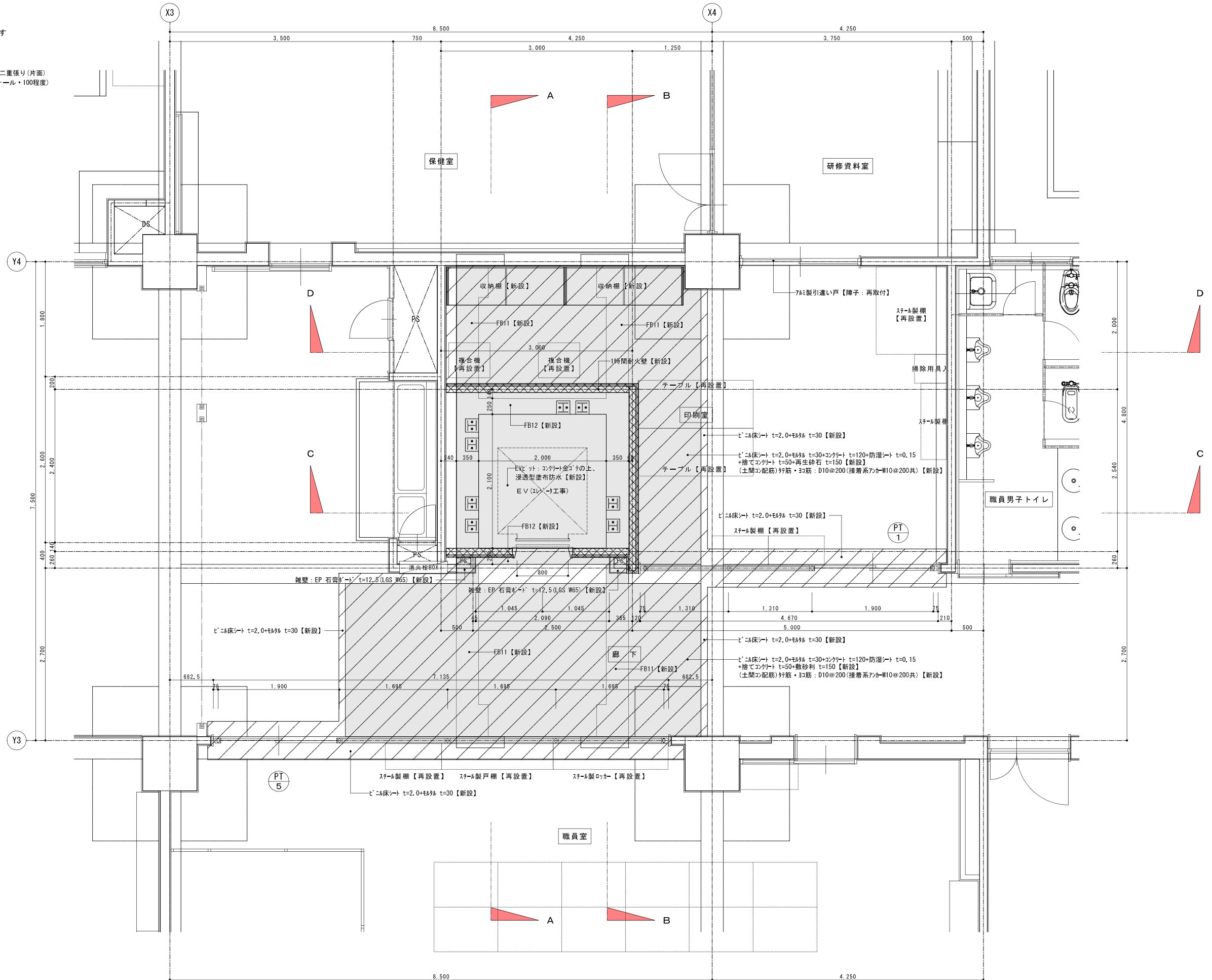
 : 仕上・下地撤去範囲を示す
 : 躯体撤去範囲を示す
△C.C. : コンクリートカッター位置を示す
※工事期間中の既存家具移設先は学校及び、監督員と協議とする



撤去図

- 仕上・下地新設範囲を示す
- 躯体新設を示す
- 1時間耐火壁を示す
LGS W100+強化石膏ボード t=21二重張り(片面)
(FP060NP-0189) (吉野石膏Sウォール・100程度)

※再設置する棚等は壁や床に金具で固定すること
(可動式の場合は除く)



改修図

千葉市都市局建築部営繕課

工事名称
千葉市立小中台南小学校エレベータ設置工事

設計年月日
令和 6年 2月 日

変更年月日
令和 年 月 日

変更年月日
令和 年 月 日

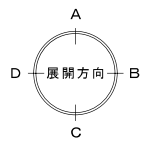
図面名
1階平面詳細図(改修図)

縮尺
A1 : 1/30
A3 : 1/60

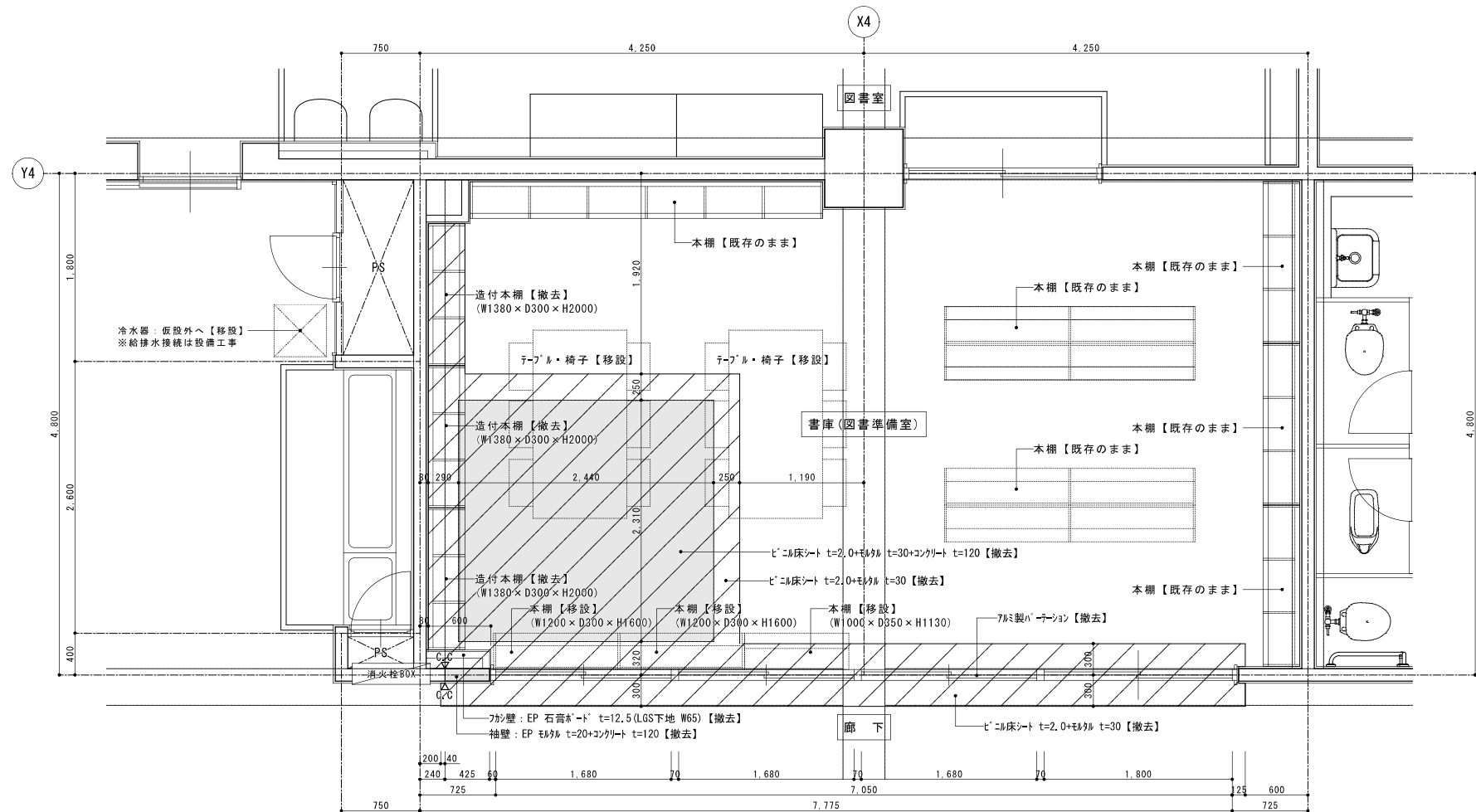
図面番号
A-11

撤去図

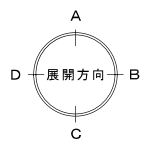
撤去範囲を示す
撤去範囲を示す
コンクリート位置を示す
※工事期間中の既存家具移設先は学校及び、
監督員と協議とする



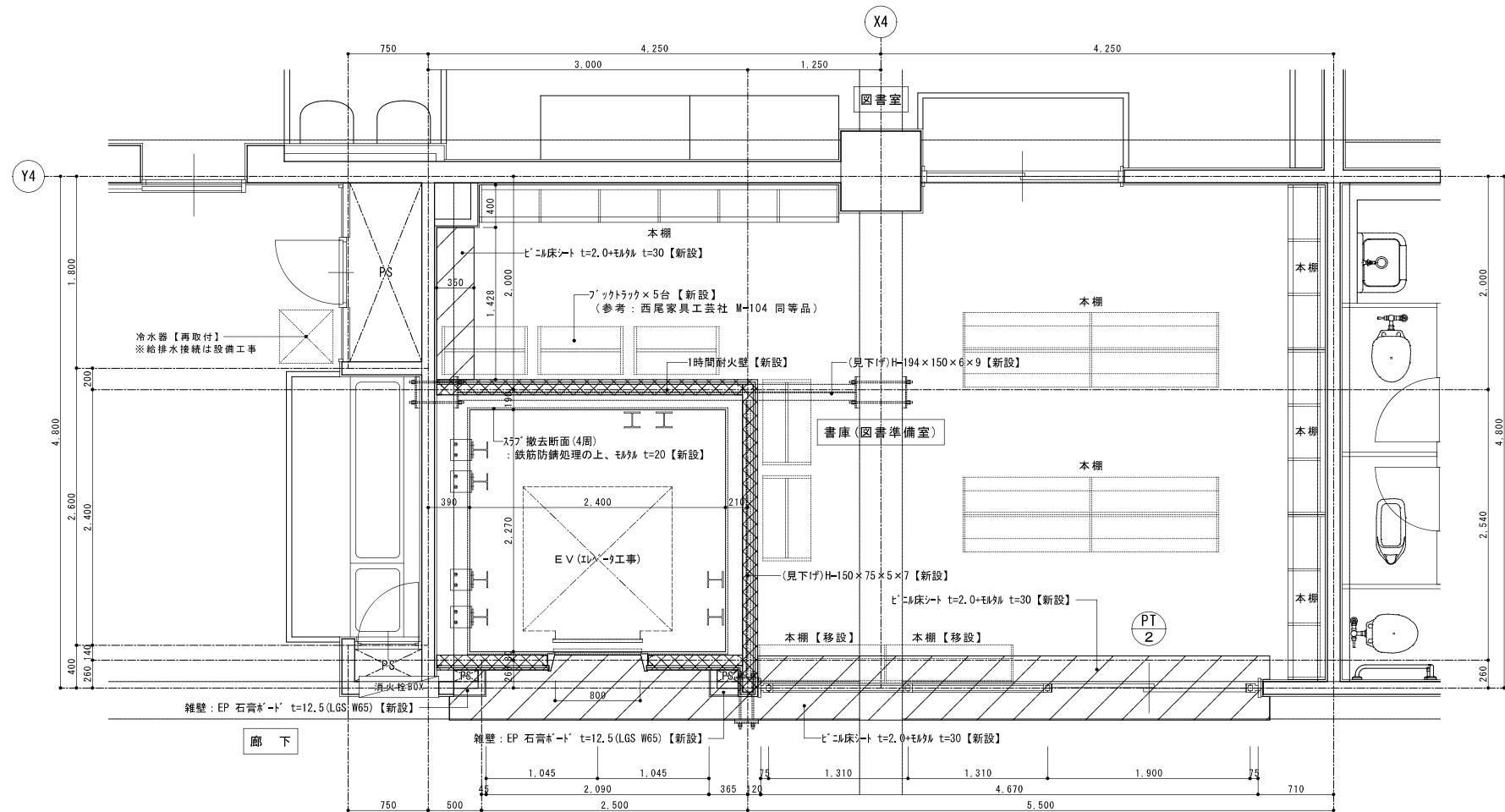
撤去図

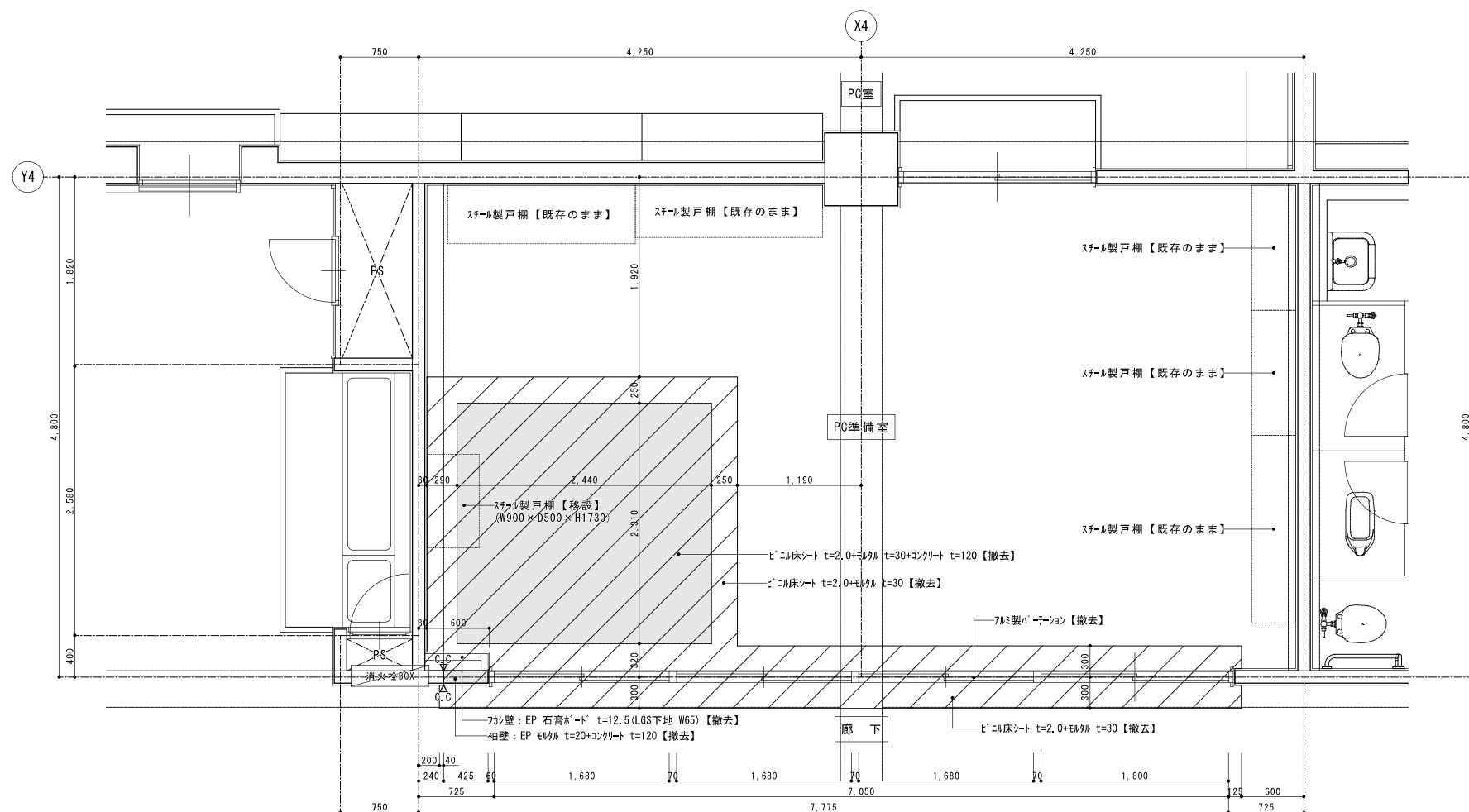


新設範囲を示す
1時間耐火壁を示す
LGS W100+強化石膏ボード t=21二重張り (片面)
(FP060NP-0189) (吉野石膏 Sウォール・100程度)
※再設置する棚等は壁や床に金具で固定すること
(可動式のものは除く)





改修図

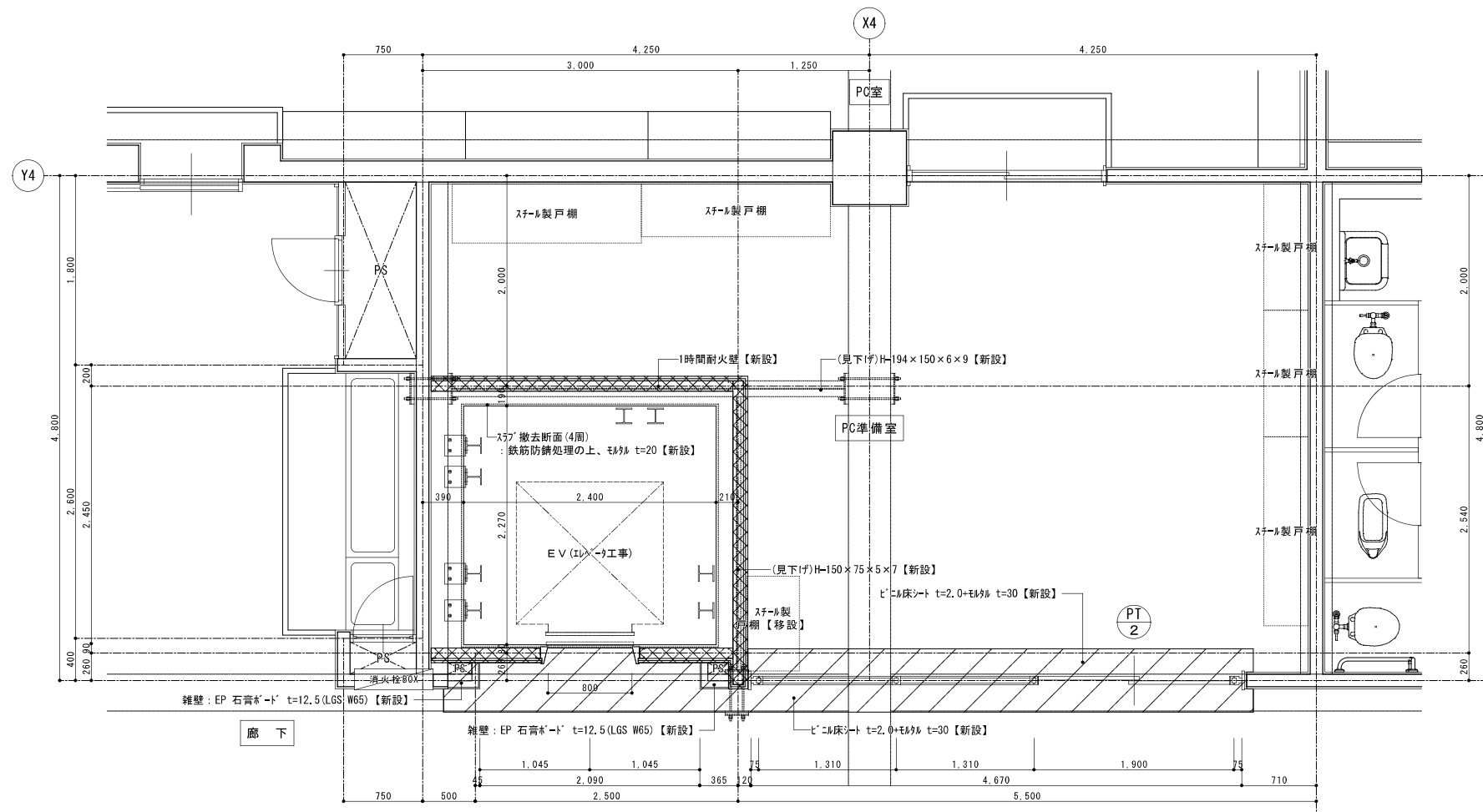






撤去図

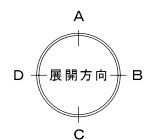
 : 仕上・下地新設範囲を示す
 : 1時間耐火壁を示す
 LGS W100+強化石膏ボード t=21重張り(片面)
 (FP60NP-0189) (吉野石膏Sウォール・100程度)

※再設置する棚等は壁や床に金具で固定すること
(可動式のものは除く)

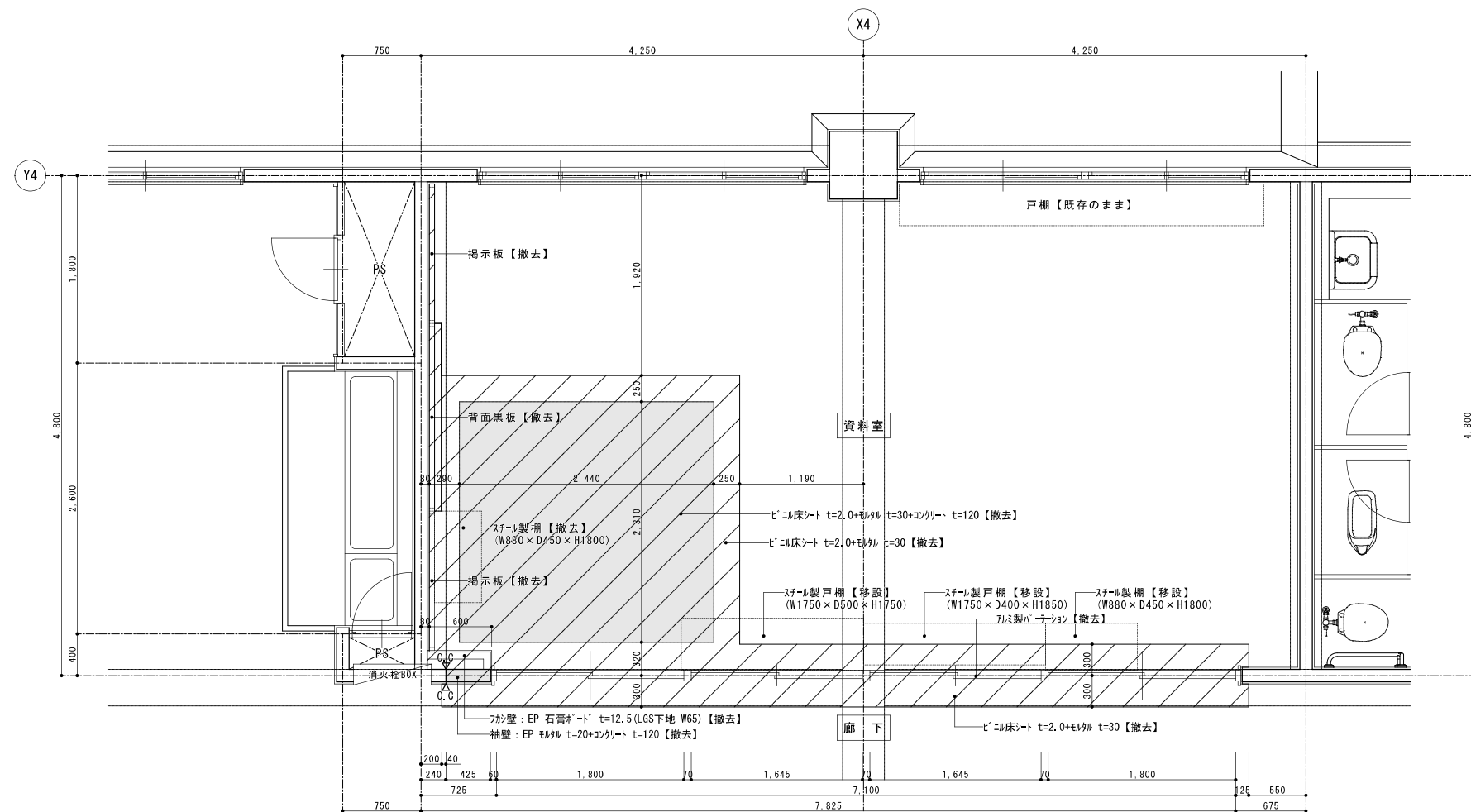




改修図

 : 仕上・下地撤去範囲を示す
 : 躯体撤去範囲を示す
 ≪ C.C. : コンクリートカー位置を示す
 ※工事期間中の既存家具移設先は学校及び、監督員と協議とする

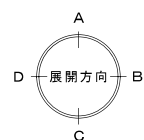


撤去図

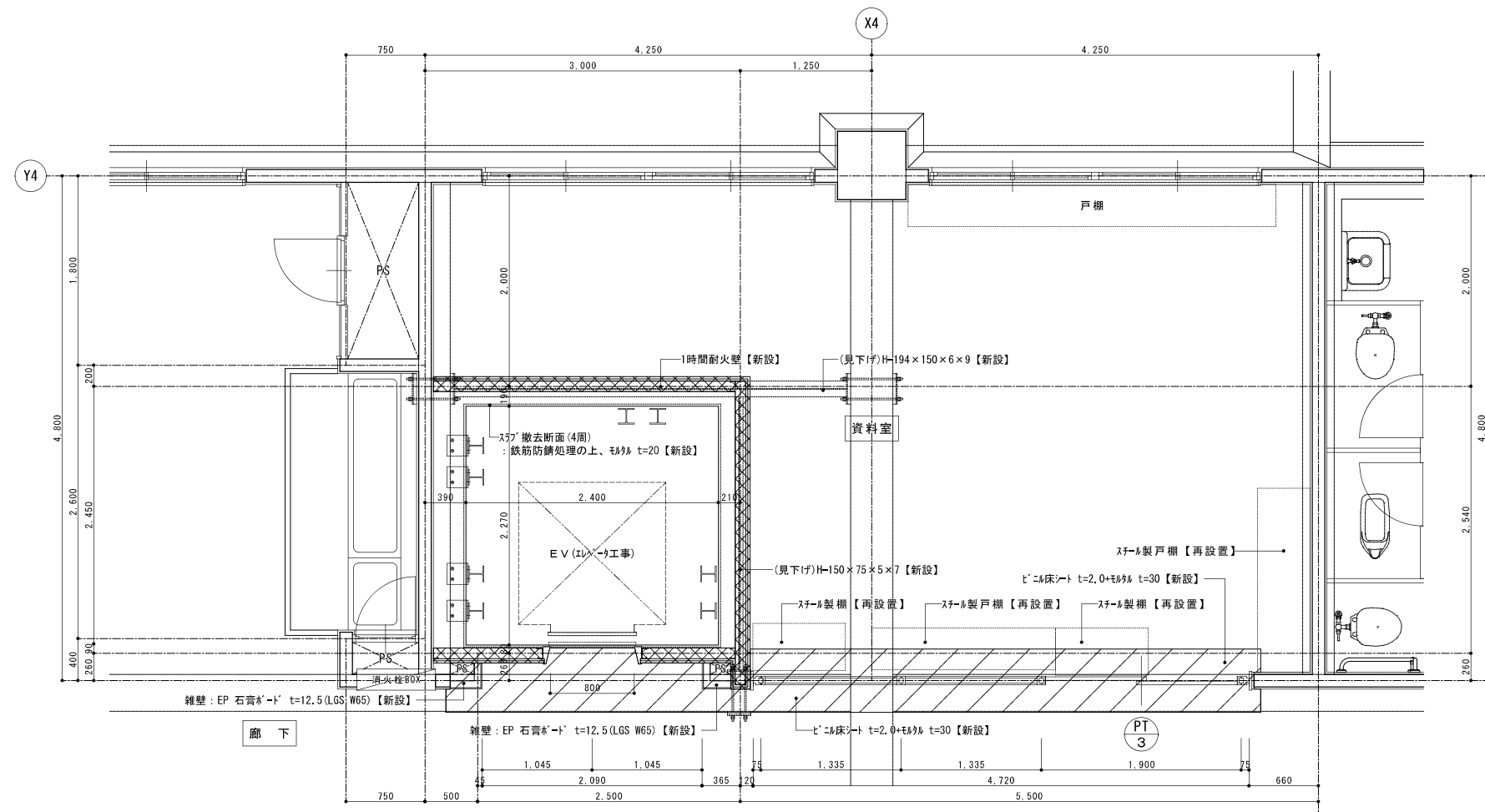


 : 仕上・下地新設範囲を示す
 : 1時間耐火壁を示す
 LGS W100+強化石膏ボード t=21重張り(片面)
 (FP60NP-0189) (吉野石膏Sウォール・100程度)

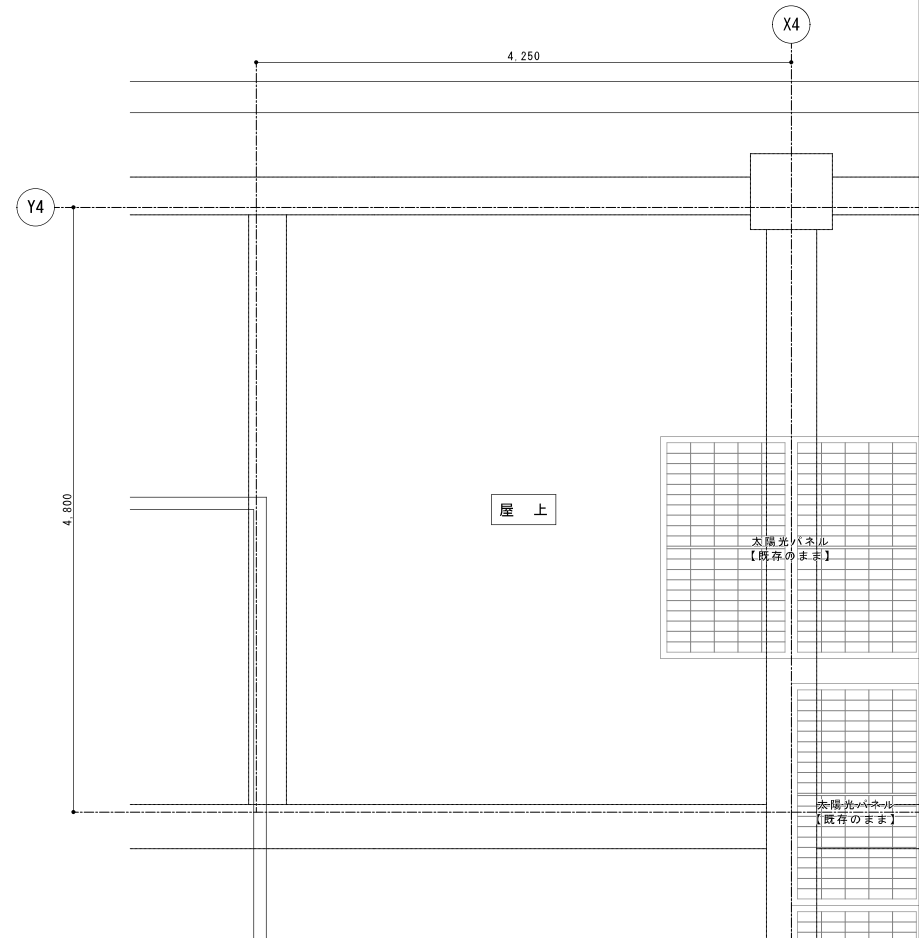
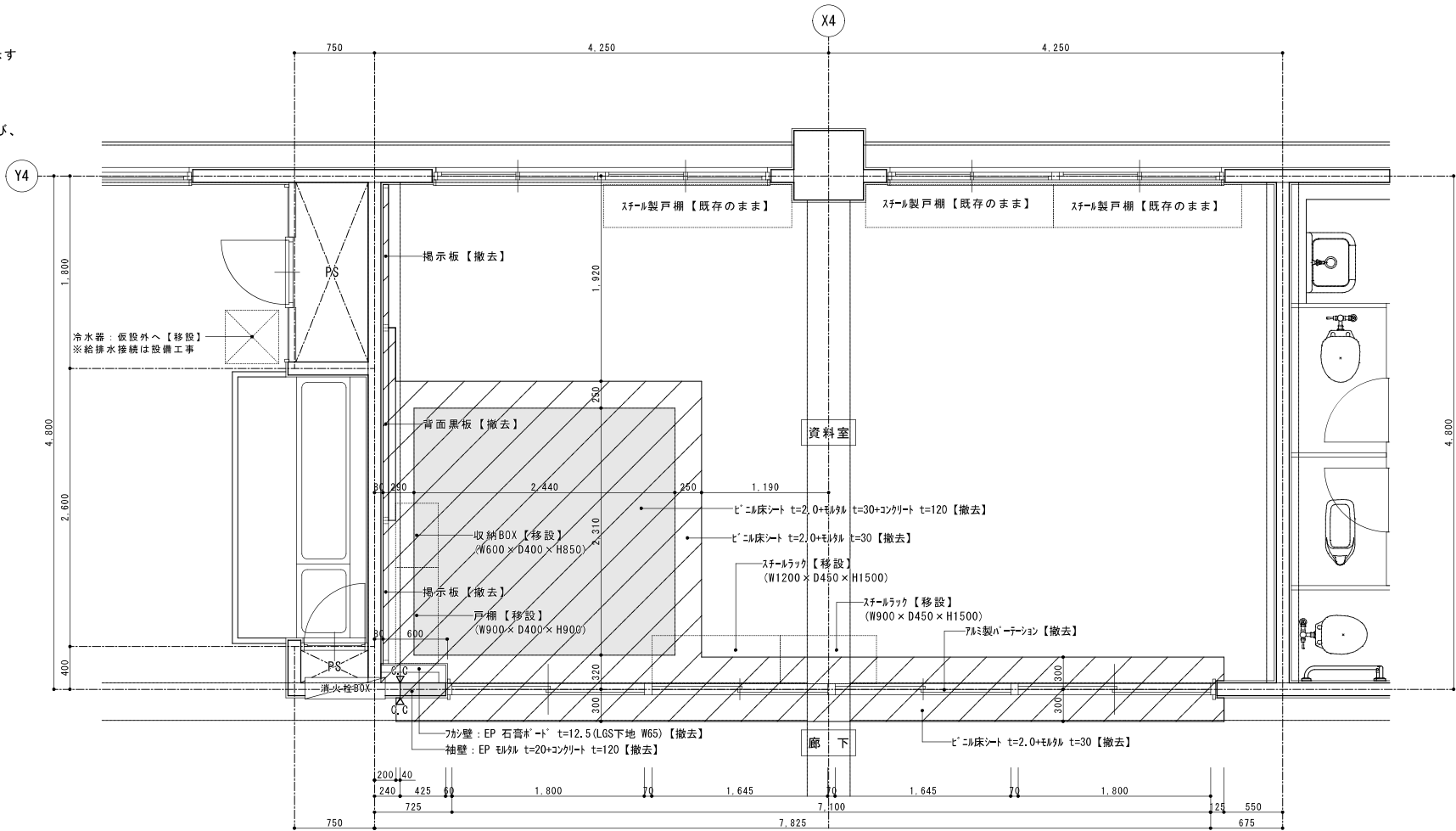
※再設置する棚等は壁や床に金具で固定すること
(可動式のもの除く)



改修図

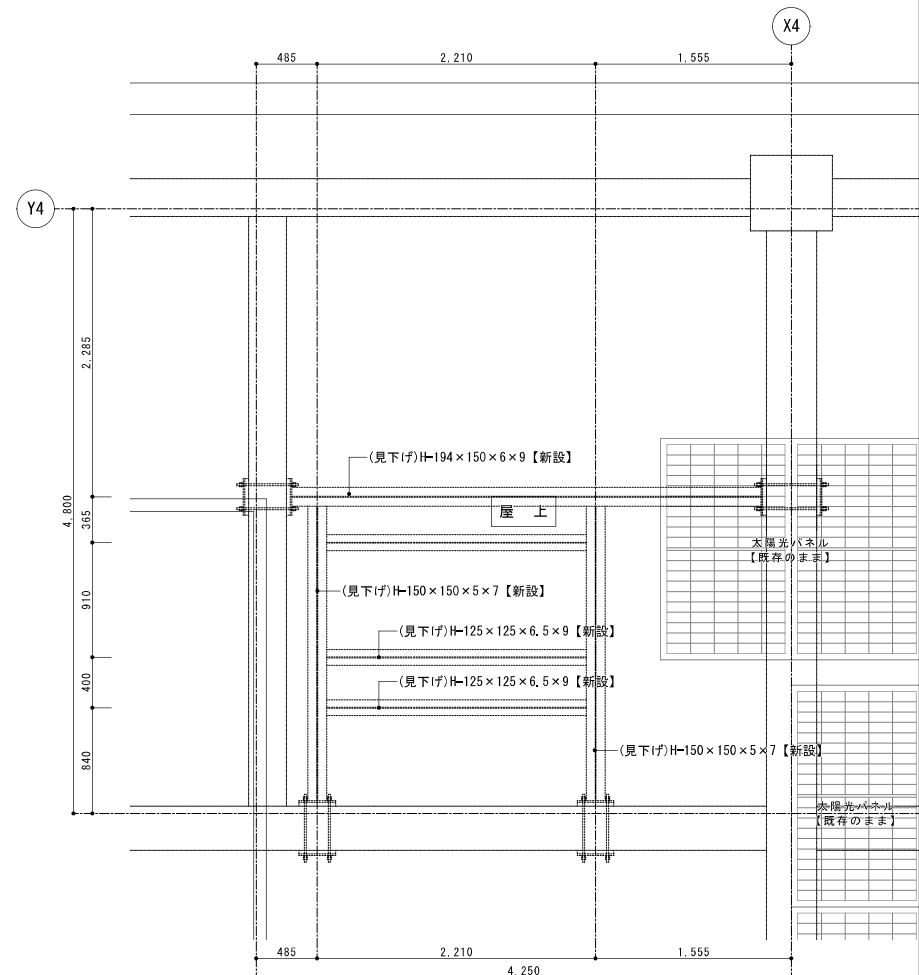
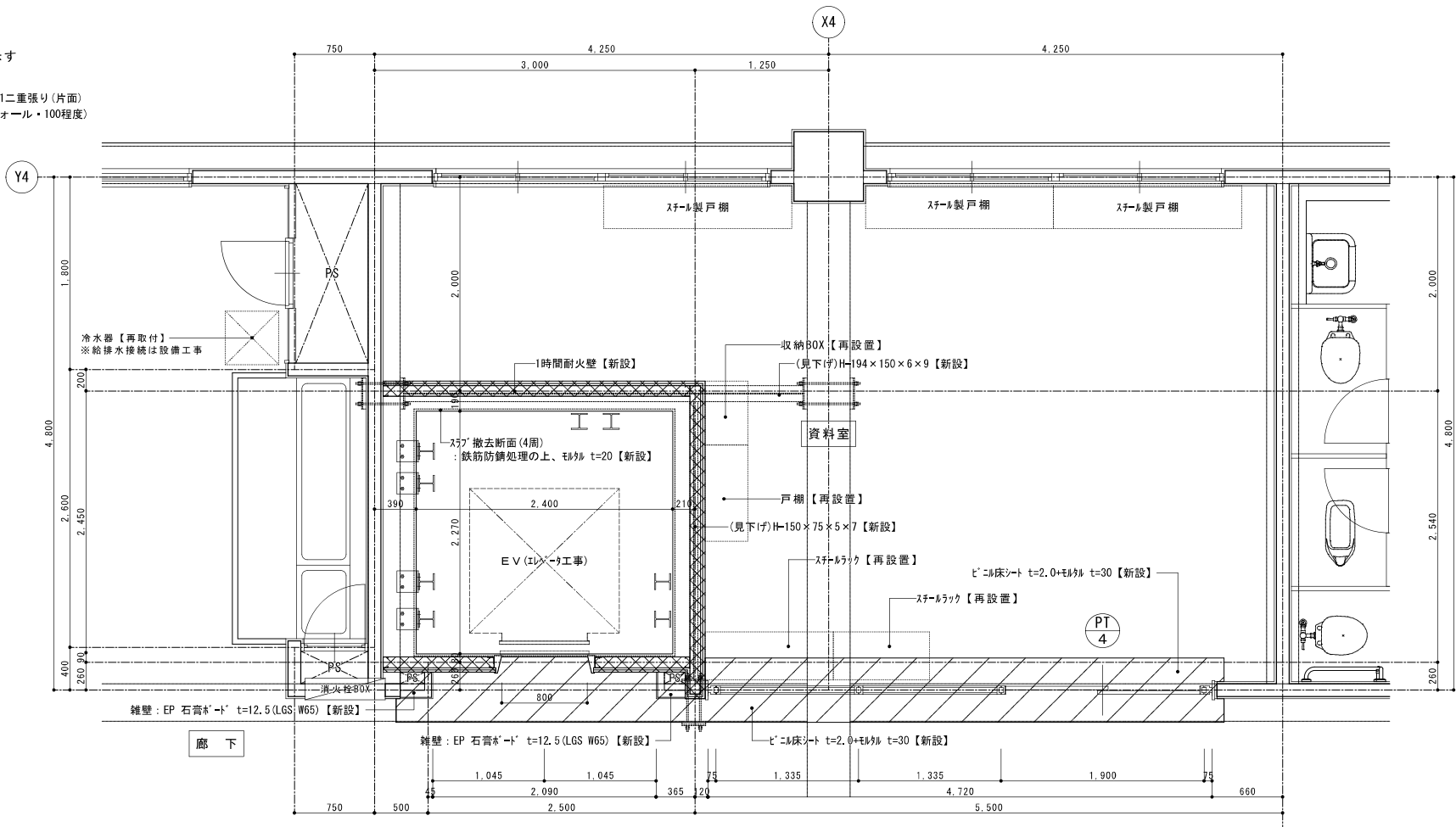


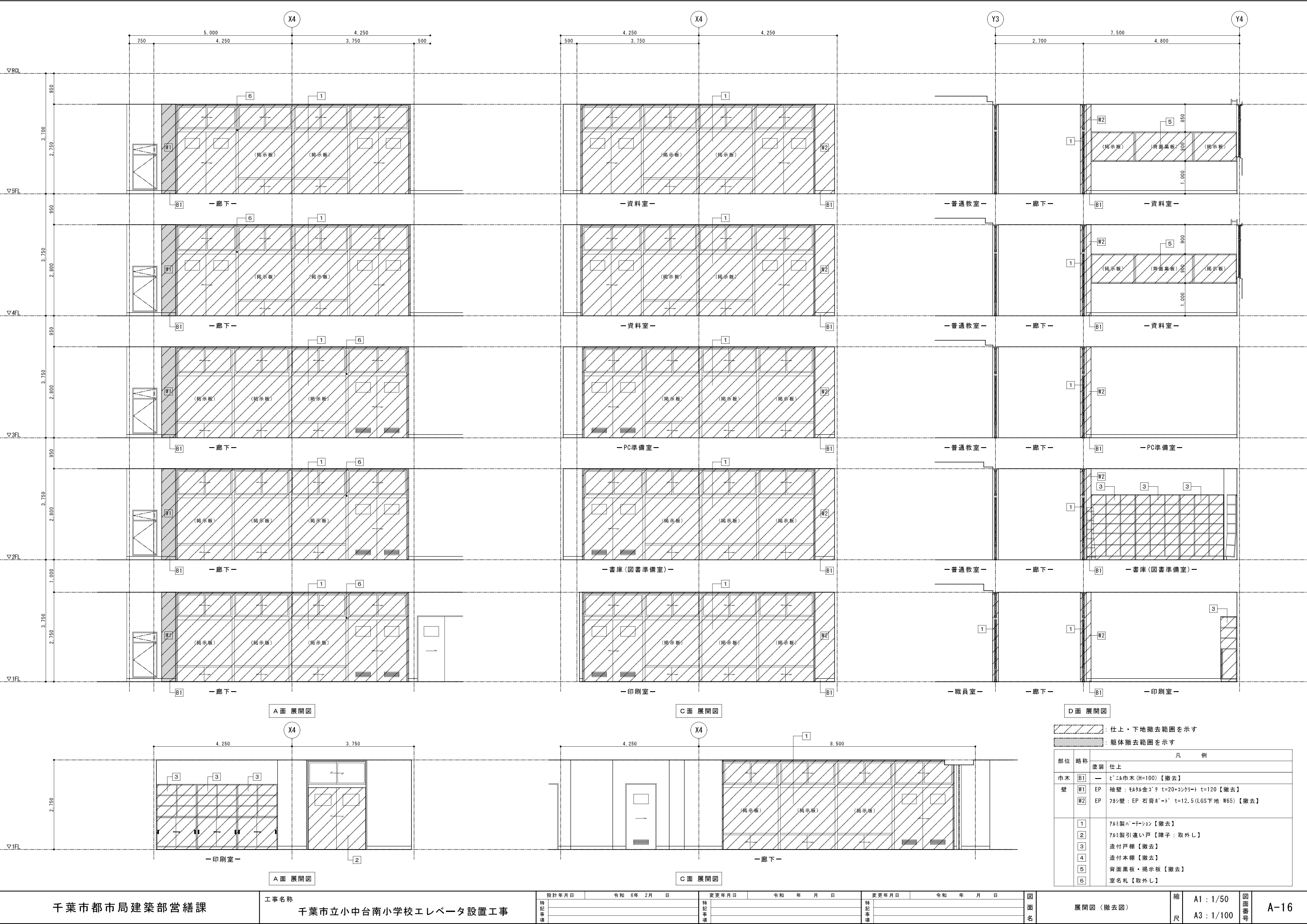
撤去図



改修図

※再設置する棚等は壁や床に金具で固定すること
(可動式の場合は除く)





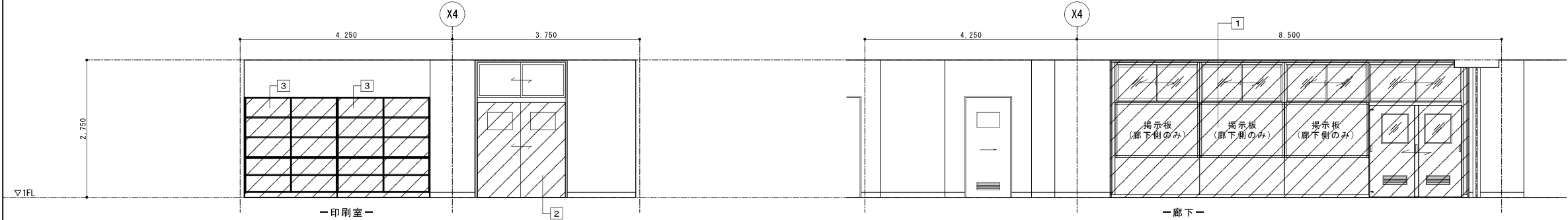
		仕上・下地撤去範囲を示す	
		躯体撤去範囲を示す	
部位	略称	凡 例	
巾木	B1	塗装	仕上
壁	W1	EP	ビニル巾木(H=100)【撤去】
	W2	EP	袖壁：モルタル金ゴテ t=20+コンクリート t=120【撤去】
	W2	EP	フタ壁：EP 石膏ボード t=12.5(LGS下地 W65)【撤去】
	1	アルミ製パーテーション【撤去】	
	2	アルミ製引違い戸【障子：取外し】	
	3	造付戸棚【撤去】	
	4	造付本棚【撤去】	
	5	背面黒板・掲示板【撤去】	
	6	室名札【取外し】	



A面 展開図

C面 展開図

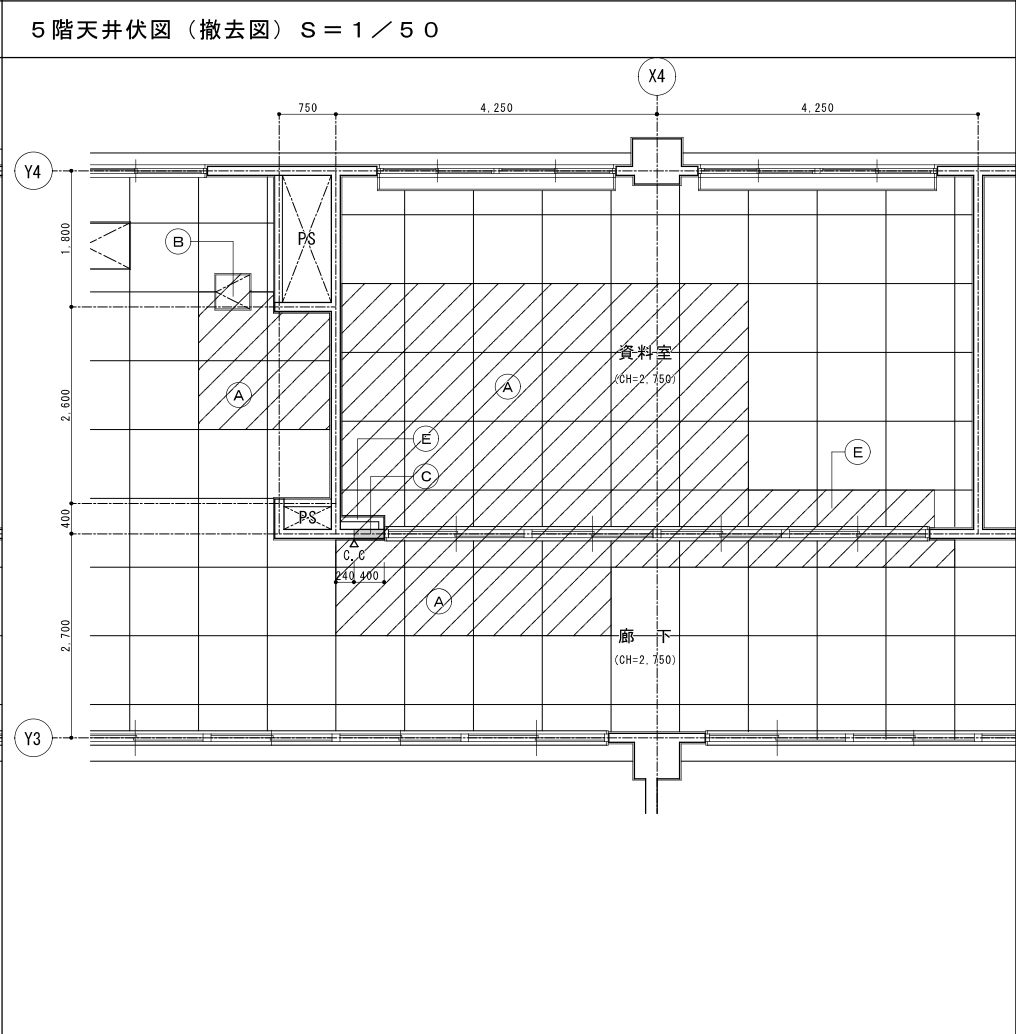
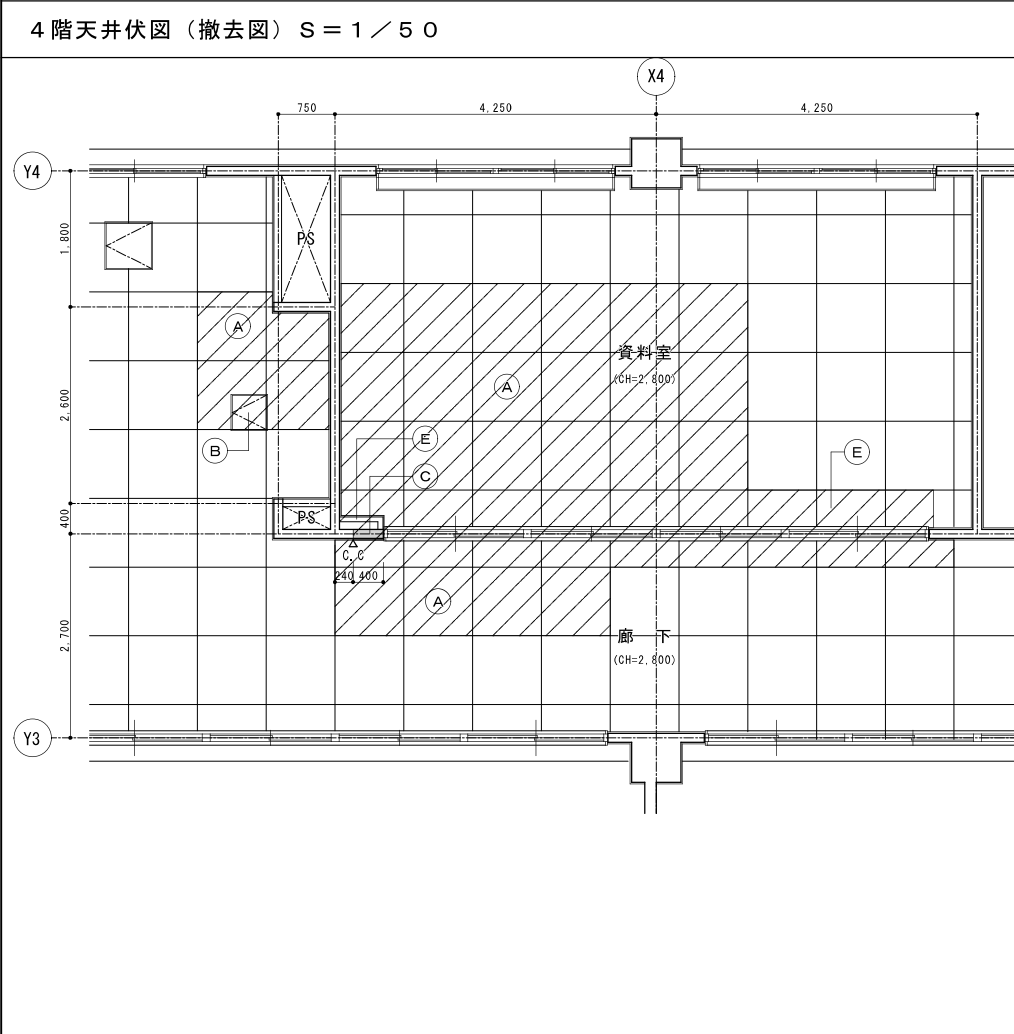
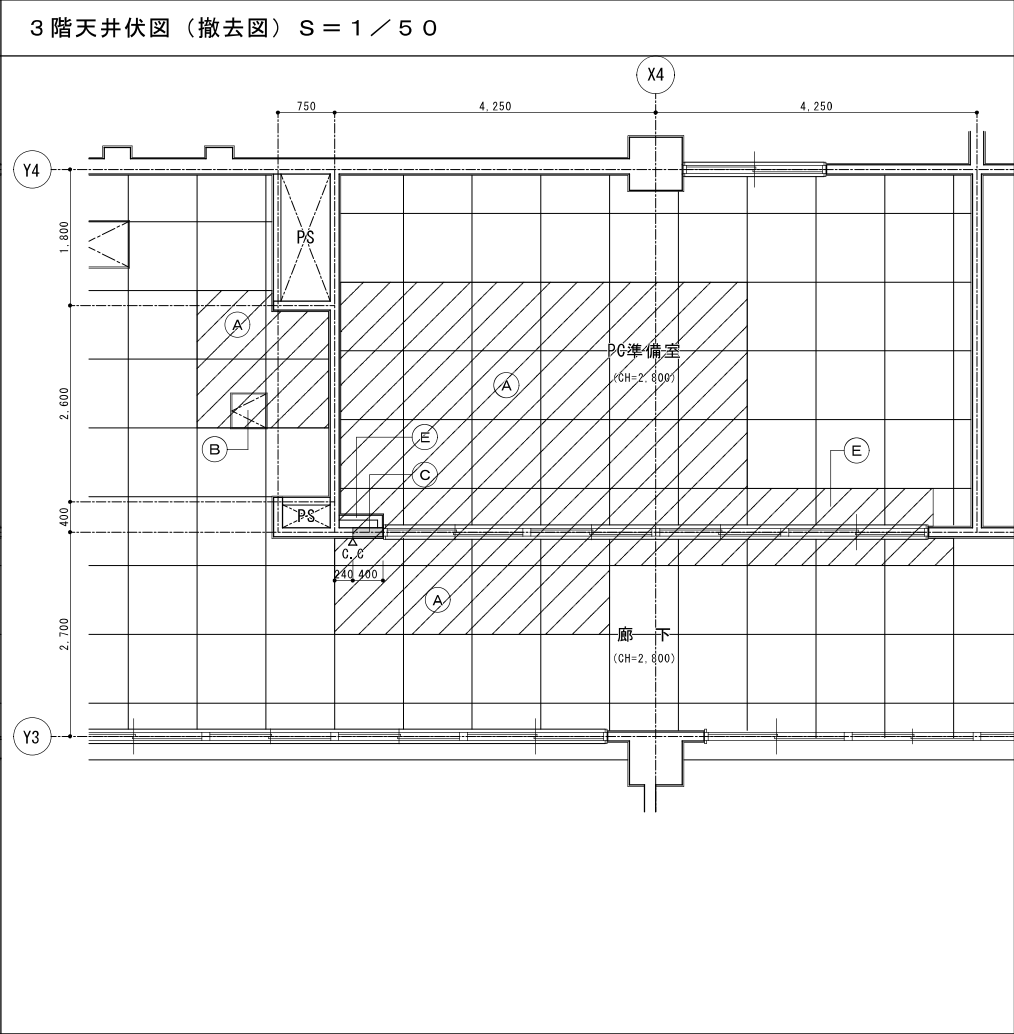
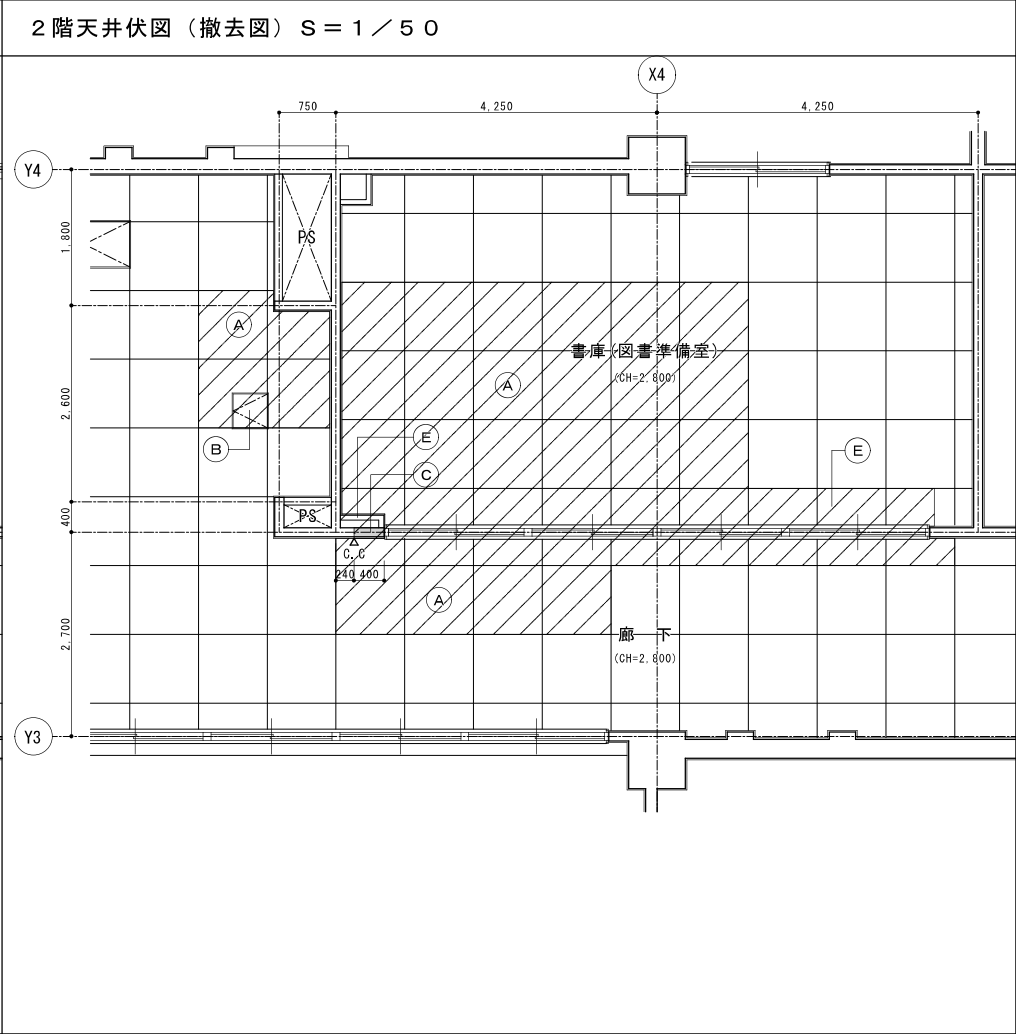
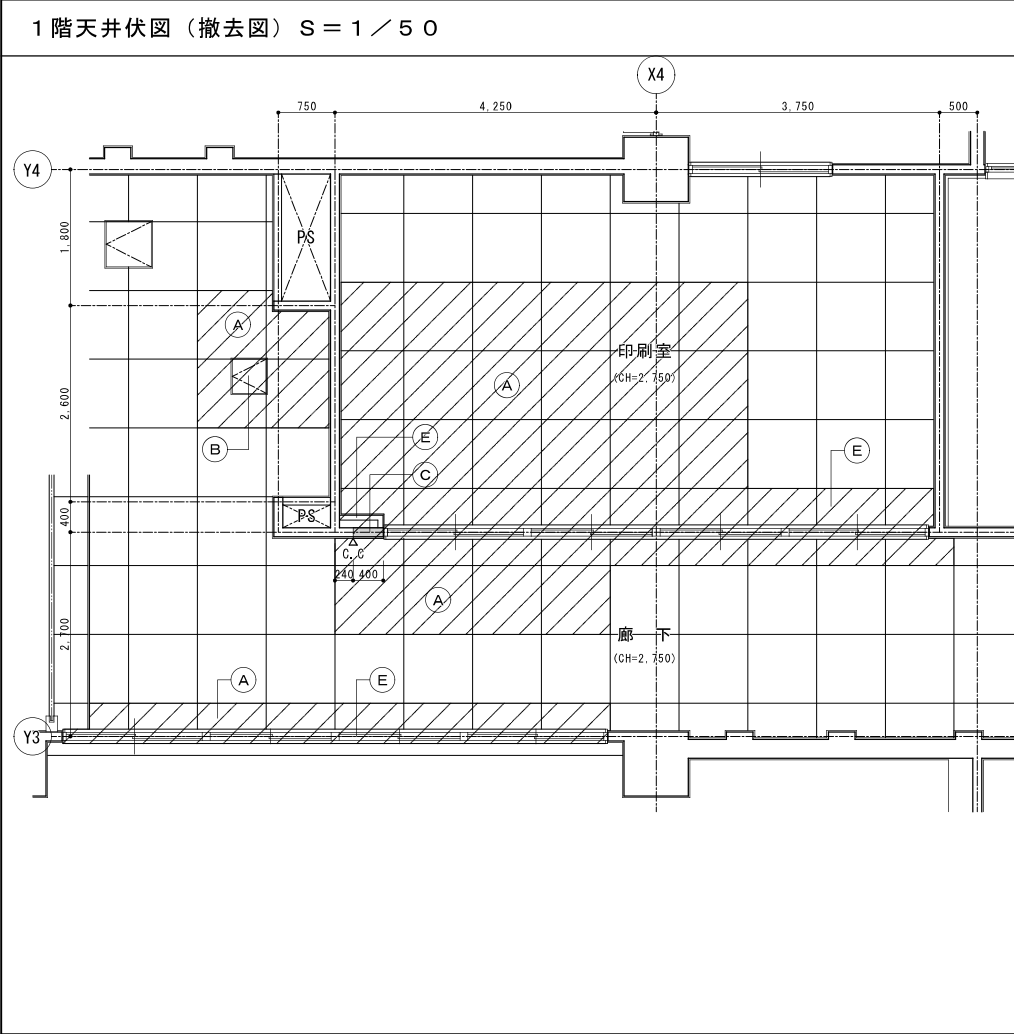
D面 展開図



A面 展開図

C面 展開図

部位		略称	塗装	仕上
市木	壁	B1	—	ビニル市木 (H=100) 【新設】
		W1	EP	1時間耐火壁：強化石膏板・ド t=21二重張り (片面) (LGS下地 W100)
		W2	EP	雑壁：EP 石膏板・ド t=12.5 (LGS下地 W65) 【新設】
		W3	EP	既存壁【塗替】
		1		スチール製ハッチェーション 【新設】
		2		703製引違い戸 【障子：再取付】
		3		収納棚 【新設】
		4	—	—
		5	—	—
		6		室名札 【再取付】



撤去範囲を示す

仕上・下地撤去範囲を示す

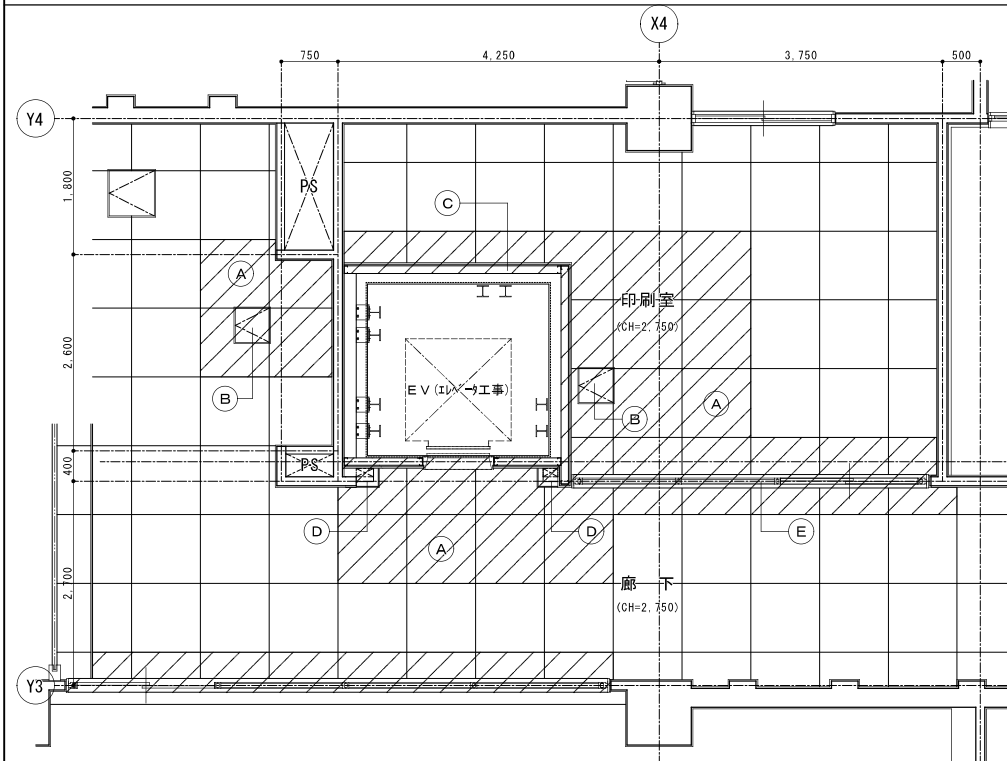
躯体撤去範囲を示す

符 号	仕 上
(A)	化粧石膏ボード（LGS下地）【撤去】
(B)	天井点検口（450角）【撤去】
(C)	袖壁：EP 珪藻土 t=20+コンクリート t=120【撤去】
(D)	フカシ壁：EP 石膏ボード t=9.5 (LGS下地 W=65)【撤去】
(E)	アルミ製パネーション【撤去】

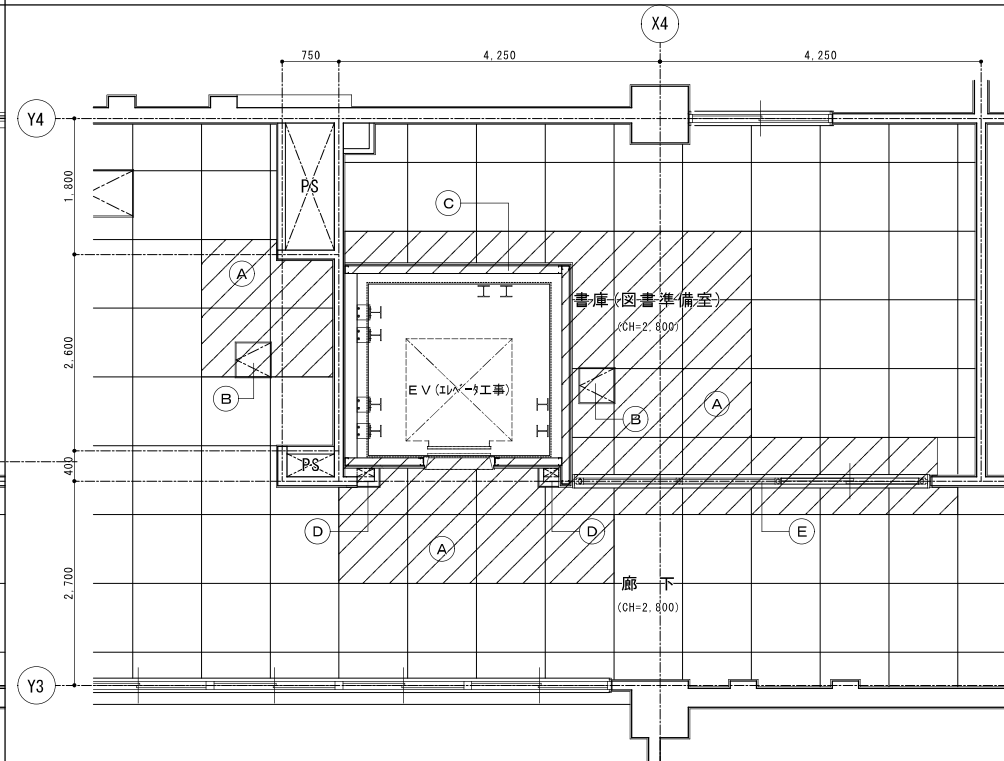
△ C. C : コンクリートカッター位置を示す

※照明設備の撤去は別途工事

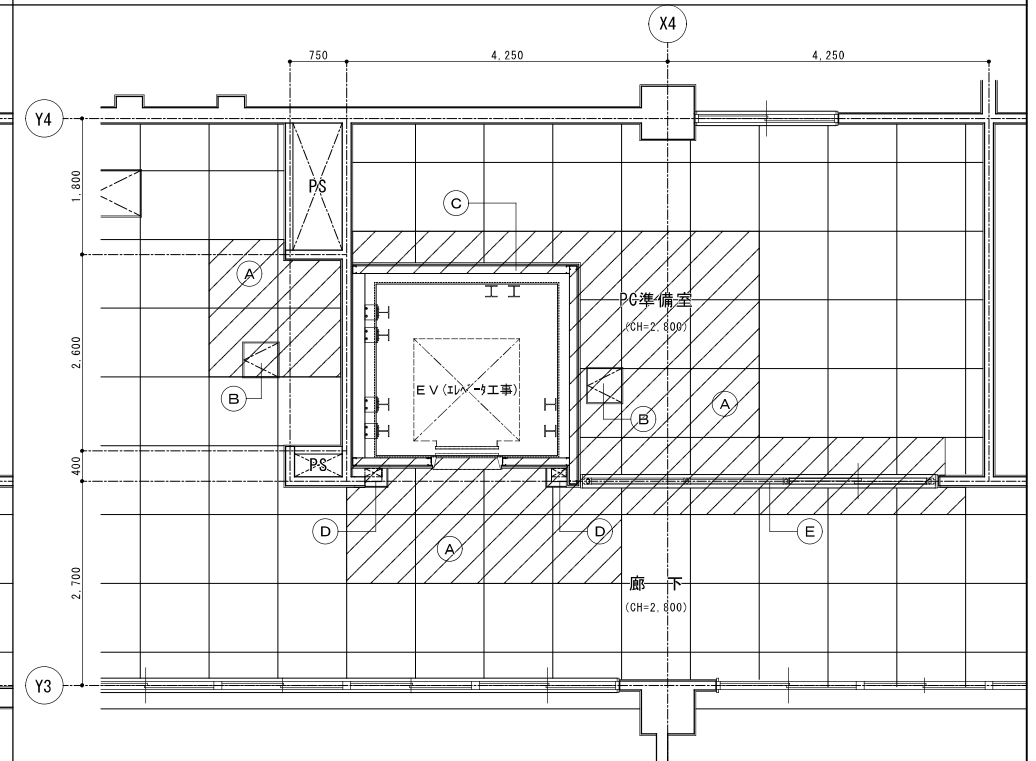
1 階天井伏図 (改修図) S = 1 / 5 0



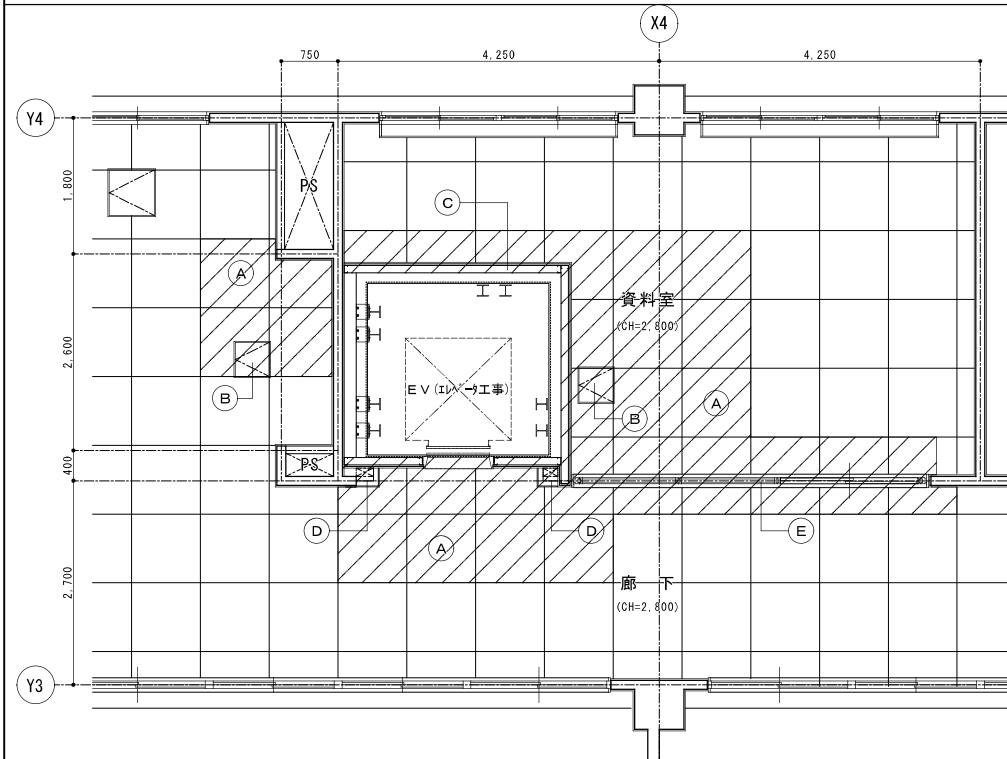
2階天井伏図（改修図） S = 1 / 50



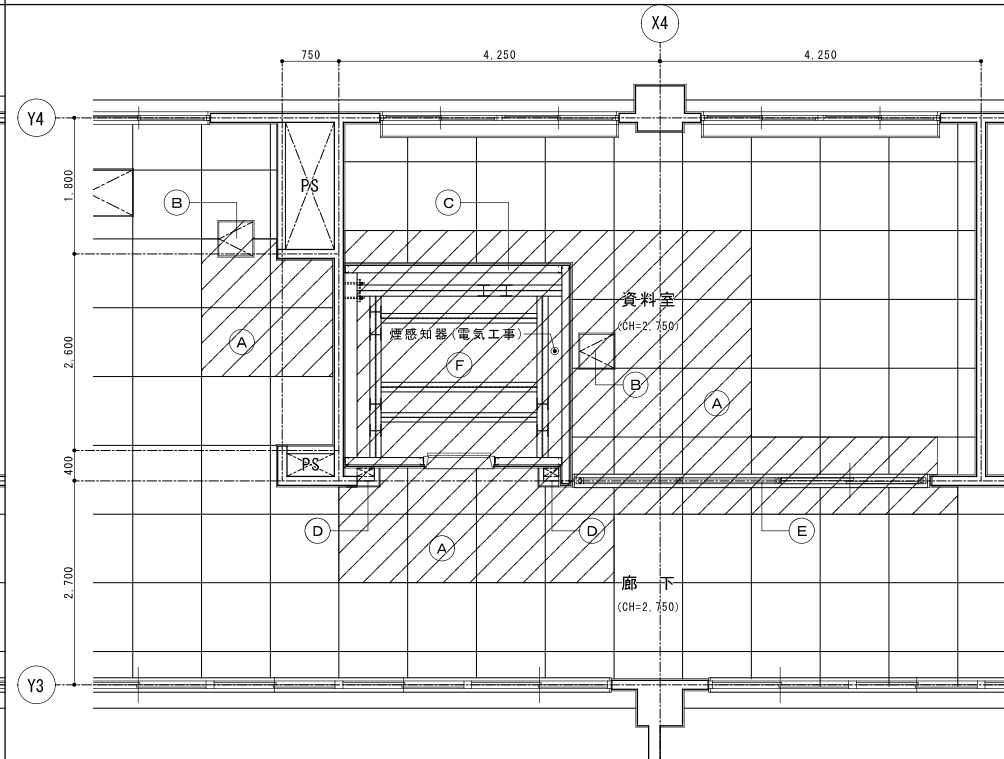
3 階天井伏図 (改修図) S = 1 / 5 0



4階天井伏図（改修図） S = 1 / 50



5階天井伏図（改修図） S = 1 / 50

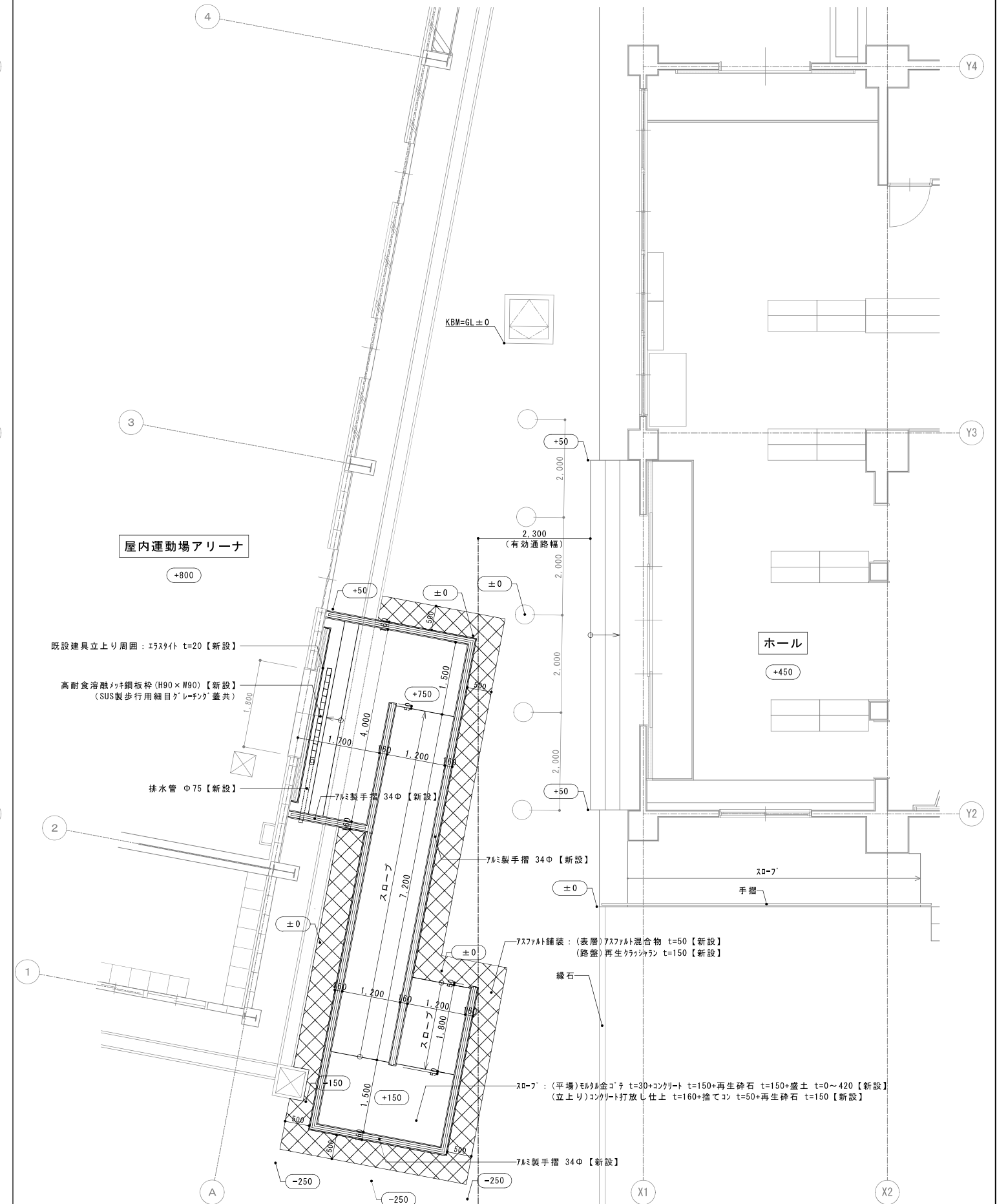
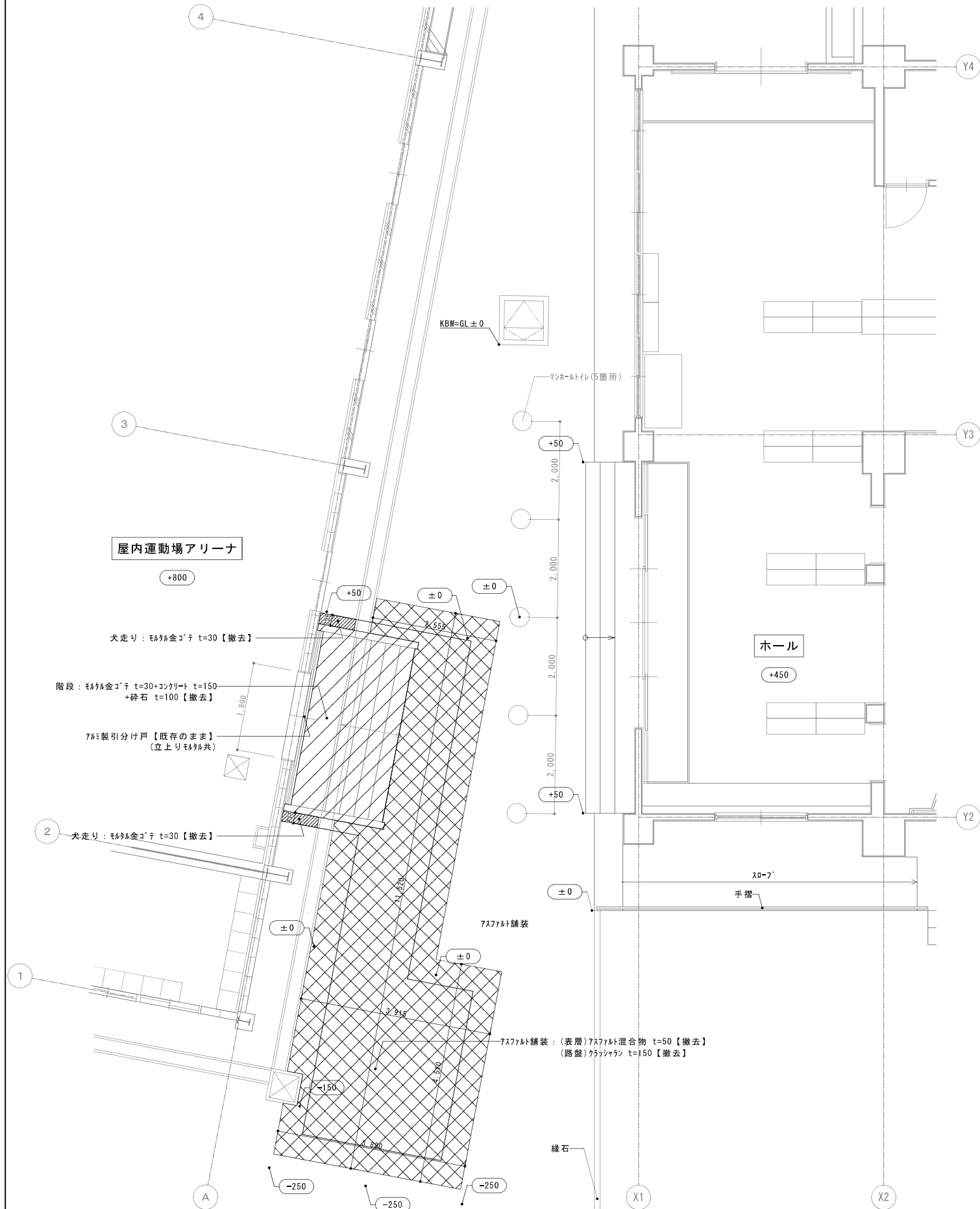


: 仕上・下地撤去範囲を示す

: 躯体撤去範囲を示す

符 号	仕 上
(A)	化粧石膏ボード (LGS 下地) 【新設】
(B)	天井点検口 (450角) 【新設】
(C)	1時間耐火壁 【新設】
(D)	雑壁: EP 石膏ボード t=12.5 (LGS W65) 【新設】
(E)	スチール製バーテーション 【新設】、スチール製三方枠 【新設】
(F)	断熱材: ロックウール t=30吹付 【新設】

建具表（改修図） S = 1 / 5 0																									
符号・種類			（PT1） スチール製パーテーション			（PT2） スチール製パーテーション			（PT3） スチール製パーテーション																
姿 図 ・ 寸 法																									
	▽FL					▽FL					▽FL														
	取付場所・倍枚					1					2					4階資料室					1				
	ガラス・見込					学校用強化透明ガラス t=4,0					80mm					学校用強化透明ガラス t=4,0					80mm				
	仕 上					垂鉛めっき銅板 (焼付塗装)					垂鉛めっき銅板 (焼付塗装)					垂鉛めっき銅板 (焼付塗装)									
錠・支持金物					引違戸錠、引戸下レール、据込み引手					引違戸錠、引戸下レール、据込み引手					引違戸錠、引戸下レール、据込み引手										
そ の 他 金 物					アルミ製ガラリ、スチール製顔縁 (3方) t=25・顔縁見込 W=50					アルミ製ガラリ、スチール製顔縁 (3方) t=25・顔縁見込 W=50					アルミ製ガラリ、スチール製顔縁 (3方) t=25・顔縁見込 W=50										
備 考					※掲示板下地は不燃材料とすること					※掲示板下地は不燃材料とすること					※掲示板下地は不燃材料とすること										
符号・種類			（PT4） スチール製パーテーション			（PT5） スチール製パーテーション			（AT1） 7à3àN製引違い窓（既存）																
姿 図 ・ 寸 法																									
	▽FL					▽FL					【既 存】					【改 修】									
	取付場所・倍枚					5階資料室					1階図書室					1階廊下					1				
	ガラス・見込					学校用強化透明ガラス t=4,0					学校用強化透明ガラス t=4,0					学校用強化透明ガラス t=4,0一部撤去の上、7à3àN 7à3àN新設					70mm				
	仕 上					垂鉛めっき銅板 (焼付塗装)					垂鉛めっき銅板 (焼付塗装)														
錠・支持金物					引違戸錠、引戸下レール、据込み引手					引違戸錠、引戸下レール、据込み引手															
そ の 他 金 物					アルミ製ガラリ、スチール製顔縁 (3方) t=25・顔縁見込 W=50					アルミ製ガラリ、スチール製顔縁 (3方) t=25・顔縁見込 W=50															
備 考					※掲示板下地は不燃材料とすること					※掲示板下地は不燃材料とすること															
符号・種類																									
姿 図 ・ 寸 法																									
取付場所・倍枚																									
ガラス・見込																									
仕 上																									
錠・支持金物																									
そ の 他 金 物																									
備 考																									
符号・種類																									
姿 図 ・ 寸 法																									
取付場所・倍枚																									
ガラス・見込																									
仕 上																									
錠・支持金物																									
そ の 他 金 物																									
備 考																									
符号・種類																									
1階印刷室収納棚詳細図（改修図） S = 1 / 2 0													2箇所												
													平面図												
													正面図												
													断面図												
													側面図												
仕様																									
本体主材 樹脂コート化粧パーティクルボード																									
木口：樹脂シート t1.0mm貼																									
背板 樹脂コート化粧MDF貼																									
棚板 樹脂コート化粧MDFフラッシュ 木口：樹脂シート t1.0mm貼																									
棚ダボφ9（3段）																									
台輪 ポリ合板貼																									
※角面取り処理																									
図面名																									
建具表・家具詳細図（改修図）																									
縮尺																									
A1：1/20・50																									
A3：1/40・100																									
図面番号																									
A-20																									



スロープ立面図（撤去図） S = 1 / 5.0

IFL
▽
GL
▽
800

3,500

1 2 3

3,000 8,450

階段：モルタル金ゴテ t=30+コンクリート t=150
+碎石 t=100【撤去】

外巾木：モルタル金ゴテ t=30【撤去】

外巾木：モルタル金ゴテ t=30【撤去】

1,090 3,600 3,880 4,320 3,040

140 220 140 220

50

[illegible][illegible]

A

B

7M \times 製手摺 34Φ 【新設】
(埋込長さ200mm以上)

(平場)モルタルコテ t=30+コンクリート t=150 【新設】

再生砕石 t=150 【新設】

高耐食溶融メッキ鋼板柱 (H90×W90) 【新設】
(SUS製歩行用細目グレーチング 蓋共)

既設建具上り周囲：エラストイト t=20 【新設】

接着系アール D10@200 【新設】

排水管 Φ75 【新設】

鉄筋・33筋：D10@200 【新設】

盛土 t=0~420 【新設】

鉄筋・33筋：D10@200 【新設】

D13

400

400

捨てコン t=50 【新設】

再生砕石 t=150 【新設】

(平場)モルタルコテ t=30+コンクリート t=150 【新設】

再生砕石 t=150 【新設】

鉄筋・33筋：D10@200 【新設】

(立上り)コンクリート打放し仕上 t=160 【新設】

75Fアルミ舗装：(表層)75Fアルミ混合物 t=50 【新設】
(路盤)再生グラツタラン t=150 【新設】

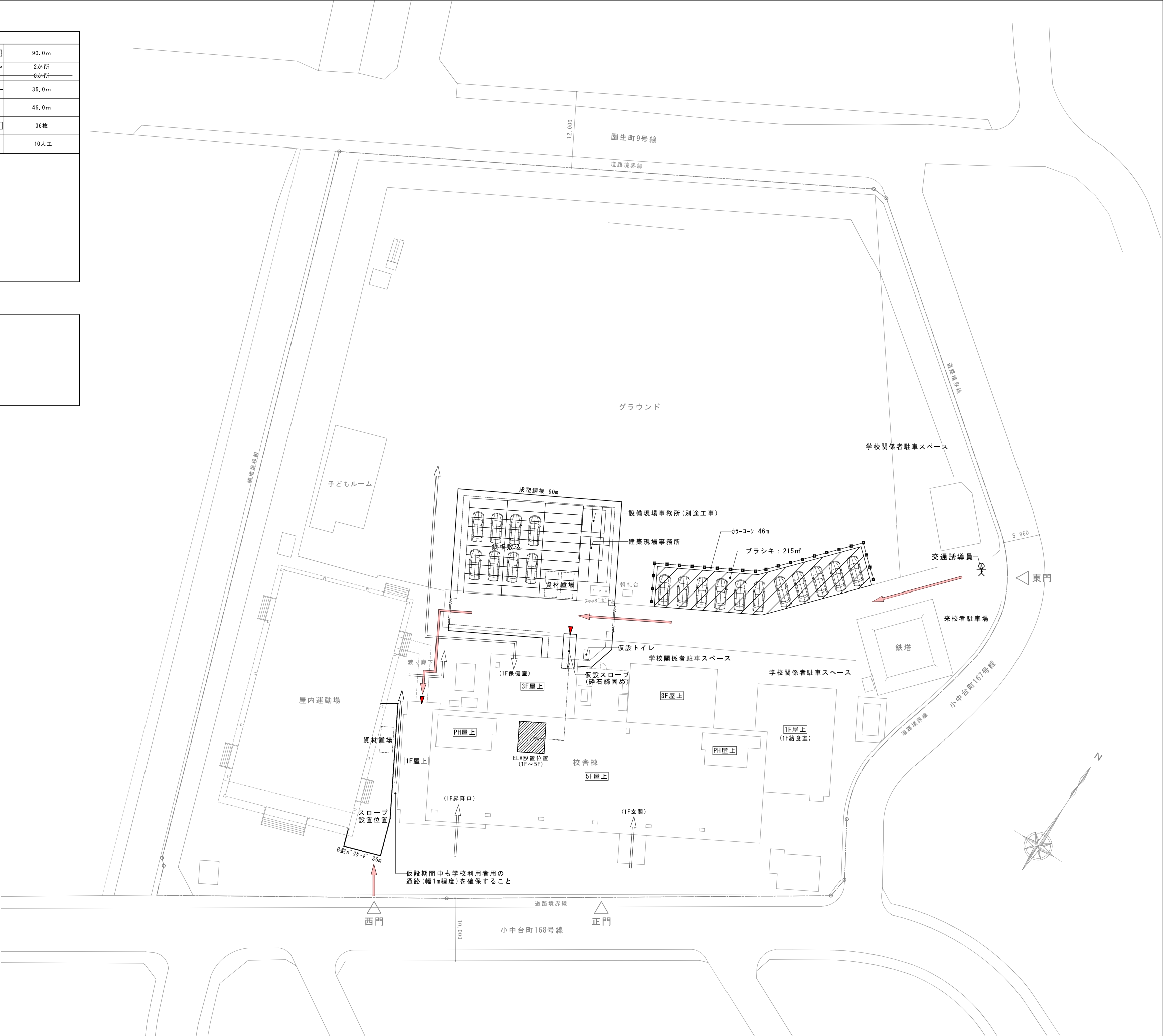
G L

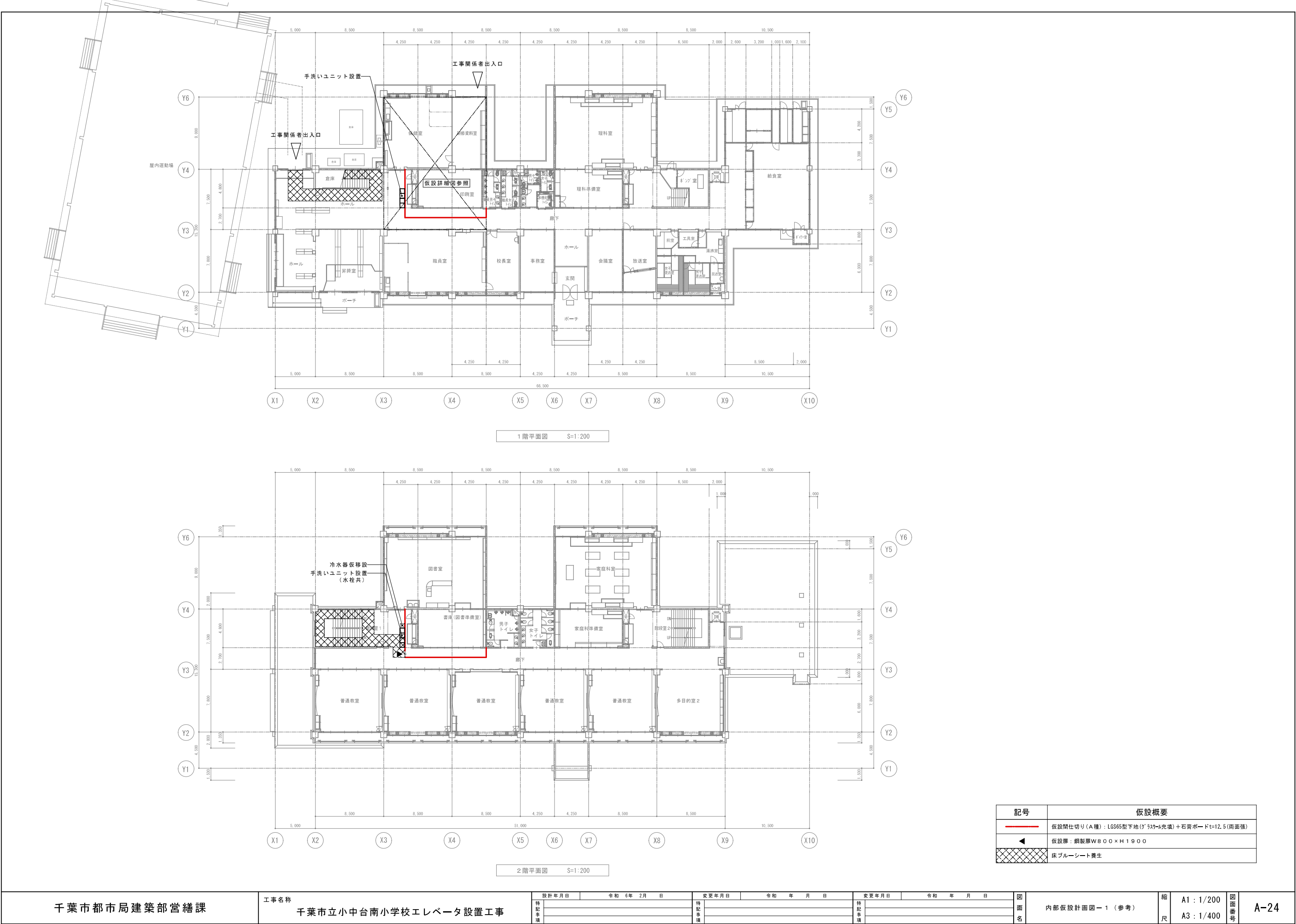
凡 例		
施設関係者動線を示す	成型鋼板 H=2.0	90.0m
工事関係者動線を示す	クロスゲート W=6.0m H=1.8m クロスゲート W=3.0m H=1.8m	2か所 0か所
工事関係出入口を示す	B型バリケード	36.0m
特記本足場	カラーコーン養生	46.0m
	鉄板敷込 (6,000×1,500)	36枚
	交通誘導員B	10人工

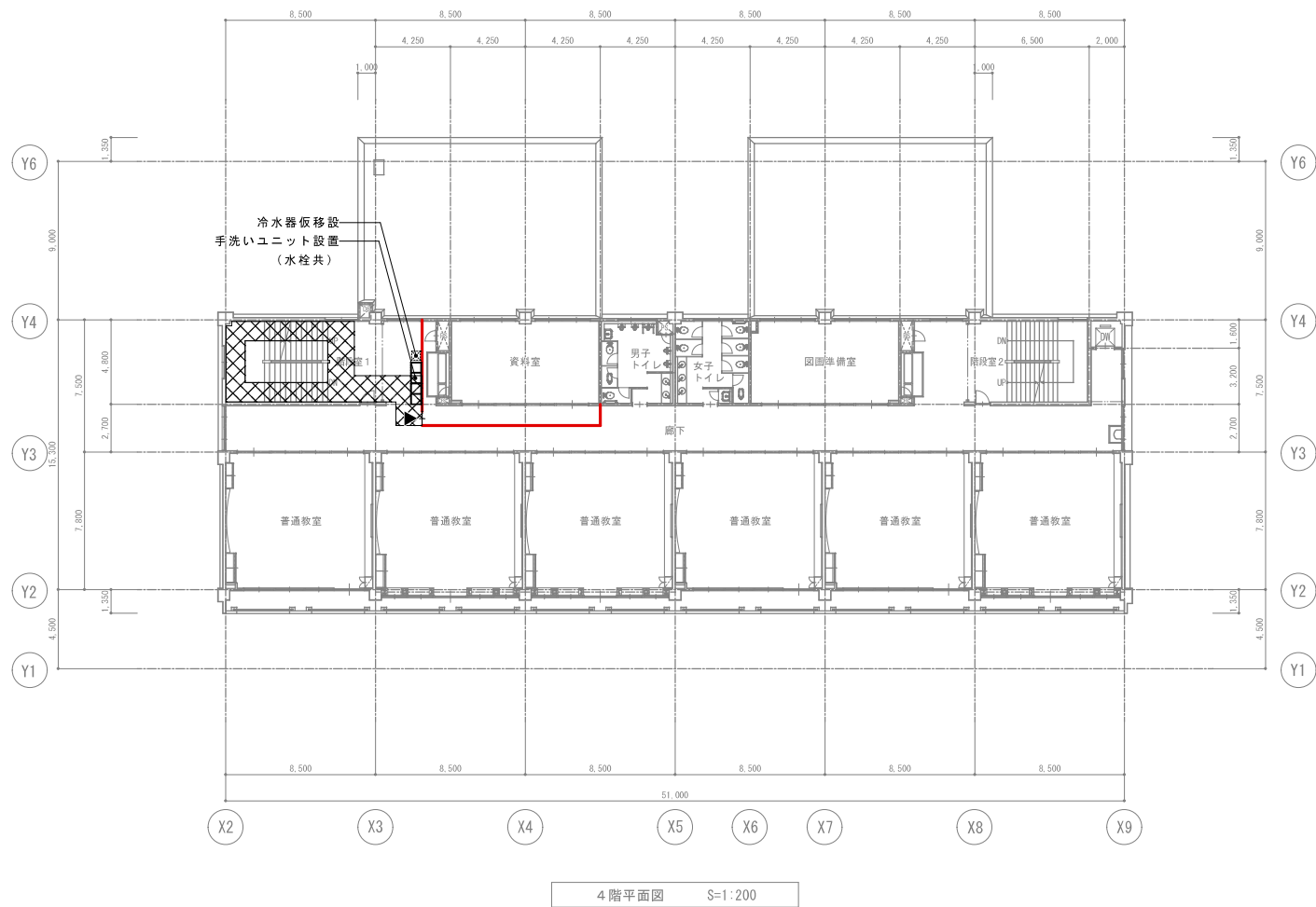
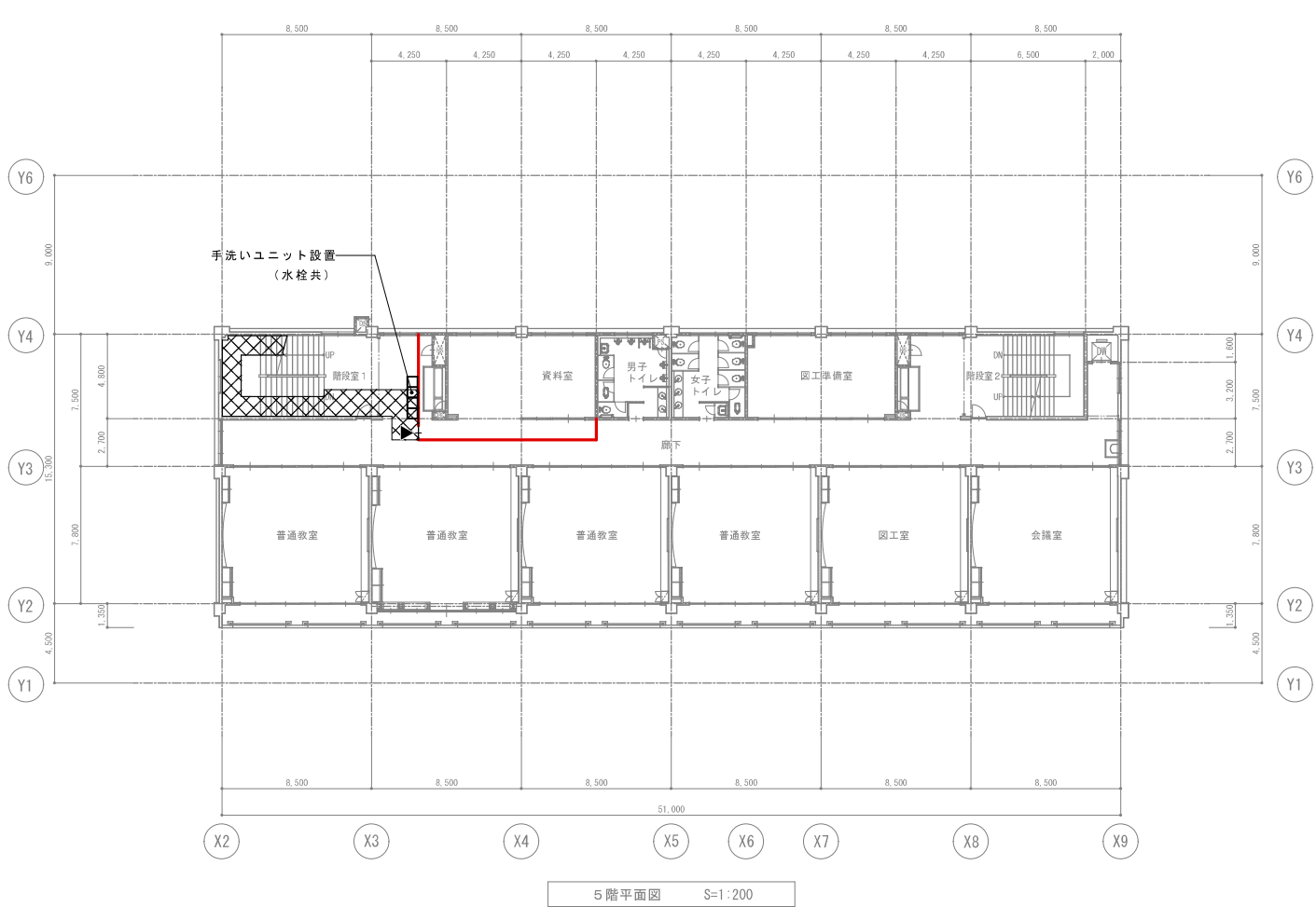
■特記事項（共通）

- ・本図は参考図であり、施工業者は施設使用者に対する安全及び騒音対策に配慮した施工計画書を作成し、監督職員及び施設管理者と協議し調整の上提出すること。
- ・通路及び建物内の工事に支障のある、既存部分・設置物等は養生をすること。
- ・工事車両の搬出入は安全に留意し計画すること。
- ・作業日時については、市担当者と協議により決定すること。
- ・仮設養生は特記なき部位についても適切に養生すること。
- ・改修範囲に干渉する機器・器具等にはシート養生等を適切に処理すること。
- ・アスファルト、土間コンクリート、U字溝等破損した部分は現況回復すること。
- ・荒天時に雨水等の侵入を防ぐ為、養生すること。
- ・居ながら施工の為、安全性・騒音・粉じん・臭気について十分配慮すること。
- ・その他、各種関係法令を遵守し、所轄行政庁等に対する必要手続きは遅延なくおこなうこと。

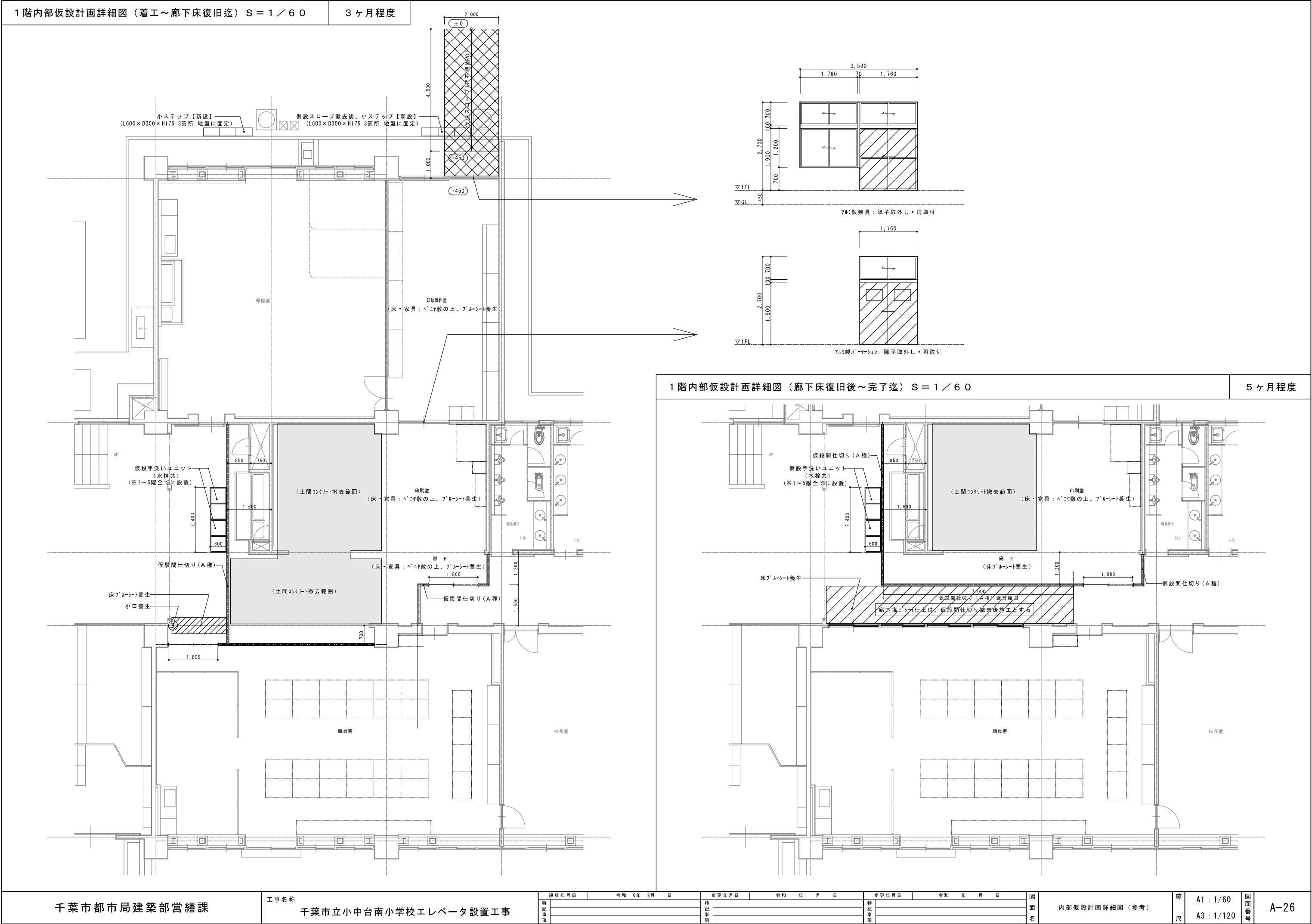
●特記事項 (小中台南小学校)		
●工事関係者出入口は原則、東門を利用するものとする。		
●グラウンドの鉄板敷込及びブラシキ範囲は撤去後整地を行うこと。		
●給食搬送車の動線確保を行うこと。(終日)		
●子供ルーム利用者の送迎車両、生徒動線に配慮すること。		
●渡り廊下付近は工事動線と学校関係者動線が密集するため、移動の際は安全に十分配慮すること。		
●スロープ設置に伴う仮設は工事完了後速やかに撤去し、学校関係者動線を優先すること。		

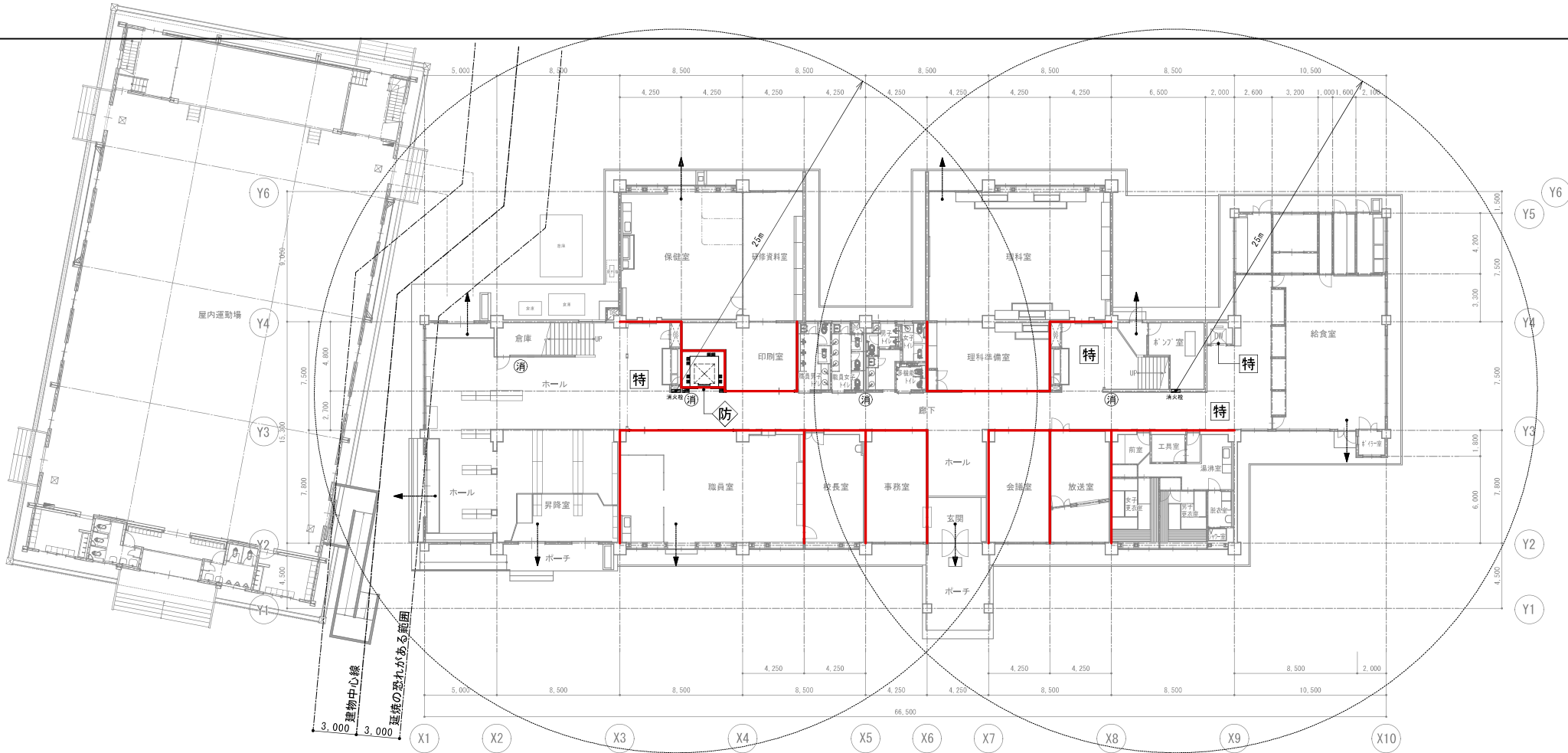




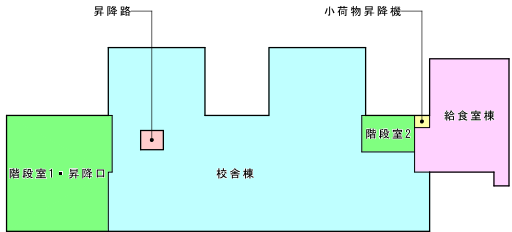


記号	仮設概要
—	仮設間仕切り (A種) : LGS65型下地(ｸﾞﾗｽｹｰﾙ充填)＋石膏ボードt=12.5(両面張)
◀	仮設扉 : 鋼製扉W800×H1900
	床ブルーシート養生





1階平面図 1 : 200

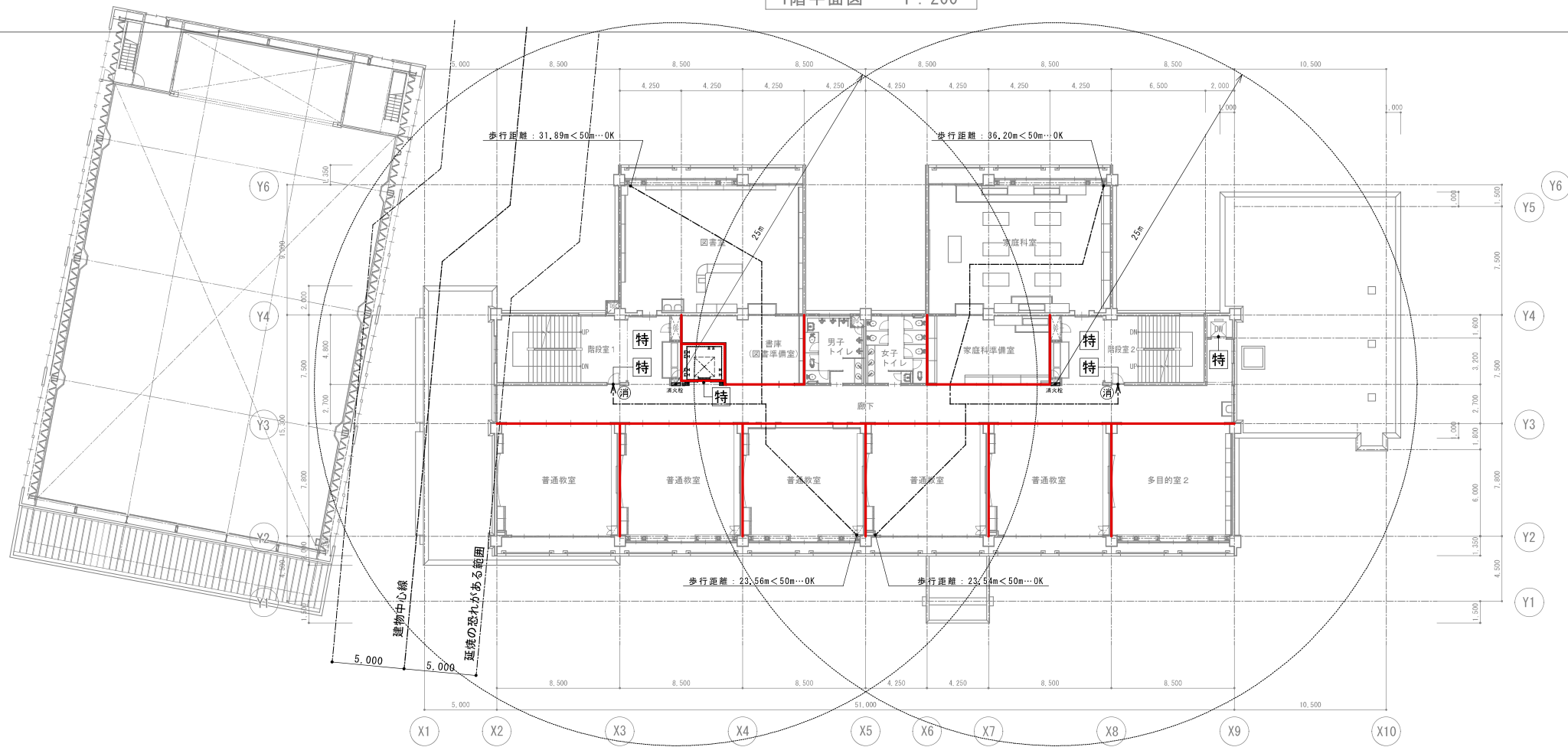


1階防火区画 面積表				
改修部分	昇降路	※1	縦穴区画	7.62㎡
既存部分	階段室1・昇降口		縦穴区画	210.30㎡
	階段室2		縦穴区画	33.60㎡
	小荷物昇降機		縦穴区画	3.20㎡
	校舎棟	※2	面積区画	819.78㎡
	給食室棟		面積区画	172.89㎡

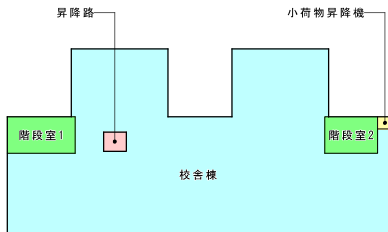
※1) 各階昇降路面積(1～5F)は1階校舎棟に加算して確認とする 7.62㎡×5F=38.1㎡
※2) 【校舎棟確認面積】校舎棟面積：819.78㎡+昇降路面積計：38.1㎡=857.88㎡

- 特：特定防火設備(遮煙)
- 特：特定防火設備
- 防：防火設備(遮煙)
- 防：防火設備
- ：114条区画
- ：屋外への出口

※階段室1～5のシャッターは全て危害防止装置付



2階平面図 1 : 200

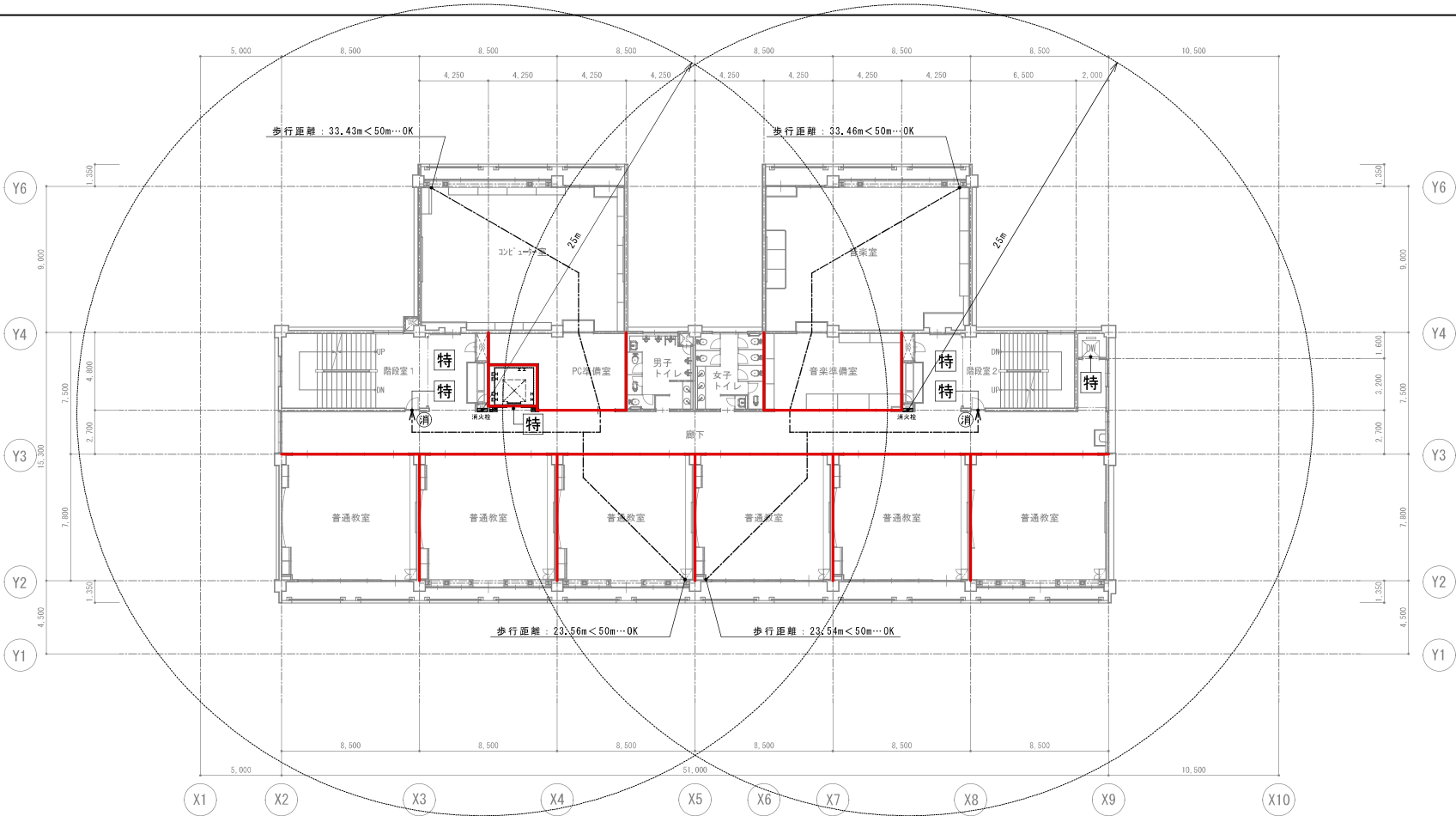


2階防火区画 面積表				
改修部分	昇降路	※1	縦穴区画	7.62㎡
既存部分	階段室1		縦穴区画	43.20㎡
	階段室2		縦穴区画	33.60㎡
	小荷物昇降機		縦穴区画	3.20㎡
	校舎棟		面積区画	922.18㎡

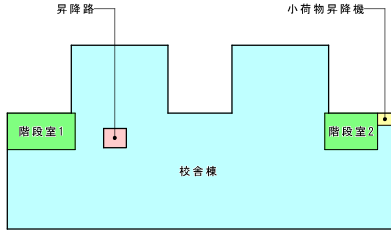
※1) 各階昇降路面積(1～5F)は1階校舎棟に加算して確認とする 7.62㎡×5F=38.1㎡

- 特：特定防火設備(遮煙)
- 特：特定防火設備
- 防：防火設備(遮煙)
- 防：防火設備
- ：114条区画
- ：屋外への出口

※階段室1～5のシャッターは全て危害防止装置付



3階平面図 1 : 200

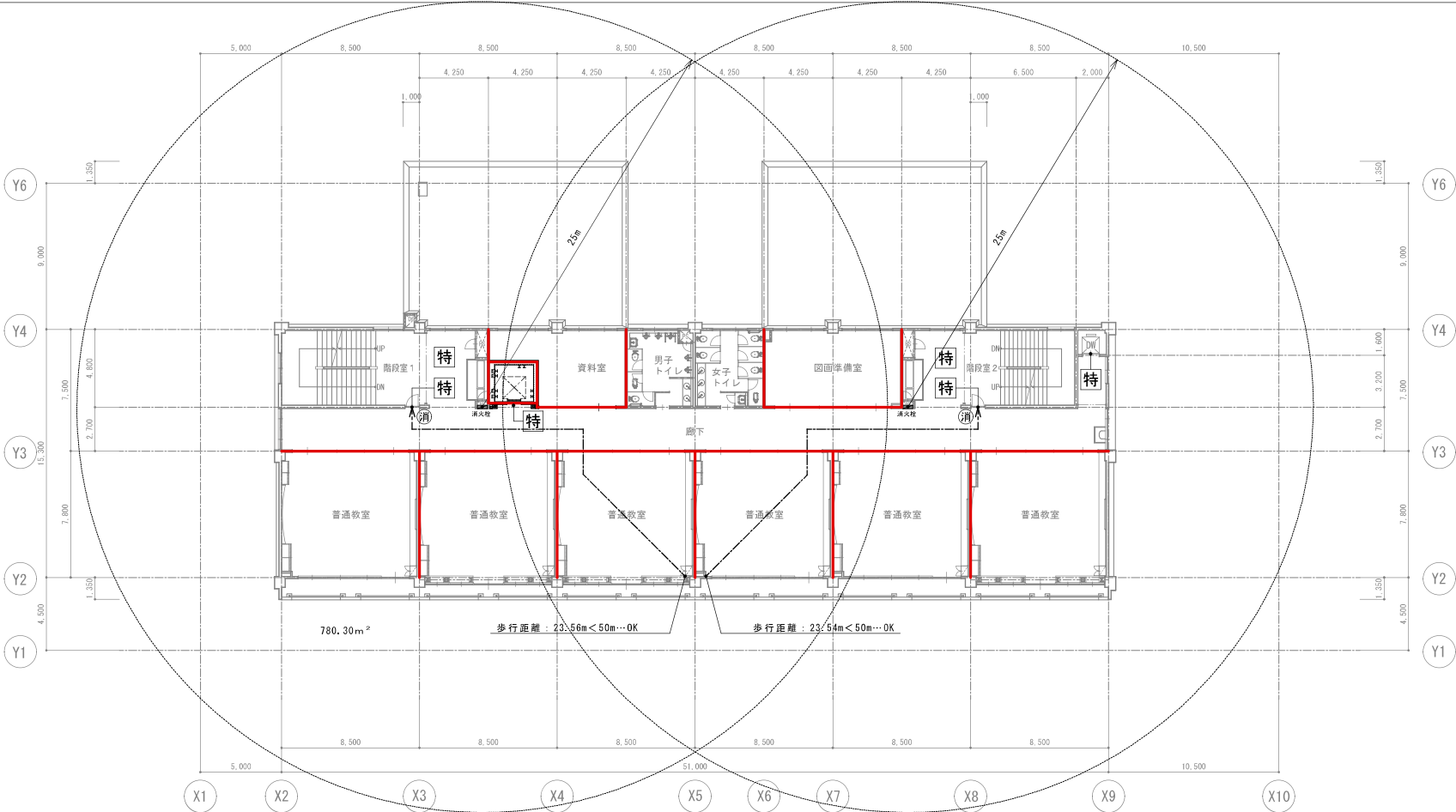


3階防火区画 面積表				
改修部分	昇降路	※1	縦穴区画	7.62m ²
既存部分	階段室1		縦穴区画	43.20m ²
	階段室2		縦穴区画	33.60m ²
	小荷物昇降機		縦穴区画	3.20m ²
	校舎棟		面積区画	922.18m ²

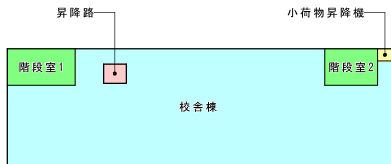
※1) 各階昇降路面積(1～5F)は1階校舎棟に加算して確認とする 7.62㎡×5F=38.1㎡

- 特: 特定防火設備(遮煙)
- 特: 特定防火設備
- 防: 防火設備(遮煙)
- 防: 防火設備
- 114条区画
- 屋外への出口

※階段室1～5のシャッターは全て危害防止装置付



4階平面図 1 : 200

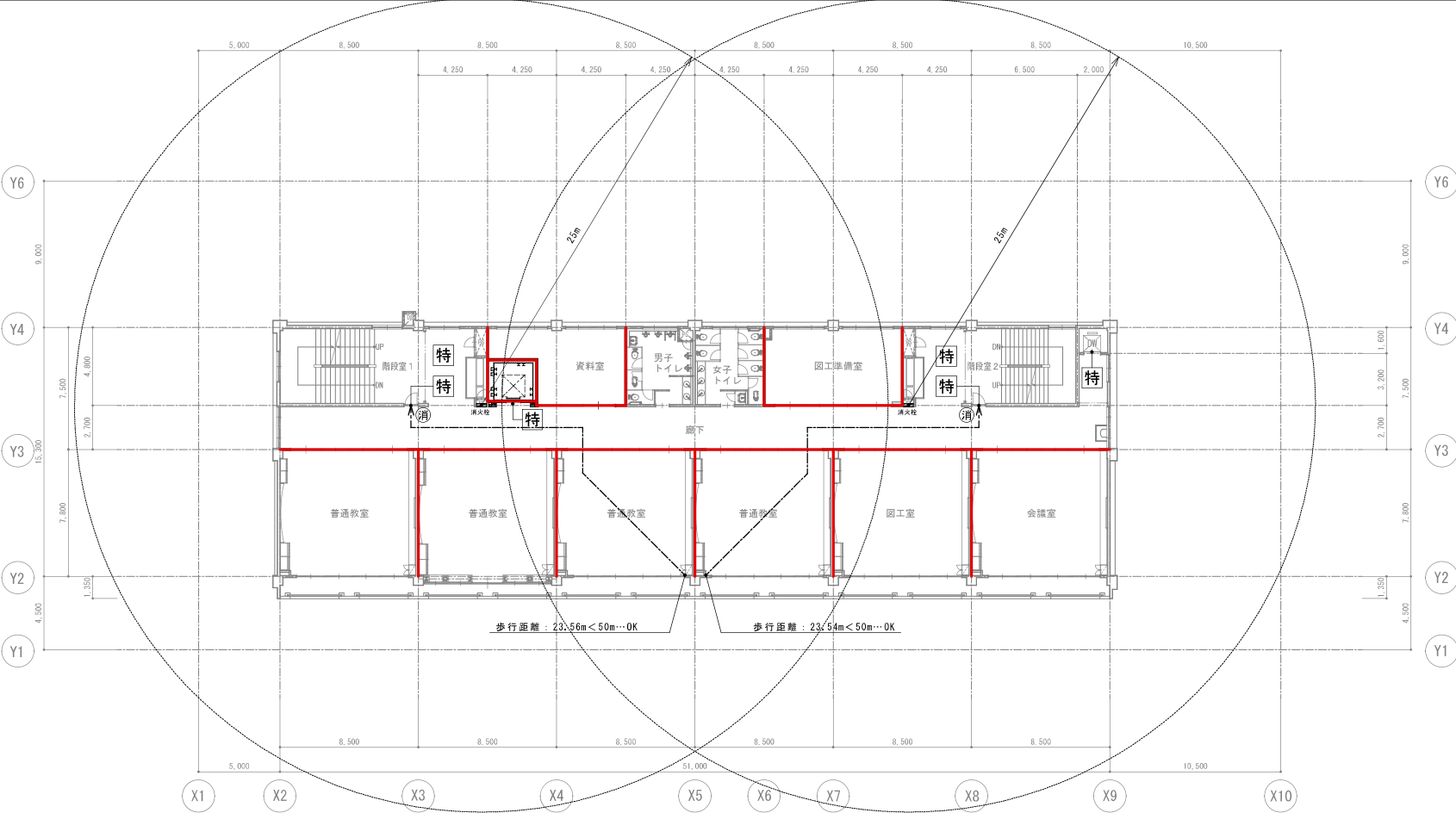


4階防火区画 面積表				
改修部分	昇降路	※1	縦穴区画	7.62m ²
既存部分	階段室1		縦穴区画	43.20m ²
	階段室2		縦穴区画	33.60m ²
	小荷物昇降機		縦穴区画	3.20m ²
	校舎棟		面積区画	692.68m ²

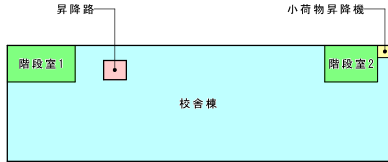
※1) 各階昇降路面積(1～5F)は1階校舎棟に加算して確認とする 7.62㎡×5F=38.1㎡

- 特: 特定防火設備(遮煙)
- 特: 特定防火設備
- 防: 防火設備(遮煙)
- 防: 防火設備
- 114条区画
- 屋外への出口

※階段室1～5のシャッターは全て危害防止装置付



5階平面図 1 : 200



5階防火区画 面積表				
改修部分	昇降路	※1	縦穴区画	7.62m ²
既存部分	階段室1		縦穴区画	43.20m ²
	階段室2		縦穴区画	33.60m ²
	小荷物昇降機		縦穴区画	3.20m ²
	校舎棟		面積区画	692.68m ²

※1) 各階昇降路面積(1～5F)は1階校舎棟に加算して確認とする 7.62㎡×5F=38.1㎡

特: 特定防火設備(遮煙)

※階段室1～5のシャッターは全て危害防止装置付

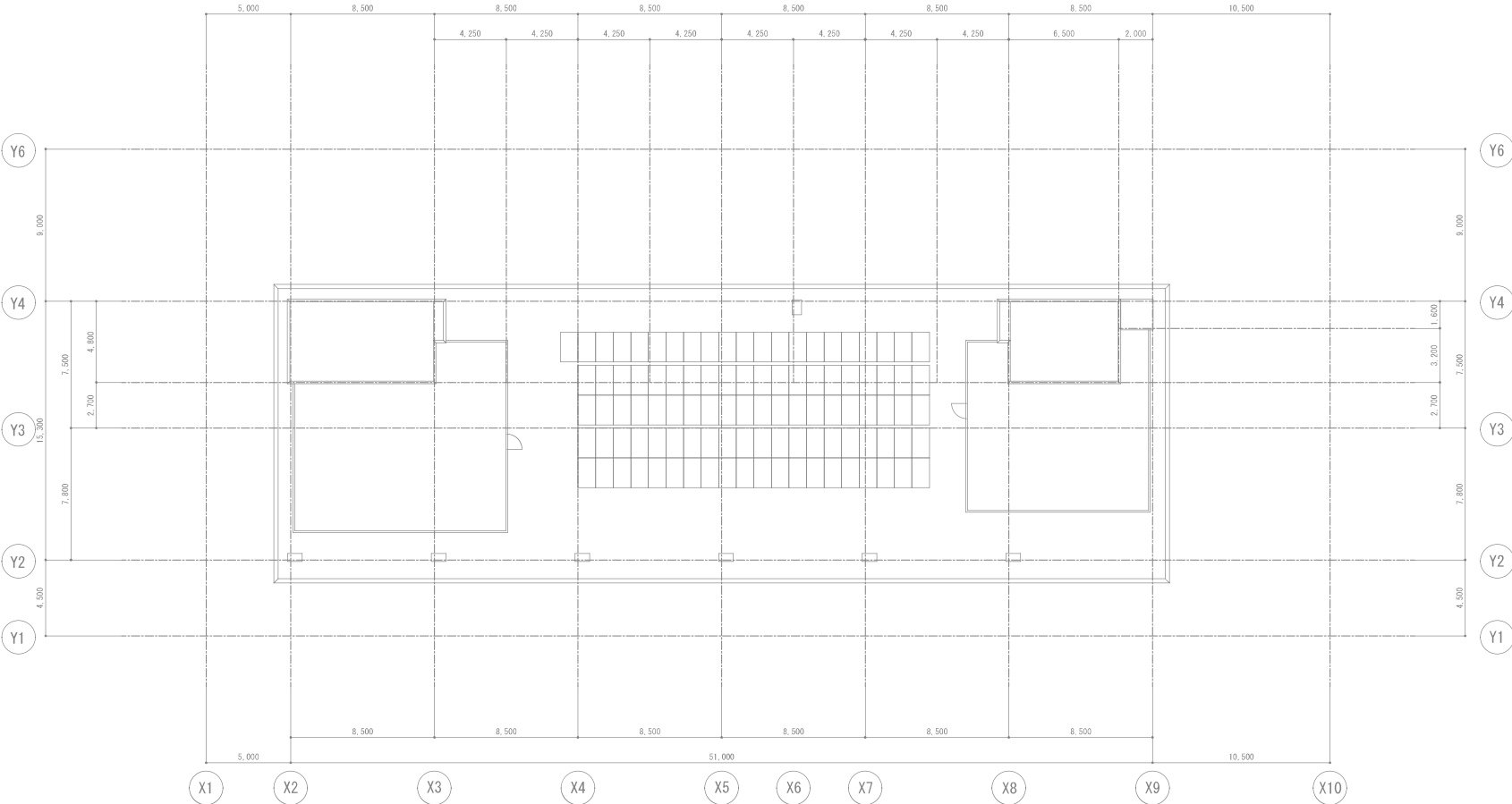
特: 特定防火設備

防: 防火設備(遮煙)

防: 防火設備

—: 114条区画

←: 屋外への出口



R階平面図 1 : 200

新 構造設計特記仕様 その2

※修正箇所は下線を引くこと
適用は ■ 印を記入する。

9. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート

鉄筋コンクリート工事の施工に関しては記載無きは、JASS5 2018 による。

(a) コンクリートの仕様

本仕様書では、JASS5に規定する普通骨材を用いた一般仕様様のコンクリートを「普通コンクリート」と定義し、表9. 11に示す様に設計基準強度が36N/mm²以下のコンクリートについてはJASS5の3節～11節を適用し、36N/mm²を超えるコンクリートについてはJASS5の17節（高強度コンクリート）を適用する。また、設計基準強度もしくは品質基準強度と構造体強度補正値から定める調合管理強度以上とし、発注するレディーミクストコンクリートの呼び強度が表9. 2に示すJIS規格外となる場合は、法第37条の大臣認定を受けた製品を用いる必要がある。軽量コンクリートについてはJASS5の14節によること。

表9. 1 コンクリート圧縮強度 (N/mm²) に応じた仕様書の使い分け

設計基準強度 F_c	18	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60
JASS5での区分	普通コンクリート							高強度コンクリート							

表9. 2 レディーミクストコンクリートのJIS規格品

調合管理強度 (N/mm ²)	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51	54	57	60	60超
呼び強度 (JIS規格品)	21	24	27	30	33	36	40	42	45	50	55	55	60	60	※

※印は規格外

(b) 品質と施工

■ 構造体の計画供用期間の級は特記による。特記が無い場合は標準とする。

■ 標準 □ 長期 □ 超長期

(本仕様書では計画供用期間の級は、「短期」を想定していない。)

■ コンクリートは JIS A 5308 (レディーミクストコンクリート) に適合するJIS認証工場の製品とする。

□ 設計基準強度が36N/mm²を超えるコンクリートを扱うレディーミクストコンクリート工場は、「高強度コンクリート」の製品認証を受けているが、建築基準法第37条第二号によって国土交通大臣が指定建築材料として認定した高強度コンクリートの製造工場とする。

□ レディーミクストコンクリート工場および高強度コンクリートを打設する施工現場には、コンクリート主任技士またはコンクリート技士、あるいはこれらと同等以上の知識経験を有すると認められる技術者が常駐していなければならない。

□ 施工者は、工事に先立ち、コンクリートの調合・製造計画、施工計画、品質管理計画書を作成し、工事監理者の承認を得ること。

■ フレッシュコンクリートの流動性は、スランプまたはスランプフローで表し、設計基準強度が36N/mm²以下33N/mm²以上の場合スランプ21cm以下、33N/mm²未満の場合スランプ18cm以下とし、設計基準強度が36N/mm²超 45N/mm²未満の場合はスランプ21cm以下またはスランプフロー50cm以下、設計基準強度が45N/mm²以上の場合はスランプ23cm以下またはスランプフロー60cm以下とし、特記による。

■ コンクリートに含まれる塩化物質は、塩化物イオン量として0.3kg/m³以下とする。

■ コンクリートの乾燥ぜから打込み終了までの時間は、原則として外気温が25℃未満の時は120分、25℃以上の時は90分とする。

■ コンクリート打込み時の自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。

■ 打継ぎ部は構造体に影響の少ない位置を選び打継ぎ処理を行い、打込み前に十分な水湿しを行う。

■ コンクリート打込み中、及び、打込み後5時間はコンクリートの温度が2度を下回らないようにし、セメントの種類に応じて湿潤養生する。

(c) 調合および構造体コンクリート強度

■ コンクリートの強度を求める強度試験は、JIS A 1108 (コンクリートの圧縮強度試験方法) もしくはJIS A 1107 (コンクリートからのコアの採取方法) による。

i) 高強度コンクリート

□ 調合強度を定めるための基準とする材齢は、特記による。特記のない場合は 28日とする。

□ 構造体コンクリート強度を保証する材齢は、特記による。特記のない場合は 91日とする。

□ 構造体コンクリート強度は、次の①または②を満足するものとする。

① 標準養生した供試体による場合、調合強度を定めるための基準とする材齢において調合管理強度以上とする。

② 構造体温度養生した供試体による場合、構造体コンクリート強度を保証する材齢において設計基準強度に3N/mm²加えた値以上とする。

□ 調合管理強度は、以下による。

$$H_{Fm} = F_c + \alpha S_n \quad (N/mm^2)$$

H_{Fm} : 高強度コンクリートの調合管理強度 (N/mm²)

F_c : コンクリートの設計基準強度 (N/mm²)

αS_n : 高強度コンクリートの構造体強度補正値で JASS5 による。

□ 調合強度は標準養生供試体の圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。

$$H_F \geq H_{Fm} + 1.73 \sigma_H \quad (N/mm^2)$$

$$H_F \geq 0.85 H_{Fm} + 3 \sigma_H \quad (N/mm^2)$$

H_F : 高強度コンクリートの調合強度 (N/mm²)

σ_H : 高強度コンクリートの圧縮強度の標準偏差 (N/mm²) で、レディーミクストコンクリート工場の実績による。実績がない場合は、0.1 ($F_c + \alpha S_n$) とする。

ii) 普通コンクリート

■ 調合を定めるための基準とする材齢は、原則として 28日とする。

■ 構造体コンクリート強度は表9. 3を満足すれば合格とする。

表9. 3 構造体コンクリートの圧縮強度の判定基準

供試体の養生方法	試験材齢 ⁽¹⁾	判定基準
標準養生 ⁽²⁾	28 日	$X \geq F_m$
コ ア	91 日	$X \geq F_q$

ただし、 X : 1回の試験における3個の供試体の圧縮強度の平均値 (N/mm²)

F_m : コンクリートの調合管理強度 (N/mm²)

F_q : コンクリートの品質基準強度 (N/mm²)

[注] (1) 早い材齢において試験を行い、合否判定基準を満たした場合は、合格とする。

(2) 工事監理者の承認を得て、供試体成型後、翌日までは20±10℃の日光および風が直接当たらない箇所、乾燥しないように養生して保管することができる。

* 標準養生供試体の代わりにあらかじめ準備した現場水中養生供試体によることができる。その場合の判定基準は材齢28日までの平均気温が20℃以上の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値が調合管理強度以上であり、平均気温が20℃未満の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値から 3 N/mm² を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

* コア供試体の代わりにあらかじめ準備した現場封かん養生供試体によることができる。その場合の判定基準は材齢28日を超え91日以内のn日において3個の供試体の圧縮強度の平均値から 3N/mm² を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

■ 調合管理強度は、以下による。

$$F_m = F_c + \alpha S_n \quad (N/mm^2)$$

F_m : コンクリートの調合管理強度 (N/mm²)

F_q : コンクリートの品質基準強度 (N/mm²)

αS_n : 標準養生した供試体の材齢 n 日における圧縮強度と構造体コンクリートの n 日における圧縮強度の差による構造体強度補正値 (N/mm²)

□ 調合強度は標準養生した供試体の材齢 m 日における圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。調合強度を定める材齢 n 日は、原則として28日とする。

$$F \geq F_m + 1.73 \sigma \quad (N/mm^2)$$

$$F \geq 0.85 F_m + 3 \sigma \quad (N/mm^2)$$

F : コンクリートの調合強度 (N/mm²)

σ : 使用するコンクリートの圧縮強度の標準偏差 (N/mm²) で、レディーミクストコンクリート工場の実績による。実績のない場合は 2.5N/mm²、または 0.1f_m の大きい方の値とする。

(d) 検査

■ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で (一財) 国土開発技術センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真 (カラー) を保管し、工事監理者の承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合 1 日 1 回以上とし、1 回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて 3 回行い、その平均値を試験値とする。

■ スランプの許容差は普通コンクリートの場合、スランプが 8cm以上18cm以下の場合±2.5cm、21cmの場合±1.5cm (呼び強度27以上で高性能AE減水剤を使用する場合は±2cm) とする。高強度コンクリートの場合は、スランプが 18cm以下の場合±2.5cm、21cm以上の場合±2cmとし、スランプフローの許容差は、目視スランプフローが 50cm以下の時は±7.5cm、50cmを超える時は±10cmとする。

■ 使用するコンクリートの圧縮強度試験は、普通コンクリートでは標準養生を行った供試体を用いて材齢 28日で行い、1回の試験は、打込み区ごと、打込み日ごと、かつ 150m³またはその端数ごとに 3個の供試体を用いて行う。3回の試験で 1検査ロットを構成する。高強度コンクリートでは、打込み日かつ 300m³ごとに検査ロットを構成して行う。1検査ロットにおける試験回数は 3回とする。検査は適当な間隔をあげた任意の 3台のトラックアジテータから採取した合計 9個の供試体による試験結果を用いて行う。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生とする。

■ 構造体コンクリートの圧縮強度の検査は普通コンクリートでは、打込み区ごと、打込み日ごと、かつ 150m³またはその端数ごとに 1回行う。1回の試験には適当な間隔をおいた 3台の運搬車から 1個ずつ採取した合計 3個の供試体を用いる。

高強度コンクリートでは打込み日、打込み区区かつ 300m³ごとに行う。検査には適当な間隔をあげた任意の 3台のトラックアジテータから採取した合計 9個の供試体を用いる。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生または構造体温度養生とする。

■ 使用するコンクリートの圧縮強度の判定は、JASS5による。

構造体コンクリートの圧縮強度の判定は、(c) 調合および構造体コンクリート強度による。

□ コンクリートの試験は、「建築物の工事における試験および検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと。

試験・検査機関名 (都知事登録 号)

代行業者名 (登録番号 号)

代行業者とは、試験・検査に伴う業務を代行するものを言う。

(2) 鉄 筋

(a) 施工

- 鉄筋はJIS G 3112 (鉄筋コンクリート用棒鋼) に適合するものを用いる。溶接金網および鉄筋格子は、JIS G 3551 (溶接金網および鉄筋格子) に適合するものを用いる。
- 高強度せん断補強筋は、技術評価を取得し、建築基準法第37条の材料認定を受けたものを用いる。
- 鉄筋の加工寸法、形状、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)～(3)」による。
- 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手、機械式継手または溶接継手によることとし、鉄筋径と使用箇所を定め特記による。

表9. 4 鉄筋の継手

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級				鉄筋の径	使用箇所
	(1) 引張力最小部位	(2) (1) 以外の部位 (注)				
		A 級	B 級	SA級		
■ 重ね継手	標準図による				□ D (16) 以下	
■ 圧接継手	■ 告示1463号第2項各号				□ D (19) 以上	
□ 溶接継手	□ 告示1463号第3項各号		□		□ D () 以上	
□ 機械式継手	□ 告示1463号第4項各号		□	□	□ D () 以上	

注) (1) 以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって『鉄筋継手使用基準 (建築物の構造関係技術基準解説書 2020) 』によって検討した部材の条件・仕様によること。

□ 機械式継手および圧接継手および溶接継手は (公社) 日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」による他、所要の品質が得られるように工事計画および工事管理計画を定めて、工事監理者の承認を受ける。

■ ガス圧接の施工は、強風時または降雨時には原則として作業を行わない。ただし、風除け・覆いなどの設備をした場合には、工事監理者の承認を得て作業を行うことができる。

■ 圧接技量資格者は、(公社) 日本鉄筋継手協会によって認証された技量適格性証明書で工事監理者に提出し、承認を受ける。

□ 機械式鉄筋定着工法に用いる定着板には信頼できる機関による性能証明書等を取得した定着金物を用いる。

(b) 検査

i) 鉄筋の種類・径の検査

■ 鉄筋搬入時に鉄筋の種類と径をミルシート、ロールマーク、結束ごとの表示で確認し、必要に応じて径は計測する。

ii) 配筋の検査

■ 鉄筋の数量、材質、加工形状、配置、間隔、継手と定着の位置と長さ、カットオフ長き等を目標、又は計測で確認する。

iii) 鉄筋継手部の検査

各継手工法ごとの検査は平12建告1463号による他、具体的な検査方法は、(公社) 日本鉄筋継手協会仕様書を参照のこと。

表9. 5 鉄筋継手部の検査 (検査結果は工事監理者に報告すること)

鉄筋継手工法	検査の種類	検査数量	試験方法
圧接継手	■ 外観検査	全数 ※	目視又は計測
	□ 超音波探傷検査	抜取り1検査ロット当たり () 箇所又は () %	JIS Z 3062:2014による
溶接継手	■ 引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり () 箇所又は () %	JIS Z 3120:2014による
	□ 外観検査	全数 ※	目視又は計測
	□ 超音波探傷検査	抜取り1検査ロット当たり () 箇所又は () %	JRJS 0005:2017による
機械式継手	□ 引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり () 箇所又は () %	JIS Z 2241:2011による
	□ 外観検査	全数 ※	目視又は計測
	□ 超音波測定検査	抜取り1検査ロット当たり () 箇所又は () %	JRJS 0003:2017による
□ 引張試験による検査	抜取り1検査ロット当たり () 箇所又は () %	JIS Z 2241:2011による	

注) 1 抜取り1検査ロットは、同一作業組が同一日に作業した継手箇所で200箇所程度とする。

注) 2 ガス圧接部分の検査は超音波探傷検査によって行う場合、数ロットについては引張試験も併用し、1回の引張試験は超音波探傷試験に合格した部位から抜取った3本以上とする。

※外観検査の実施は次による。(必要に応じて測定器具等の検査機器を用いること)

表9. 6 外観検査の要領

	自主検査	受入検査		工事監理者	備 考
		検査機関	施 工 者		
□ 全数	全数	()	()		
□ 全数	超音波探傷又は超音波測定検査実施部位	検査機関による検査部位以外	()		
□ 全数	一	全数	()		
□ 全数	抜取り1検査ロット当たり () 箇所又は () %	()	()		

■ 引張試験を行う試験機関、非破壊試験を行う検査機関は、建築主、工事監理者、又は施工者が自ら契約した機関とする。

□ 試験機関は「建築物の工事における試験及び検査における東京都取扱要綱」第4条の試験機関、検査機関は同要綱第8条の検査機関とする。

試験機関名 (都知事登録 号)

検査機関名 (都知事登録 号)

(3) かぶり厚さ

- 最小かぶり厚さは、表9. 7に規定する設計かぶり厚さを10mm減じた値とする。
- 設計かぶり厚さは、コンクリート打込み時の変形・移動などを考慮して、最小かぶり厚さが確保されるように、部位・部材ごとに定めるものとし、表9. 7以上の値とする。

表9. 7 設計かぶり厚さ (単位: mm)

構造体の計画供用期間の級	標準・長期			超長期	
	部材の種類	屋 内	屋 外 ⁽²⁾	屋 内	屋 外 ⁽²⁾
構造部材	柱・梁・耐力壁	40	50	40	50
	床スラブ・屋根スラブ	30	40	40	50
非構造部材	構造部材と同等の耐久性を要求する部材	30	40	40	50
	計画供用期間中に維持保全を行う部材 ⁽¹⁾	30	40	(30)	(40)
直接土に接する柱・梁・壁・床および基礎の立上り部分、擁壁の壁部分		50			
基礎、擁壁の基礎・底盤		70			

注) (1) 計画供用期間の級が超長期で計画供用期間中に維持保全を行う部材では、維持保全の周期に応じて定める。
(2) 計画供用期間の級が標準、長期および超長期で、耐久性上有効な仕上げを施す場合は、屋外側では設計かぶり厚さを 10mm減じることができる。

■ 完成した構造体の各部位における最外側鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

□ コンクリート構造体に誘発目地・施工目地などを設ける場合は、建築基準法施行令第79条に規定する数値を満足し、構造耐力上必要な断面寸法を確保し、防水上および耐久性上有効な措置を講じれば上記によらなくても良い。

(4) 型 枠

□ 型枠および支保工の存置期間は、下表による。

表9. 8 型枠存置日数 昭和46年建設省告示第110号 (最終改正: 令和元年国土交通省告示第203号)

種 別	せ き 板				支 柱			
	基礎、梁柱、柱、壁	スラブ下、梁下		スラブ上		梁下		
セメントの種別	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	
	高収セメント A 種	高収セメント A 種	高収セメント A 種	高収セメント A 種	高収セメント A 種	高収セメント A 種	高収セメント A 種	
存置期間の平均気温	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	
	高収セメント A 種	高収セメント A 種	高収セメント A 種	高収セメント A 種	高収セメント A 種	高収セメント A 種	高収セメント A 種	
コンクリートの材性	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
（白）	5℃～15℃	3	6	6	10	12	26	30
	5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度	※ 5.0N/mm ²	設計基準強度の50%				設計基準強度の		
						85%	100%	

※ JASS 5では普通コンクリートの場合計画供用期間の級が標準にあっては 5N/mm²以上、長期及び超長期の場合は 10 N/mm²以上、また高強度コンクリートの場合は 10N/mm²以上。

注) 1 片持ち梁、底、スパン 9.0m以上の梁下は、工事監理者の承認による。

注) 2 大梁の支柱の盛替えは行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。

注) 3 支柱の盛替えは、必ず直上層のコンクリート打ち後とする。

注) 4 盛替え後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。

注) 5 支柱の盛替えは、小使が終ってからスラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って盛替えしてはならない。

注) 6 直上層に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱 (大梁の支柱を除く) の盛替えを行わないこと。

注) 7 支柱の盛替えは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動または衝撃を与えないように行うこと。

■ 構造設計 ■

有限会社トップラン 一級建築士事務所 東京都知事登録 第54769号

一級建築士: 土方 肇 一級建築士 国土交通大臣登録 第332208号

■ 設計者 ■

株式会社エンプラス建築設計事務所

一級建築士: 高橋 育雄 一級建築士 国土交通大臣登録 第351849号

新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

※修正箇所は下線を引くこと

1. 一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- (2) 記号
- d・・・異形棒筋の呼び名に用いた数値 (径) D・・・部材の成、又は鉄筋内法直径
- ⊙・・・間隔 r・・・半径 C・・・中心線 Δ・・・部分間の内法距離 h_o・・・部材間の内法高さ
- S T・・・あばら筋 H O O P・・・帯筋 S, H O O P・・・補強帯筋

2. 鉄筋加工

(1) 鉄筋の折り曲げ加工

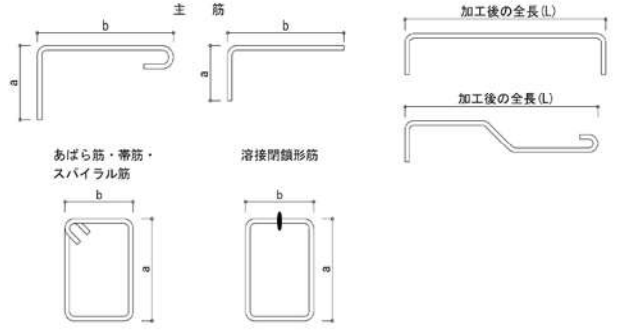
図	折り曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内法直径(D)
	180°	SD295 SD345	D16以下	3d以上
	135°	SD390	D19~D41	4d以上
	90°	SD490	D25以下	5d以上
	90°		D29~D41	6d以上

- [注] (1) dは呼び名に用いた数値とする。
- (2) スパイラル筋の重ね継手部は90° フックを用いる場合は、余長は12d以上とする。
- (3) 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90° フックまたは135° フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。
- (4) スラブ筋、壁筋には、溶接金網を除いて丸鋼を使用しない。
- (5) 折り曲げ内法直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。
- (6) SD490の鉄筋を90° を超える曲げ角度で折り曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

(2) 加工寸法の許容差

項	目	符 号	許 容 差
各加工寸法(1)	主 筋	D25以下 D29以上D41以下	a, b ± 15 ± 20
	あばら筋・帯筋・スパイラル筋	a, b	± 5
	加 工 後 の 全 長	L	± 20

[注] (1) 各加工寸法及び加工後の全長の測り方の例を下図に示す。



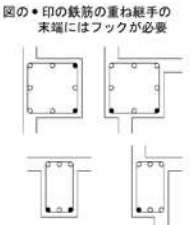
(3) 鉄筋のあき

異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上、粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mmのうち最も大きい値。



(4) 鉄筋のフック

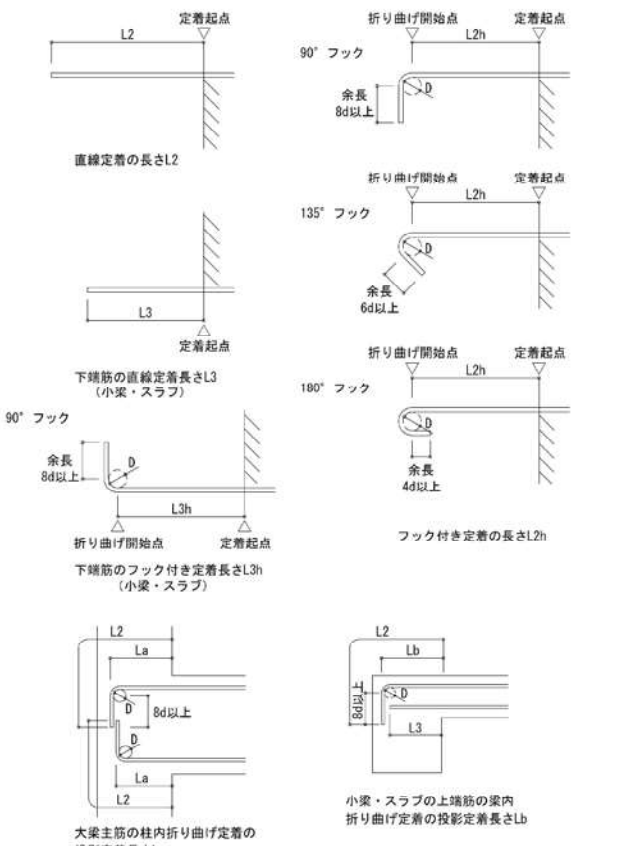
- a~eに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。
- a. あばら筋、帯筋、および幅止メ筋
- b. 煙突の鉄筋 (壁の一部となる場合を含む)
- c. 柱、梁 (基礎梁は除く) の出すみ部分
- および下端の両端にある場合の鉄筋(右図参照)
- d. 単純梁の下端筋
- e. その他、本配筋標準に記載する箇所



(5) 定着長さ (軽量コンクリートでは5dを加算する。)

鉄筋種別	コンクリートの 設計基準強度 F _o (N/mm ²)	一 般				小梁下端筋			スラブ下端筋		
		L2 (フックなし)	L2h (フックあり)	L _a ⁽³⁾	L _b	L3 (フックなし)	L3h (フックあり)	L3 (フックなし)			
SD295	18	40d	30d	20d	15d	20d	10d	10d かつ 150以上			
	21	35d	25d	15d	15d						
	24~27	30d	20d	15d	15d						
	30~36	30d	20d	15d	15d						
	39~45	25d	15d	15d	15d						
	48~60	25d	15d	15d	15d						
SD345	18	40d	30d	20d	20d				20d	10d	10d かつ 150以上
	21	35d	25d	20d	20d						
	24~27	35d	25d	20d	15d						
	30~36	30d	20d	15d	15d						
	39~45	30d	20d	15d	15d						
	48~60	25d	15d	15d	15d						
SD390	21	40d	30d	20d	20d	20d	10d	10d かつ 150以上			
	24~27	40d	30d	20d	20d						
	30~36	35d	25d	20d	15d						
	39~45	35d	25d	15d	15d						
	48~60	30d	20d	15d	15d						
	SD490	24~27	45d	35d	25d						
30~36	40d	30d	25d	—							
39~45	40d	30d	20d	—							
48~60	35d	25d	20d	—							

- [注] (1) フック付き鉄筋の定着長さL2hは、定着起点から鉄筋の折り曲げ開始点までの距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。
- (2) フック部の折り曲げ内法直径D及び余長は、「鉄筋の折り曲げ加工」の表による。
- (3) 梁主筋を柱へ定着する場合、水平定着長さがL_{2h}確保できない場合は折り曲げ定着とし、全定着長をL₂以上とともに、水平投影長さをL_a以上とし、余長を8d以上とする。尚、L_aの値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。
- (4) 耐圧スラブの下端筋の定着長は一般定着L2とする。



(6) 継手

■重ね継手 (軽量コンクリートでは5dを加算する。)

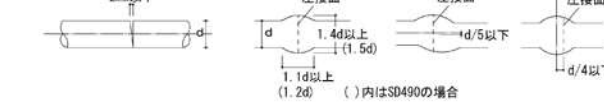
鉄筋種別	コンクリートの 設計基準強度 Fe (N/mm ²)	重ね継手長さ	
		L1 (フックなし)	L1h (フックあり)
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24～27	35d	25d
	30～36	35d	25d
	39～45	30d	20d
	48～60	30d	20d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24～27	40d	30d
	30～36	35d	25d
	39～45	35d	25d
	48～60	30d	20d
SD390	21	50d	35d
	24～27	45d	35d
	30～36	40d	30d
	39～45	40d	30d
	48～60	35d	25d
	SD490	24～27	55d
	30～36	50d	35d
	39～45	45d	35d
	48～60	40d	30d

- [注] (1) 表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。
- (2) 直径の異なる鉄筋相互の重ね継手の長さは、細い方のdによる。
- (3) フック付き重ね継手の長さは、鉄筋相互の折り曲げ開始点間の距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は継手長さに含まない。

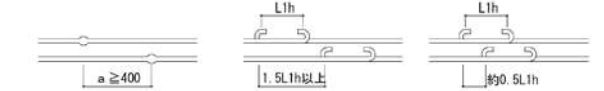
■継手に関する注意

- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
- D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。
- 鉄筋径dの差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない。
- ガス圧接継手の形状、および継手の配置は下図による。

・ガス圧接形状 (平成12年建設省告示1463号下図のほか、折れ曲がり、焼き割れ、へこみ、垂れ下がり及び内部欠損がないもの)



・圧接継手



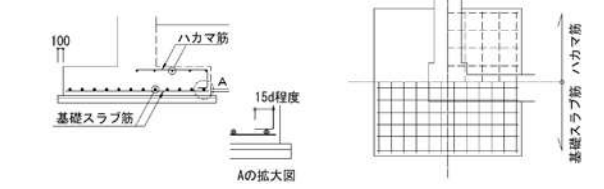
- 溶接継手および機械式継手を用いる場合は、信頼できる機関の評定を受けたA級継手工法とする。
- 非破壊検査は工事監理者が承認した信頼できる検査機関で行うこと。

3. 杭・基礎

(配筋については地震力等の水平力等を考慮して別途検討すること)

(1) 直接基礎

①独立基礎



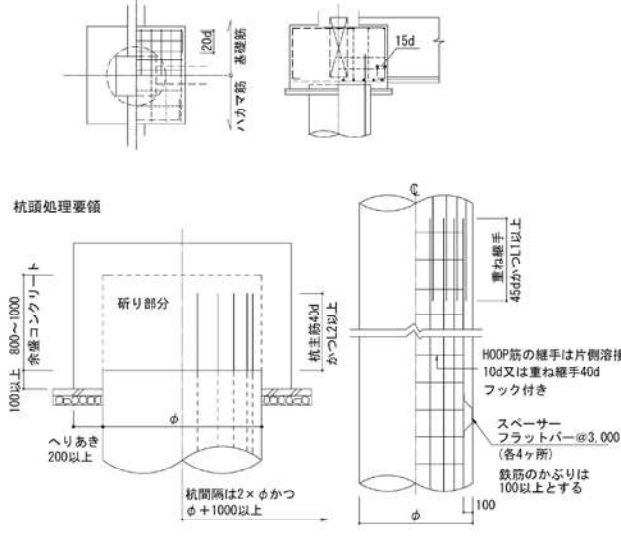
②ベタ基礎



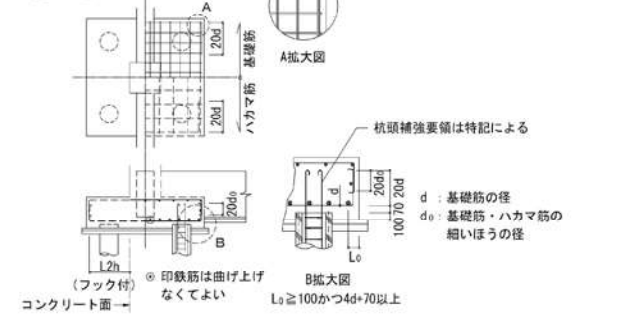
- ハンチを付けた場合 (a ≥ 3)
- 耐圧鉄筋の継手位置は床スラブにならう。但し上筋と下筋を読みかえる。
 - ①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする。
 - ②の鉄筋はD13以上。
 - 埋戻し土のある場合は40を70とする。

(2) 杭基礎

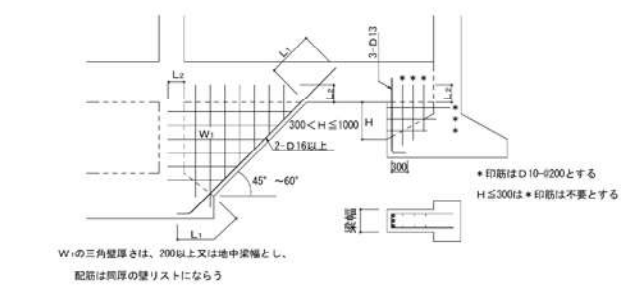
① 場所打ち杭



② PHC杭



(3) 基礎接合部の補強



■構造設計■
有限会社トッパン 一級建築士事務所 東京都知事登録 第54769号
一級建築士: 土方 肇 一級建築士 国土交通大臣登録 第332208号

■設計者■
株式会社エンプラス建築設計事務所
一級建築士: 高橋育雄 一級建築士 国土交通大臣登録 第351849号

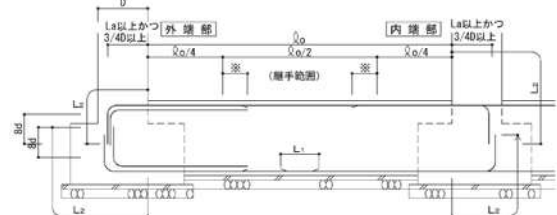
設計年月日	令和 6 年 2 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日
特記事項		特記事項		特記事項	

新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

※修正箇所は下線を引くこと

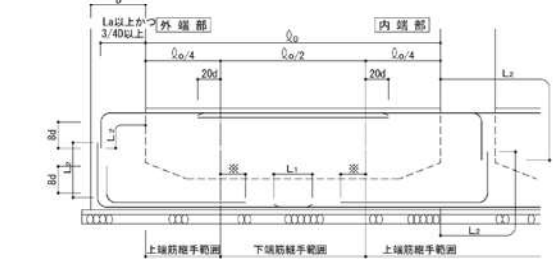
4. 地中梁

- (1) 独立基礎、杭基礎の場合(定着、継手)
(長期荷重が支配的な場合の継手は6. (2) 大梁継手位置とする。)



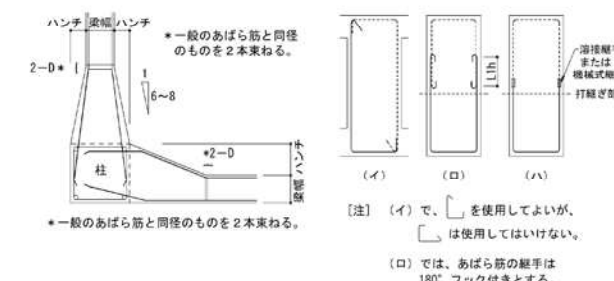
※主筋のカットオフ長さは $D/4 + 15d$ を基本とし、特別な長さを要する部分は6. 大梁の項の表6-1による。

- (2) 布基礎、べた基礎の場合(定着、継手)

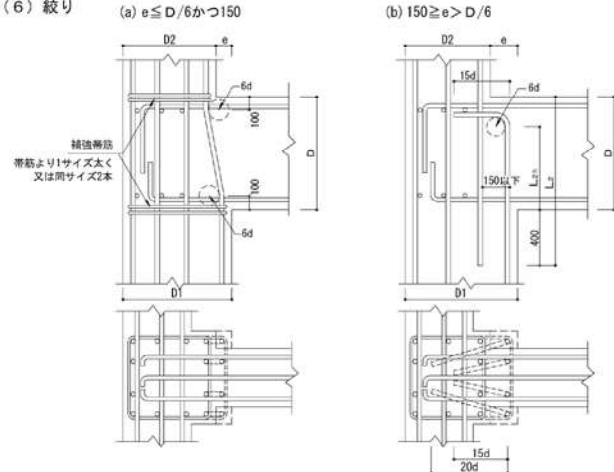


※主筋のカットオフ長さは $D/4 + 15d$ を基本とし、特別な長さを要する部分は6. 大梁の項の表6-1による。

- (3) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領 (4) せいの高い梁のあばら筋加工要領図

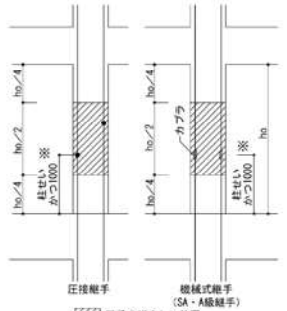


- (6) 絞り



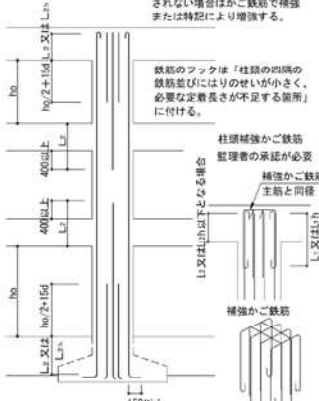
5. 柱

- (1) 柱主筋の継手位置

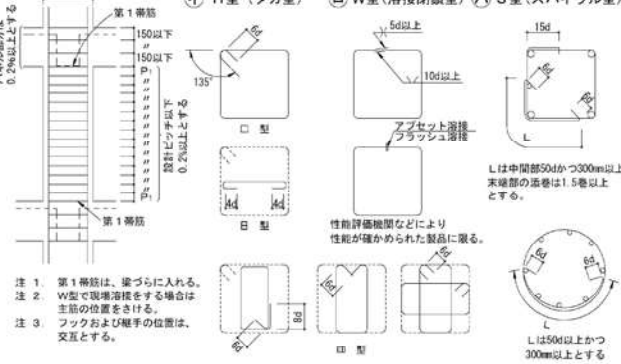


※ 柱せいが1.0mを超える場合の1階の継手位置は特記による。

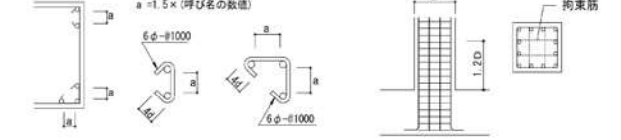
- (2) 柱主筋の定着



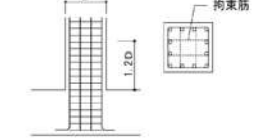
- (3) 帯筋



- (4) 寄せ筋の保持



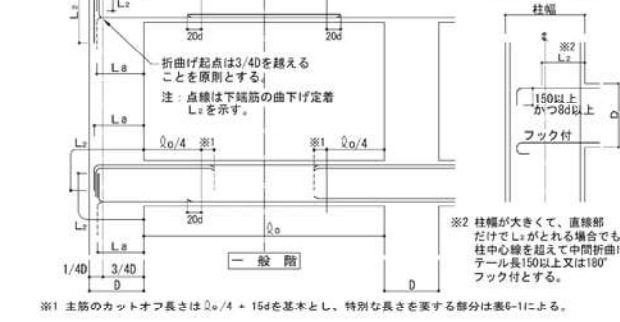
- (5) 柱脚部の補強



6. 大梁

- (1) 定着

- a) 一般



- b) ハンチがある場合

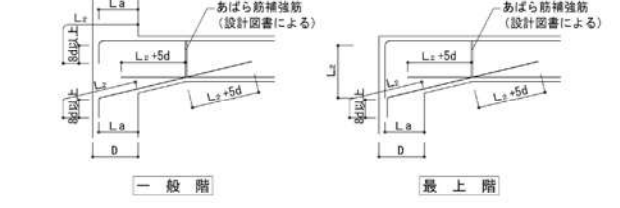
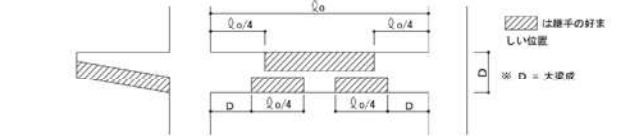
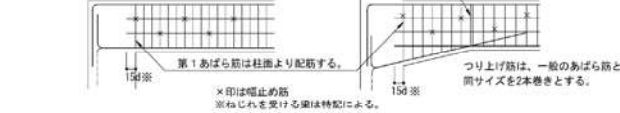


表6-1 特別なカットオフ長さを要する部材 (mm)			
部 材 名	$D/4$ に加える長さ	部 材 名	$D/4$ に加える長さ

- (2) 大梁主筋の継手



- (3) あばら筋、腹筋、幅止めの配置



- (4) あばら筋の型

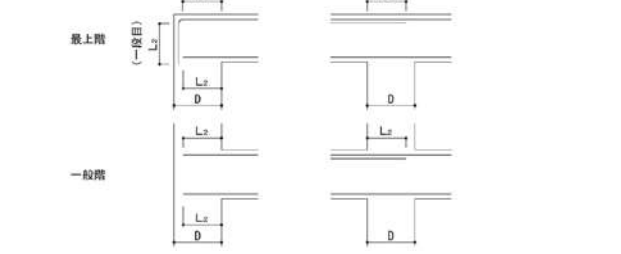


- (5) 幅止め筋の本数、加工

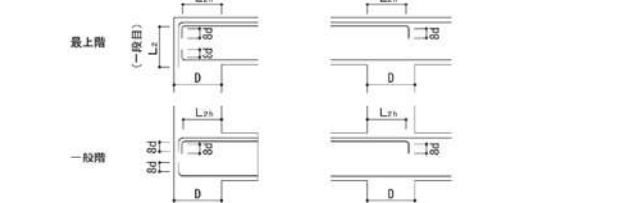
腹 筋	幅止め筋
D < 600 不要	
600 ≤ D < 900 2-D10 1段	
900 ≤ D < 1200 4-D10 2段	
1200 ≤ D D10≒300以内	
1200以上 D13≒300以内	
幅止め筋 D10≒1000以内で割り付ける	

- (6) 梁主筋の定着

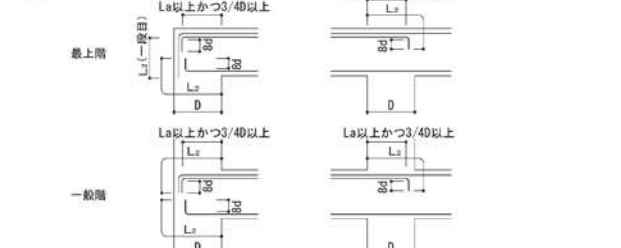
- ① 直線定着



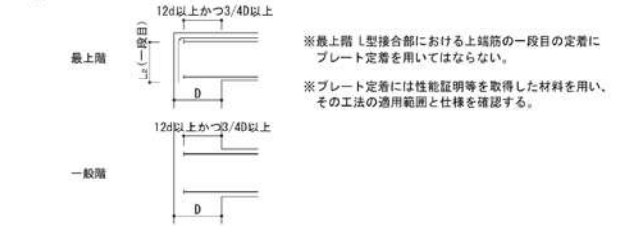
- ② 90° フック付直線定着



- ③ 折曲げ定着



- ④ プレート定着

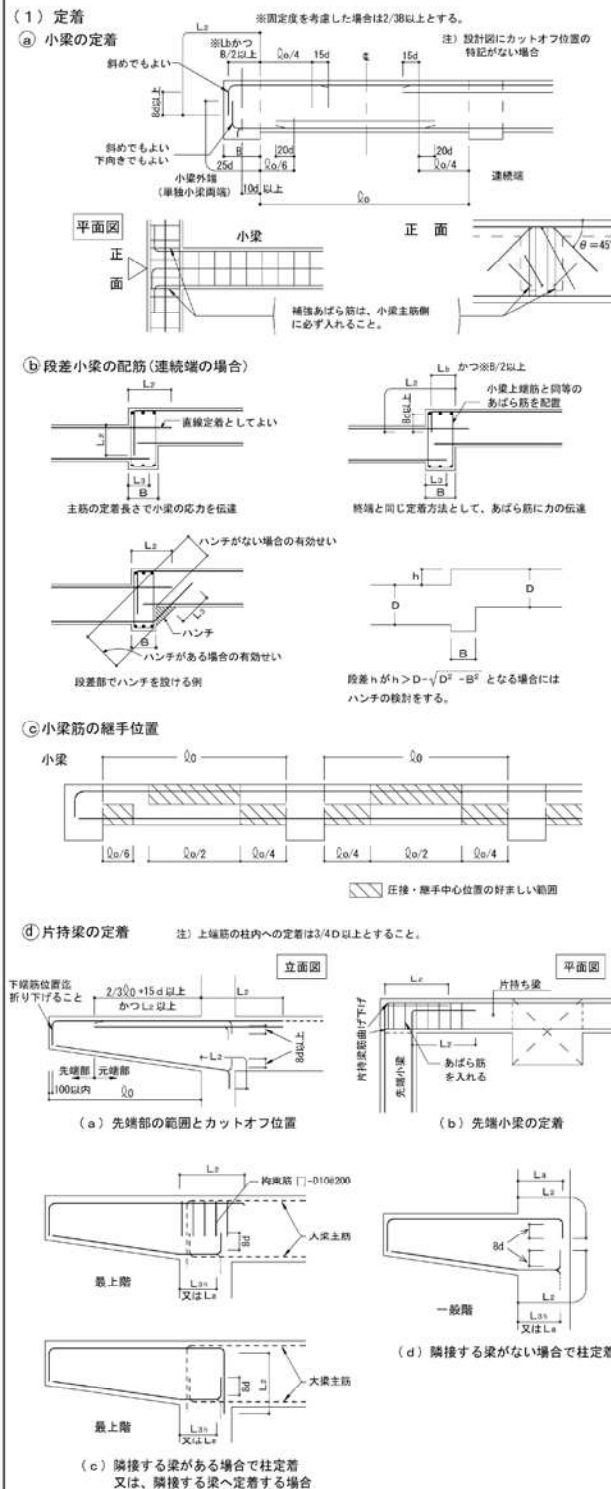


■構造設計■
有限会社トプラン 一級建築士事務所 東京都知事登録 第54769号
一級建築士: 土方 蔵 一級建築士 国土交通大臣登録 第332208号

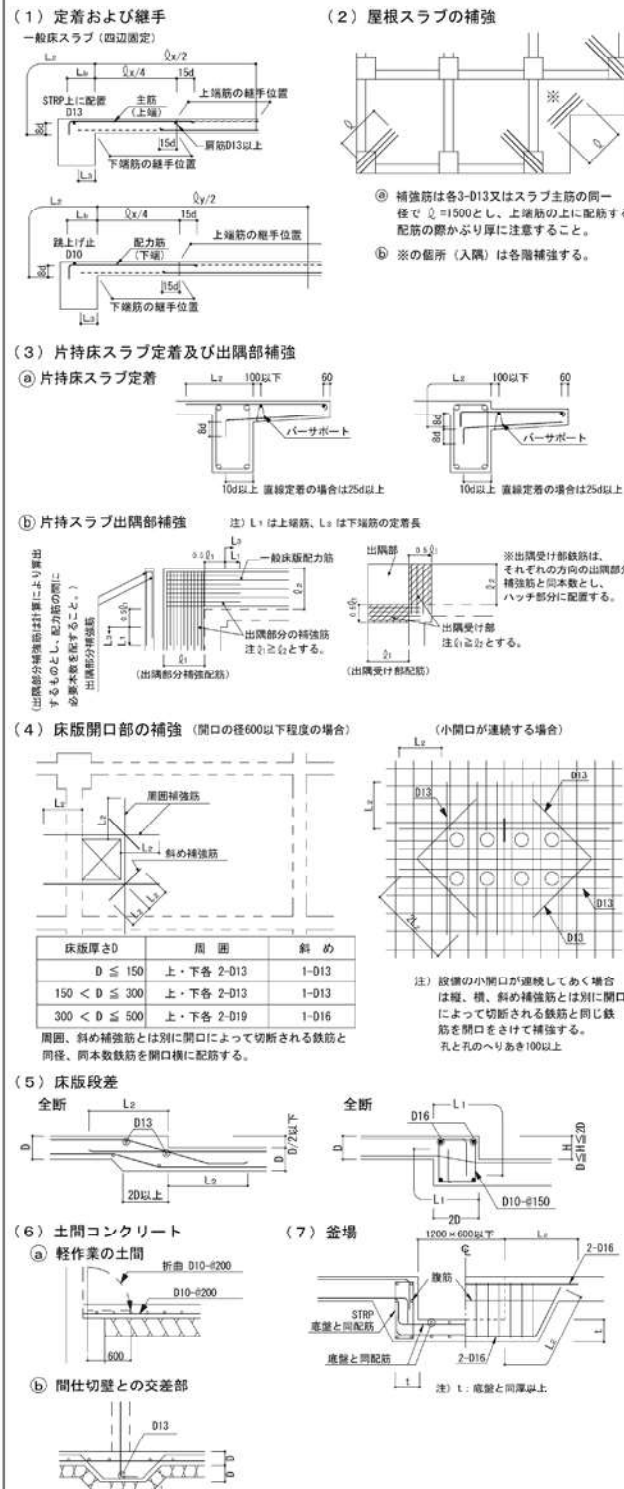
■設計者■
株式会社エンプラス建築設計事務所
一級建築士: 高橋育雄 一級建築士 国土交通大臣登録 第351849号

新 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (3)

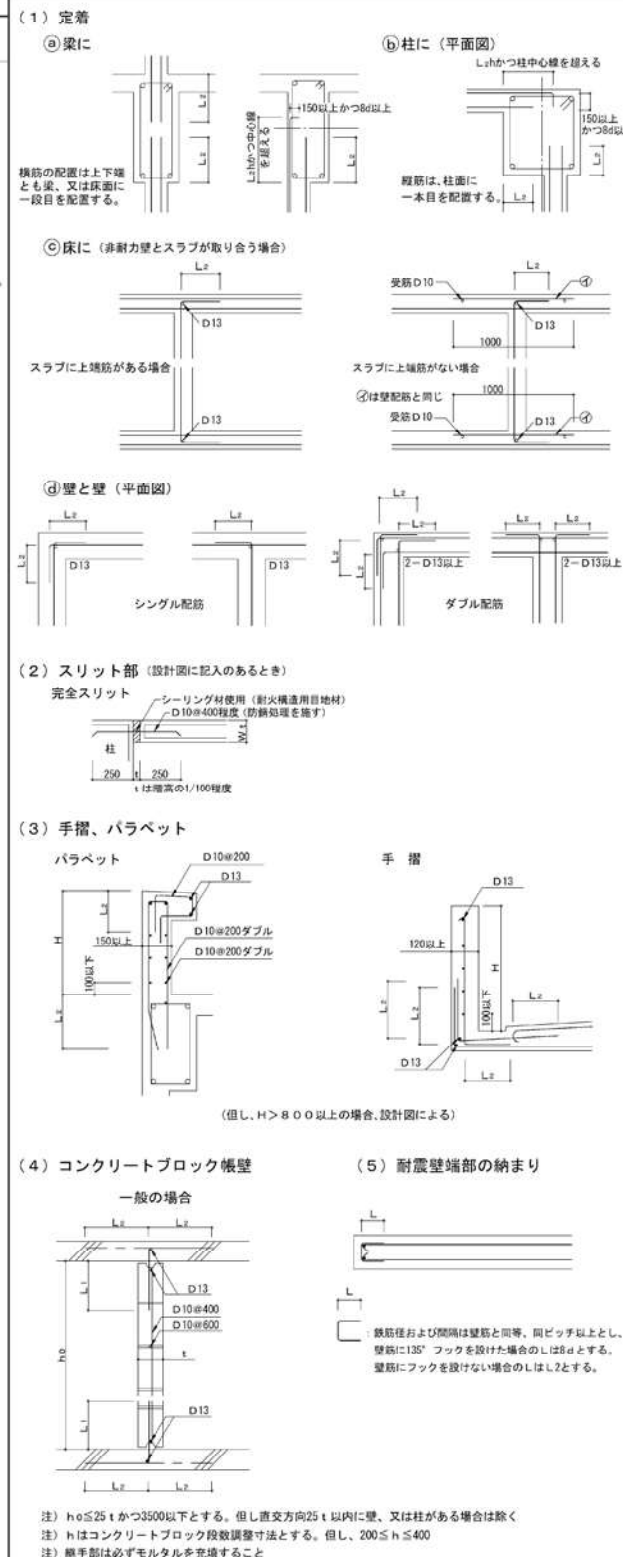
7. 小梁、片持梁



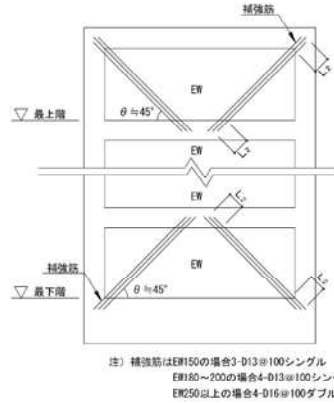
8. 床 版



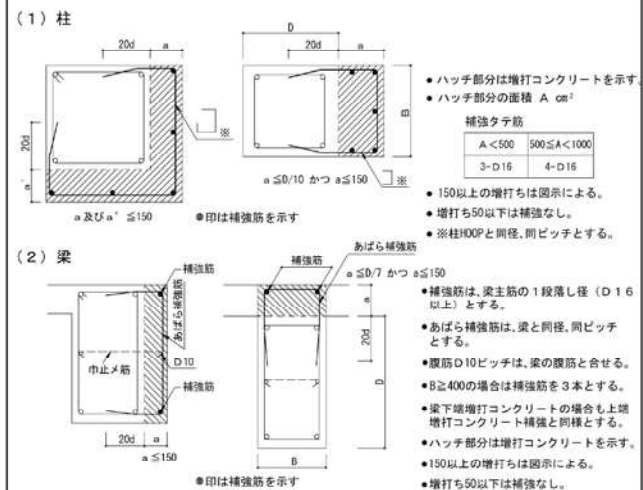
9. 壁



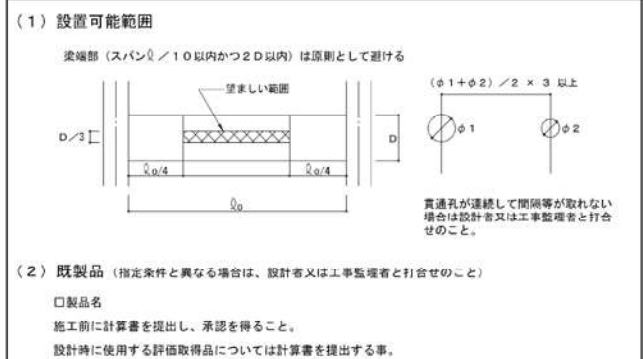
(6) 運層耐震壁乾燥収縮の補強筋



10. 柱、梁増打コンクリート補強 (増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと)



11. 梁貫通孔補強 (開口補強筋については計算により確認すること)



■構造設計■
有限会社トップラン 一級建築士事務所 東京都知事登録 第54769号
一級建築士: 土方 蔵 一級建築士 国土交通大臣登録 第332208号

■設計者■
株式会社エンプラス建築設計事務所
一級建築士: 高橋育雄 一級建築士 国土交通大臣登録 第351849号

鉄骨構造標準図(2)

※修正箇所は下線を引くこと

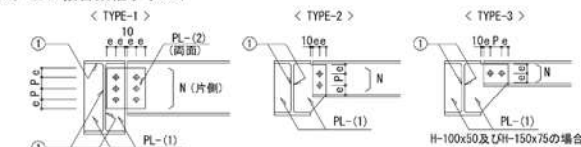
3. 継手規準図, その他

(1) 高力ボルト、ボルト、アンカーボルトのピッチ(P) ボルト穴径・最小縁端距離(mm)

呼び径 d	ボルト穴径	最小縁端距離 (e)				ピッチ (P)	
		(1)	(2)	(3)	(2) (3) の標準	最小	標準
高力ボルト	M16	18	40	28	22	40	60
	M20	22	50	34	26	40	60
	M22	24	55	38	28	40	60
	M24	26	60	44	32	45	60
アンカーボルトはボルト・ボルトを 示す	M16	21 (16.5)		28	22	(40)	(60)
	M20	25 (20.5)		34	26	(40)	(60)
	M22	27 (22.5)		38	28	(40)	(60)
	M24	29 (24.5)		44	32	(45)	(60)
	M27	32		49	36		(70)
	M30	35		54	40		
	M30	呼び径+5		9d/5	4d/3		

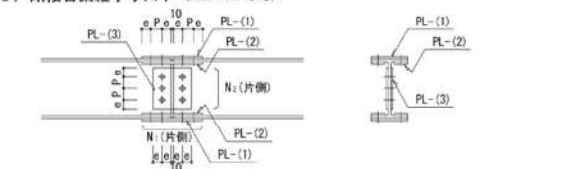
- [注] (1) 引継材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離。
(2) せん断線・半動ガス切断線の場合の縁端距離。
(3) 圧延線・自動ガス切断線・のこ引き線・機械仕上線の場合の縁端距離。

(2) 接合梁継手リスト



符号	タイプ	部 材	PL-(1)	PL-(2)	N - 径
3	H-125・60・6-8		6		2-M16
3	H-150・75・5-7		6		2-M16
2	H-175・90・5-8		6		2-M16
2	H-200・100・5.5-8		6		2-M16
2	H-250・125・6-9		6		3-M16
2	H-300・150・6.5-9		9		3-M20
2	H-350・175・7-11		9		4-M20
1	H-350・175・7-11		9	6	4-M20
2	H-400・200・8-13		9		5-M20
1	H-400・200・8-13		9	9	4-M20

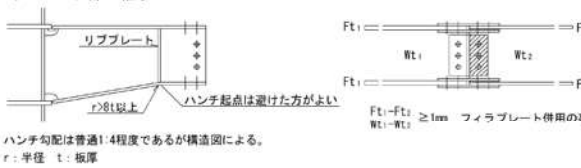
(3) 剛接合梁継手リスト (SCSS-H97による)



[注] 端部をBとする場合の部材は設計図による。

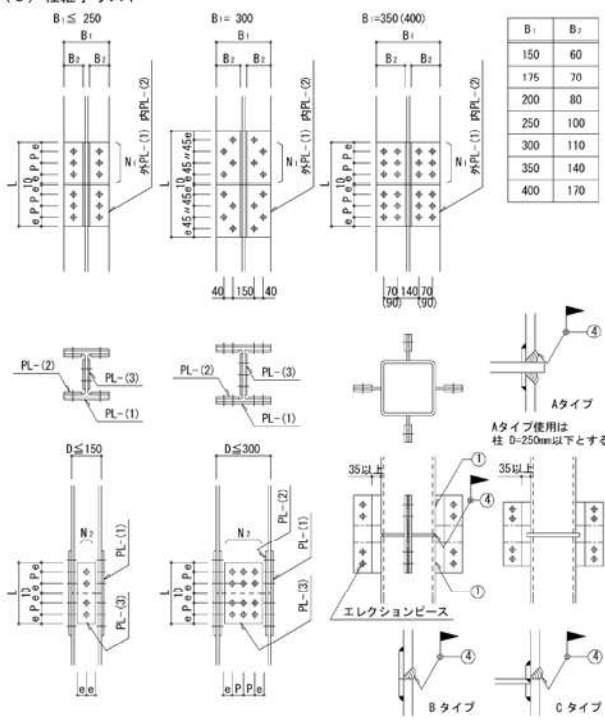
符号	部 材	フランジ		ウェブ	
		PL-(1)	PL-(2)	N - 径	PL-(3)

(4) ハンチ部の継手



ハンチ勾配は普通1/4程度であるが構造図による。
r: 半径 t: 板厚

(5) 柱継手リスト



[注] 現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%行う。

符号	部 材	フランジ		ウェブ	
		PL-(1)	PL-(2)	N - 径	PL-(3)

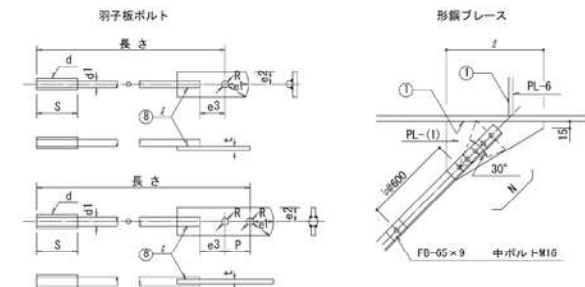
(6) ターンバックルブレース (JIS規格品とする ... JIS A 5540 ... 2008 / 5541 ... 2008)

ねじの呼び (d)		M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径 d1	最 大	10.83	12.66	14.66	16.33	18.33	20.33	22.00
	最 小	10.59	12.41	14.41	16.07	18.07	20.07	21.69
鋼管ねじの長さ		S 100	115	125	140	150	165	175
取付けボルト穴径		R 17.0	17.0	17.0	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき (最小)		(2) e1	40	40	45	50	55	50
切板製	ヘリあき (最小)	(1) e2	28	28	28	34	34	38
	板 厚	t	6	6	6	9	9	9
平鋼製	ヘリあき (最小)	(1) e2	25.0	25.0	25.0	32.5	32.5	37.5
	板 厚	t	6	6	6	9	9	9
ボルト頭から取付ボルト穴迄の長さ (最小)		e3	52	52	59	66	73	70
溶接長さ (最小)		W	40	50	55	60	75	85
(2) 取付ボルト	種 類	JIS B 1186 2種高力ボルト (F10T) (3)						
	ねじの呼び	M16	M16	M16	M20	M20	M22	M20
本 数		1	1	1	1	1	1	2

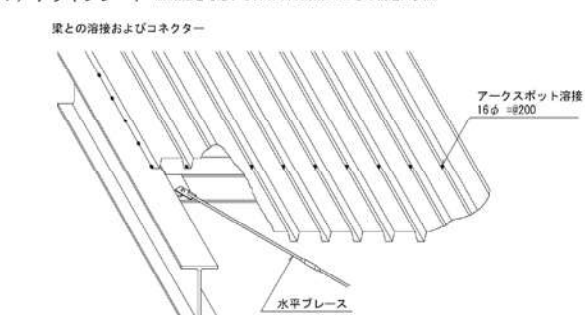
- [注] (1) e1, e2が確保されてれば形状は自由でよい。
(2) 羽子板とガセットプレートの場合は表に示す取付けボルトを使用し、一面せん断(支圧)接合とする。
(3) 溶融亜鉛めっき製品では、JIS B 1186 に規定する 1 種 F8TAに準じるものを使用する。

(b) 形鋼ブレース

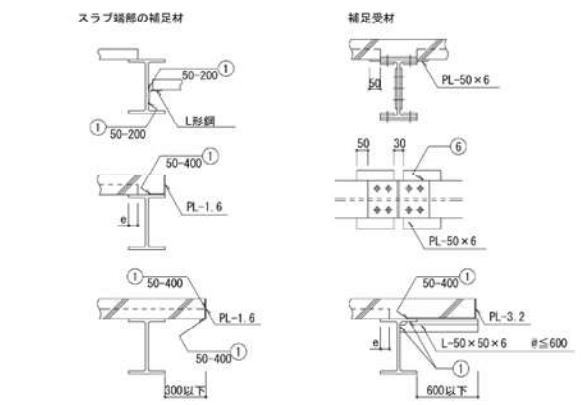
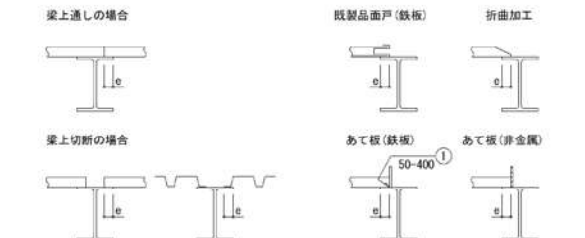
符号	部 材	PL-(1)	N - 径	d



(7) デッキプレート (床剛性を考慮する合成床, 合成床のときは構造図参照)

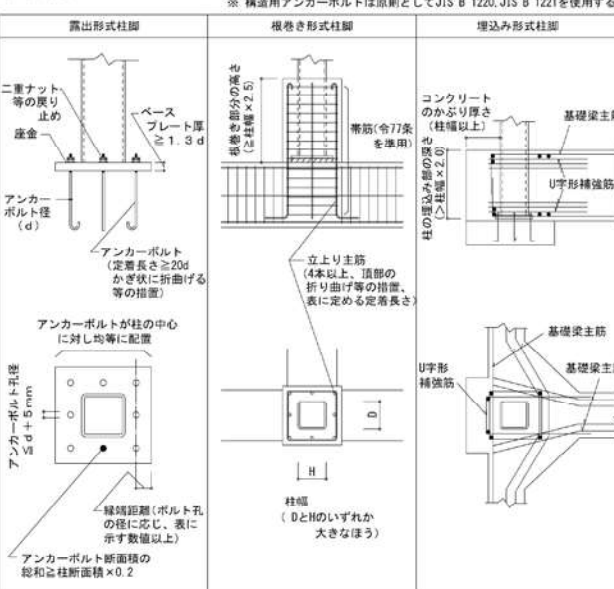


受梁へのかかり寸法及端部処理 e: 長手方向で50mm以上、横方向で30mm以上とする。且つ、各メーカーの仕様による。



(8) 柱脚

[注] 許容応力度計算を行わなかった場合の構造形式
※ 構造用アンカーボルトは原則としてJIS B 1220, JIS B 1221を使用する。

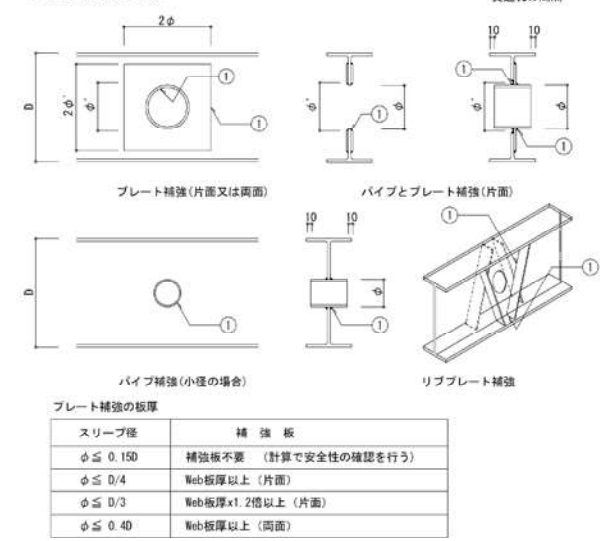


(9) 頭付きスタッド (JIS B 1198 - 2011)

形状	スタッド材				
	呼び名	軸径 d mm	頭径 D mm	頭高さ T mm	呼び長さ L mm
φ13 mm	φ13 mm	13	25	8	□80 □100 □120 □
	φ16 mm	16	29	8	□80 □100 □120 □
	φ19 mm	19	32	10	□80 □100 □120 □150 □
	φ22 mm	22	35	10	□80 □100 □120 □150 □
φ25 mm	φ25 mm	25	41	12	□120 □150 □170 □

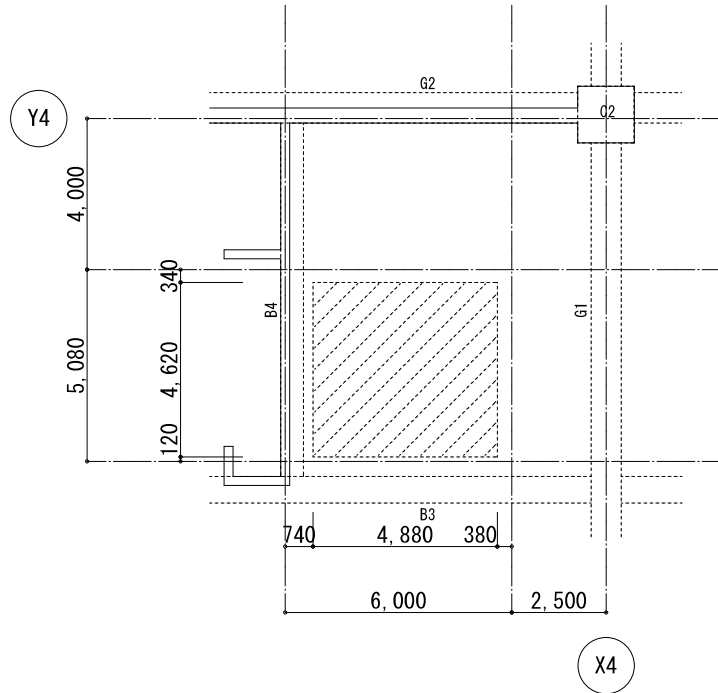
(10) 梁貫通補強

- 計算で確認された場合は下図の位置、寸法及び補強方法によらずに良い。
- 束端部 (内法スパンの1/10以内かつ、20以内) は避ける。
- φ ≤ 0.40
- φ' は補強板の穴径を示す。

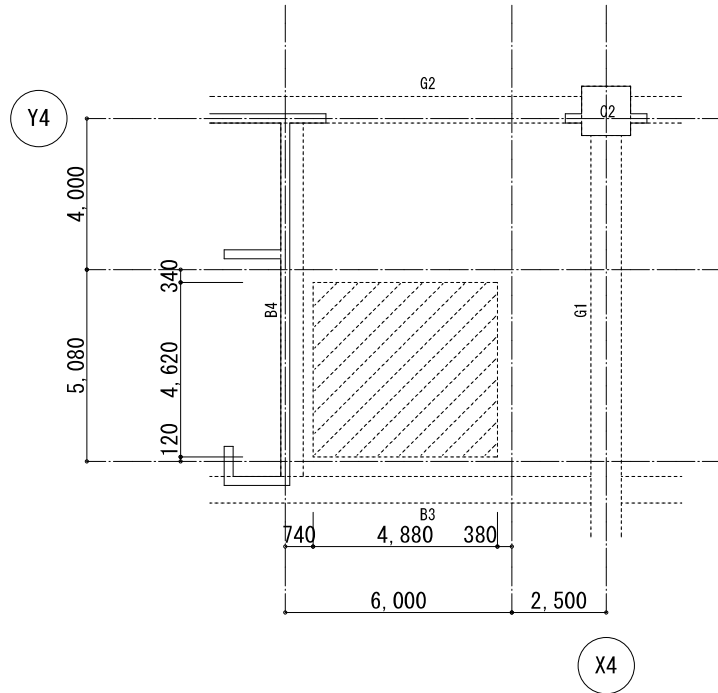


■構造設計■
有限会社トップラン 一級建築士事務所 東京都知事登録 第54769号
一級建築士: 土方 蔵 一級建築士 国土交通大臣登録 第332208号

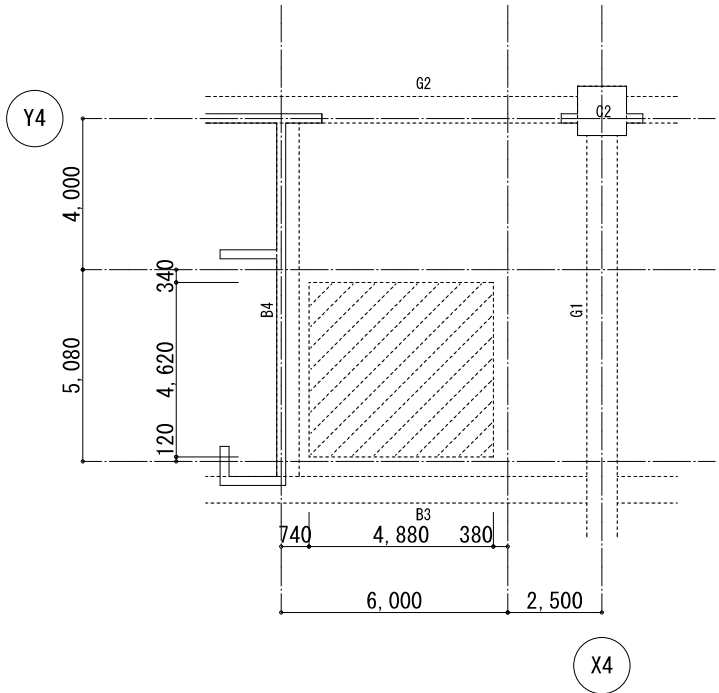
■設計者■
株式会社エンプラス建築設計事務所
一級建築士: 高橋 育雄 一級建築士 国土交通大臣登録 第351849号



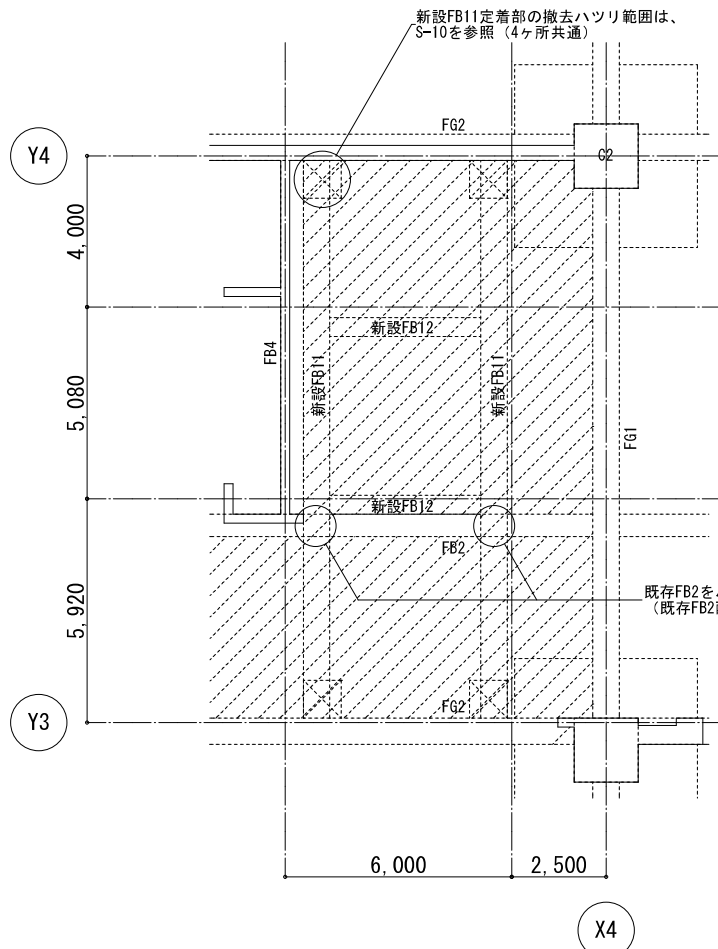
2 階梁伏図 S=1/50



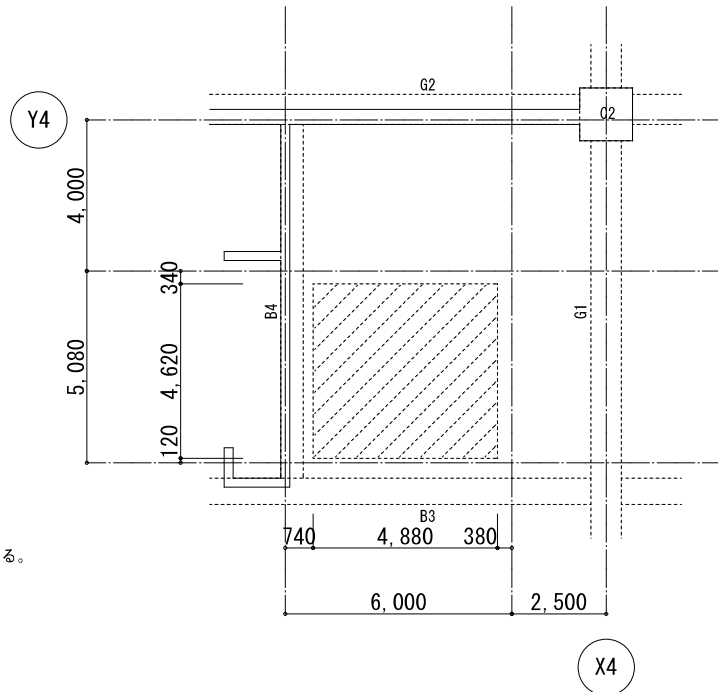
4 階梁伏図 S=1/50



5 階梁伏図 S=1/50



1 階梁伏図 S=1/50



3 階梁伏図 S=1/50

凡 例



スラブ撤去範囲を示す。
撤去スラブの四隅には、コンクリートカッターを使用すること。

既存柱リスト

C2		
階	Dx	x Dy
5	600	x 600
4	650	x 650
3	700	x 700
2	750	x 750
1	850	x 850

既存基礎梁リスト

符 号	b x D
FG1	350 x 1500
FG2	350 x 1500
FB2	300 x 800
FB4	300 x 500

既存小梁リスト

符 号	b x D
B3	350 x 600
B4	300 x 450

既存床版リスト

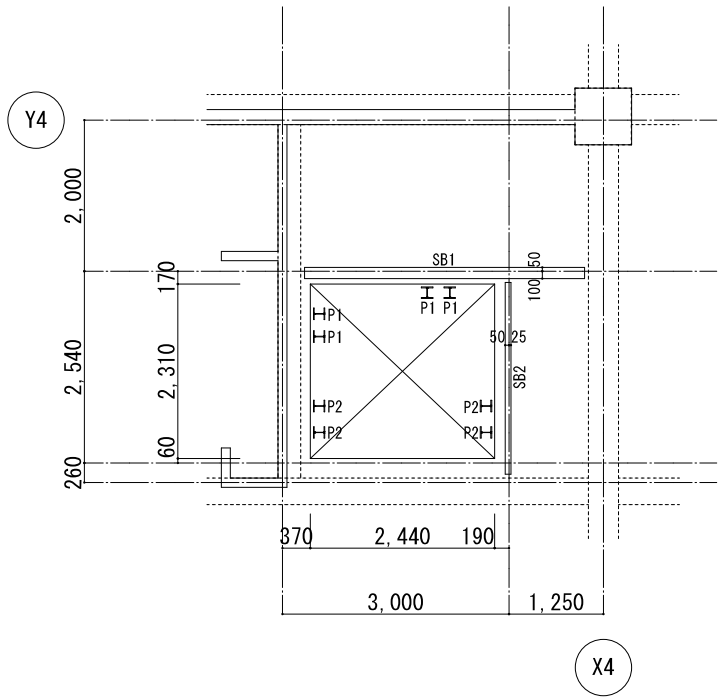
階	t
5	120
4	120
3	120
2	120
土間コンクリート	120

既存基礎梁リスト

階	G1	G2	
	b x D	b x D	
5	400 x 850	350 x 850	
4	400 x 850	350 x 850	
3	400 x 850	400 x 850	
2	400 x 850	400 x 900	

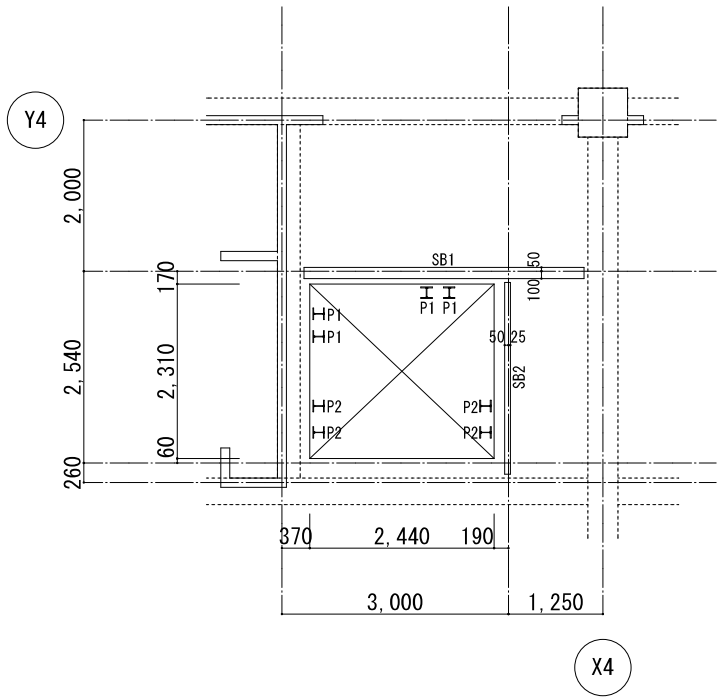
■構造設計■
有限会社トップラン 一級建築士事務所 東京都知事登録 第54769号
一級建築士： 土方 巖 一級建築士 国土交通大臣登録 第332208号

■設計者■
株式会社エンプラス建築設計事務所
一級建築士： 高橋育雄 一級建築士 国土交通大臣登録 第351849号



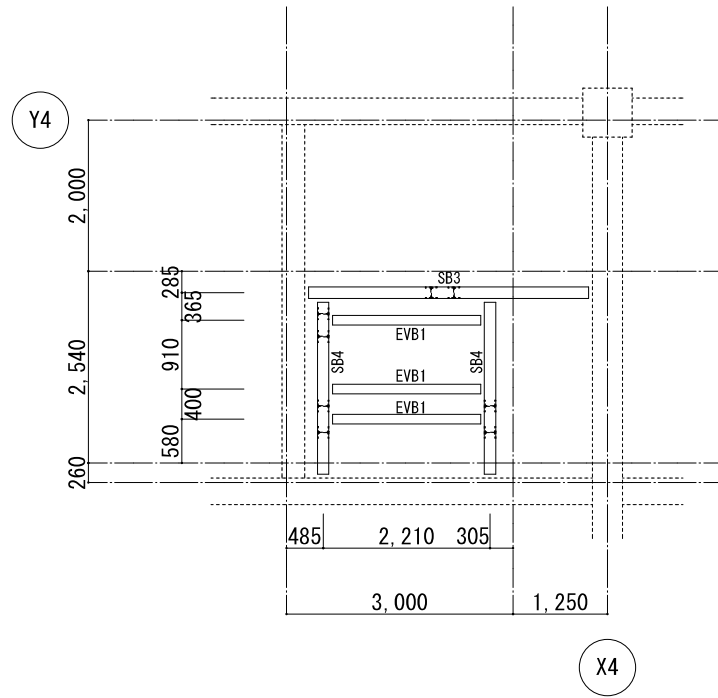
2 階 梁 伏 図 S=1/50

特記なき限り下記による。
1) SB1, SB2天端レベルはFL-200とする。



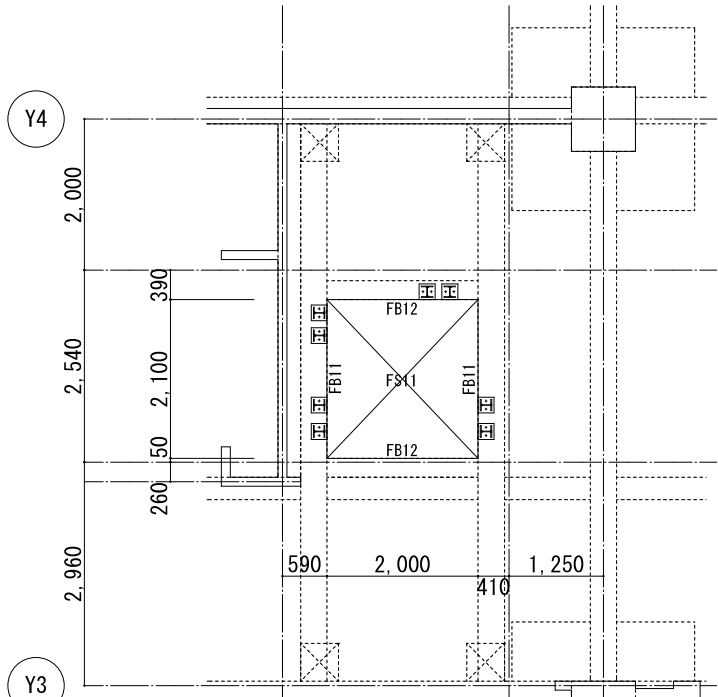
4 階 梁 伏 図 S=1/50

特記なき限り下記による。
1) SB1, SB2天端レベルはFL-200とする。



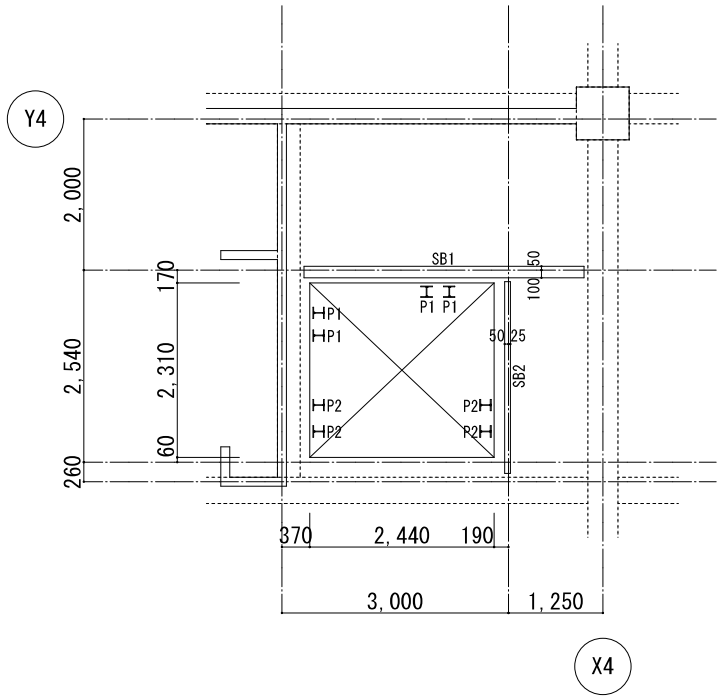
R 階 梁 伏 図 S=1/50

特記なき限り下記による。
1) SB3, SB4天端レベルはRSL-170とする。



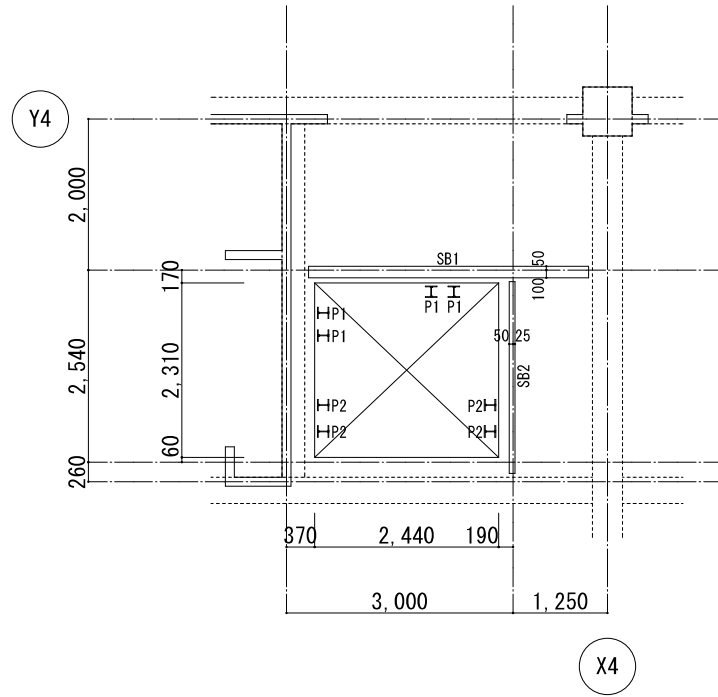
1 階 梁 伏 図 S=1/50

特記なき限り下記による。
1) FB11, FB12天端レベルはFL-300とする。
2) FS11天端レベルはFL-1250とする。



3 階 梁 伏 図 S=1/50

特記なき限り下記による。
1) SB1, SB2天端レベルはFL-200とする。



5 階 梁 伏 図 S=1/50

特記なき限り下記による。
1) SB1, SB2天端レベルはFL-200とする。

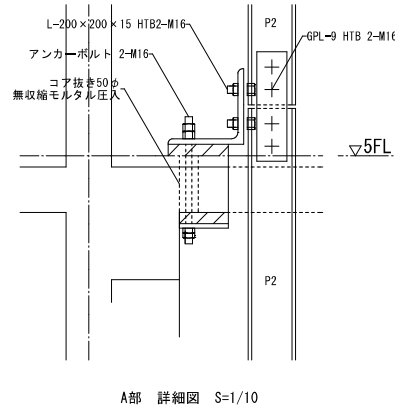
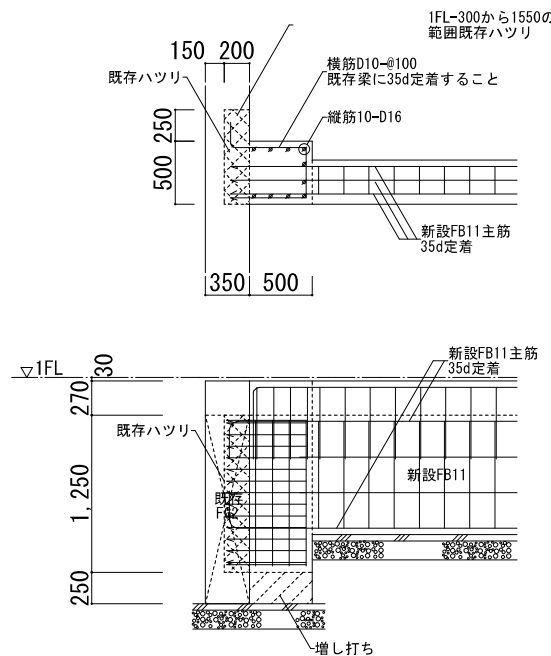
■構造設計■
有限会社トップラン 一級建築士事務所 東京都知事登録 第54769号
一級建築士： 土方 巖 一級建築士 国土交通大臣登録 第332208号

■設計者■
株式会社エンプラス建築設計事務所
一級建築士： 高橋育雄 一級建築士 国土交通大臣登録 第351849号

新設基礎梁リスト S=1/30

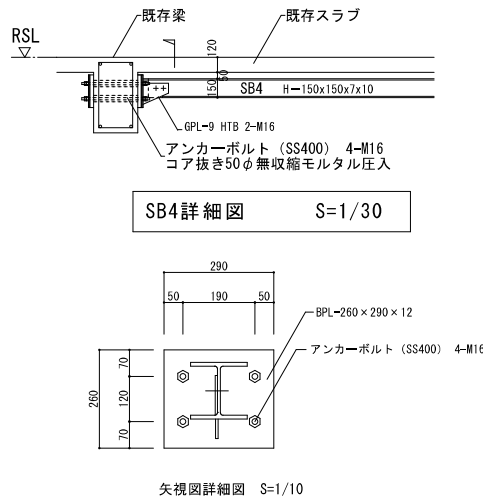
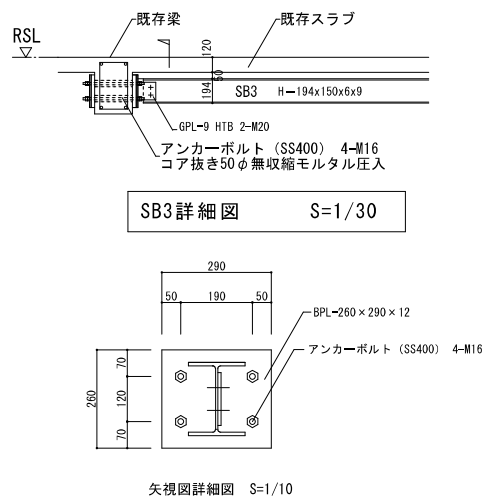
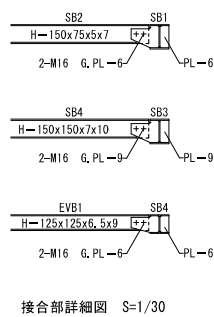
特記なき限り
巾止筋はD10-@1000とする

符 号	FB11		FB12
位 置	兩 端	中 央	全断面
断 面			
B × D	350x950		250x950
上端筋	3-D19	3-D19	2-D19
下端筋	3-D19	6-D19	2-D19
肋 筋	2-D10-@200		2-D10-@200
腹 筋	4-D10		4-D10



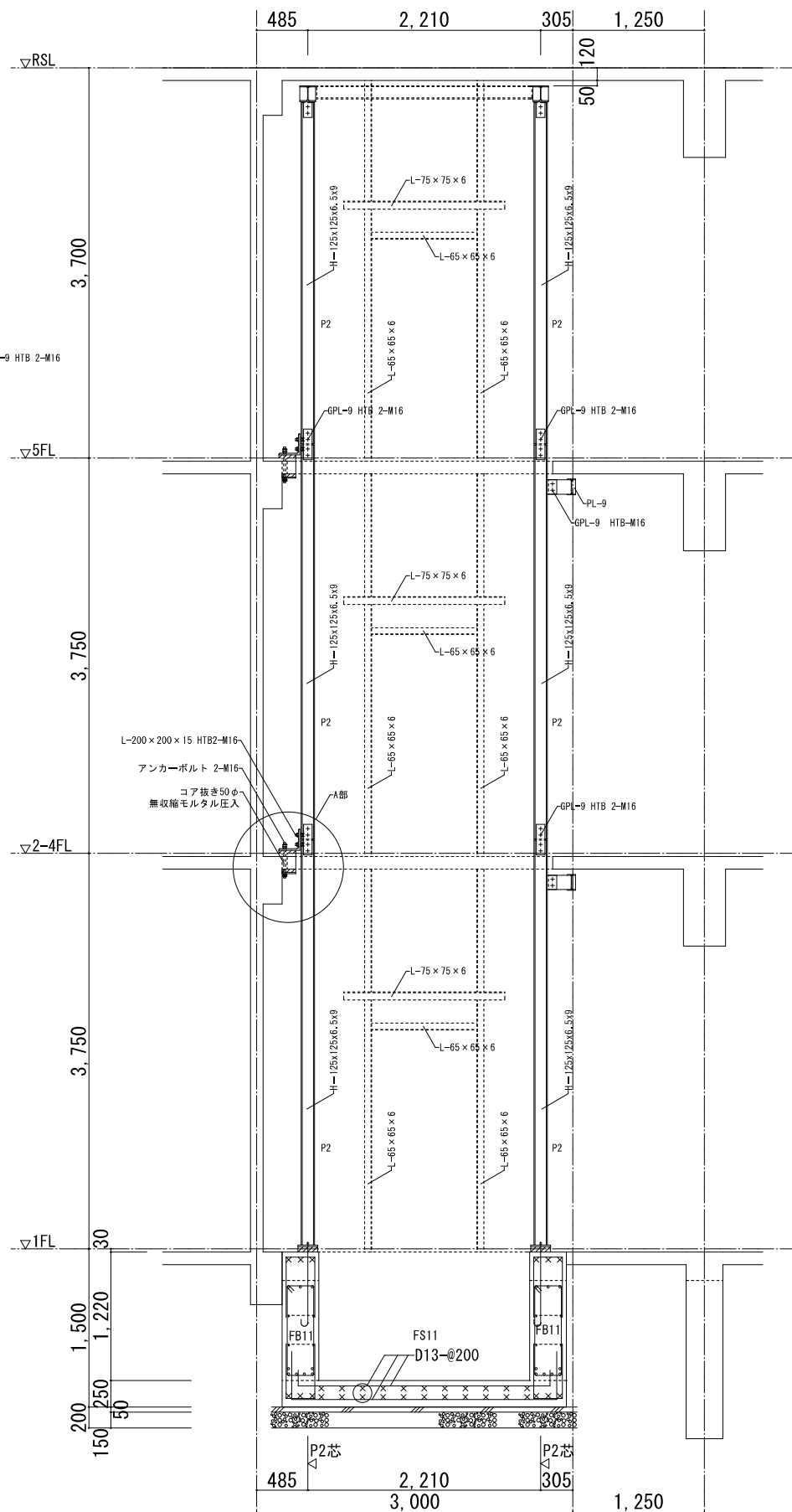
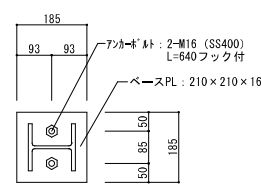
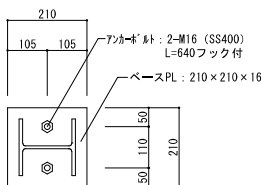
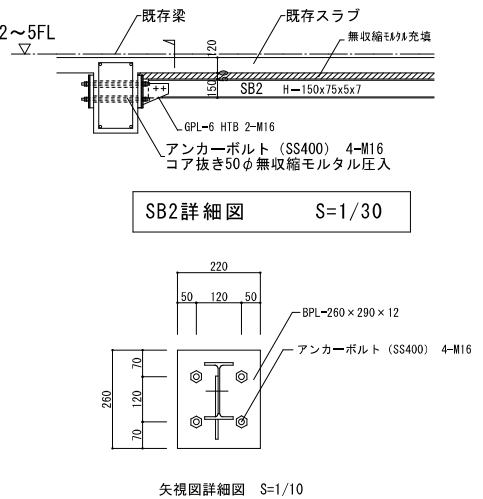
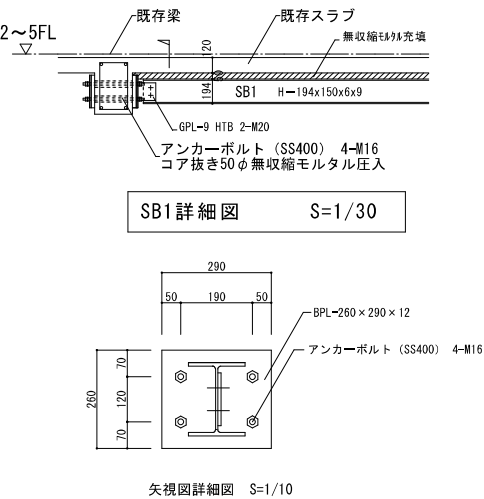
小梁リスト

符 号	主 材	H. T. B	G. PL
SB1	H—194x150x6x9	2-M20	G. PL—9
SB2	H—150x75x5x7	2-M16	G. PL—6
SB3	H—194x150x6x9	2-M20	G. PL—9
SB4	H—150x150x7x10	2-M16	G. PL—9
EVB1	H—125x125x6.5x9	2-M16	G. PL—6



EV柱リスト

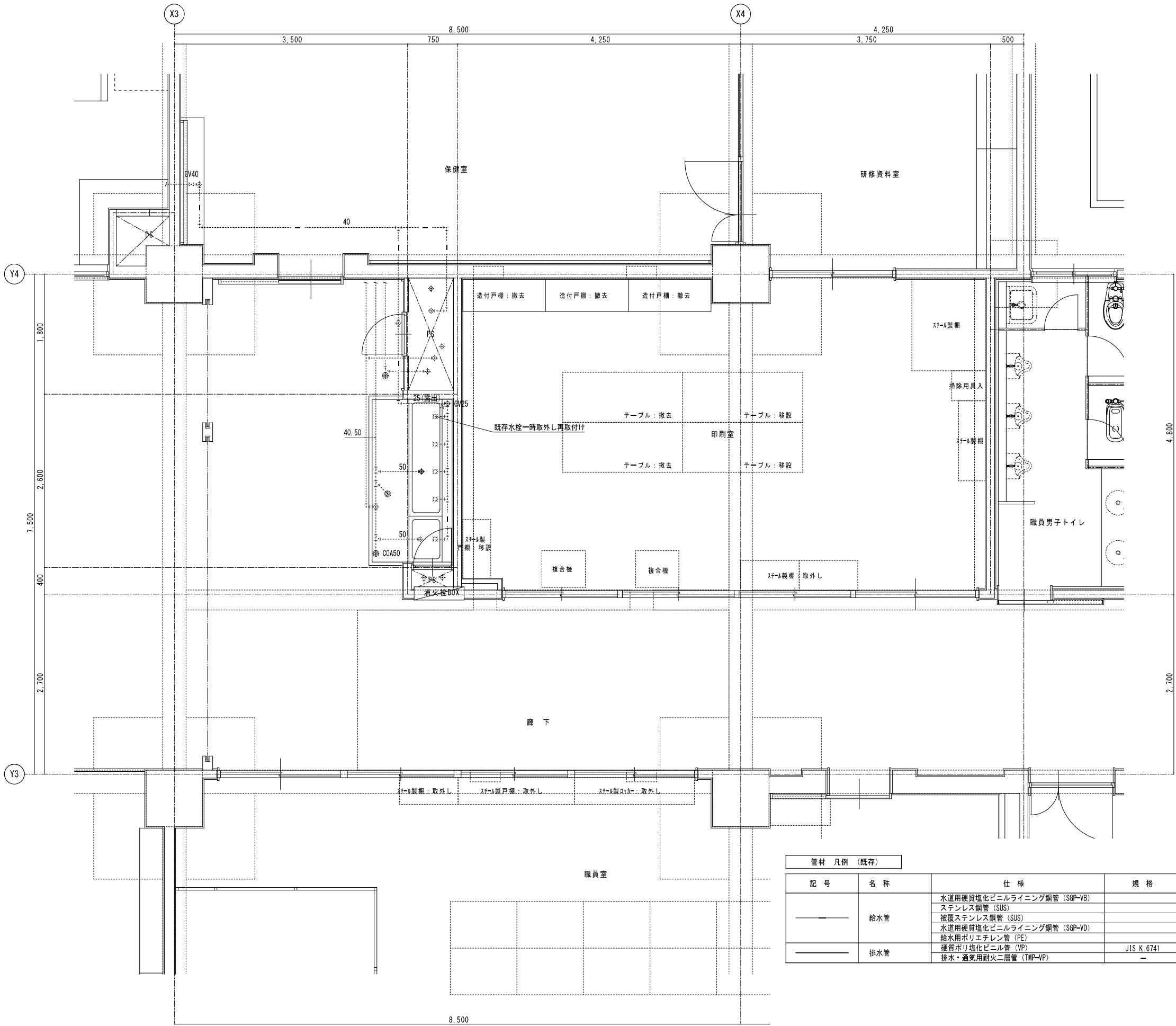
符 号	主 材	繼 手	
		H. T. B	PL
P1	H—150x150x7x10	2—M16	2PL—6
P2	H—125x125x6, 5x9	2—M16	2PL—6



■構造設計■
 有限会社トップラン 一級建築士事務所 東京都知事登録 第54769号
 一級建築士： 土方 巖 一級建築士 国土交通大臣登録 第332208号

■設計者■
株式会社エンプラス建築設計事務所
一級建築士： 高橋育雄 一級建築士 国土交通大臣登録 第351849号

既存



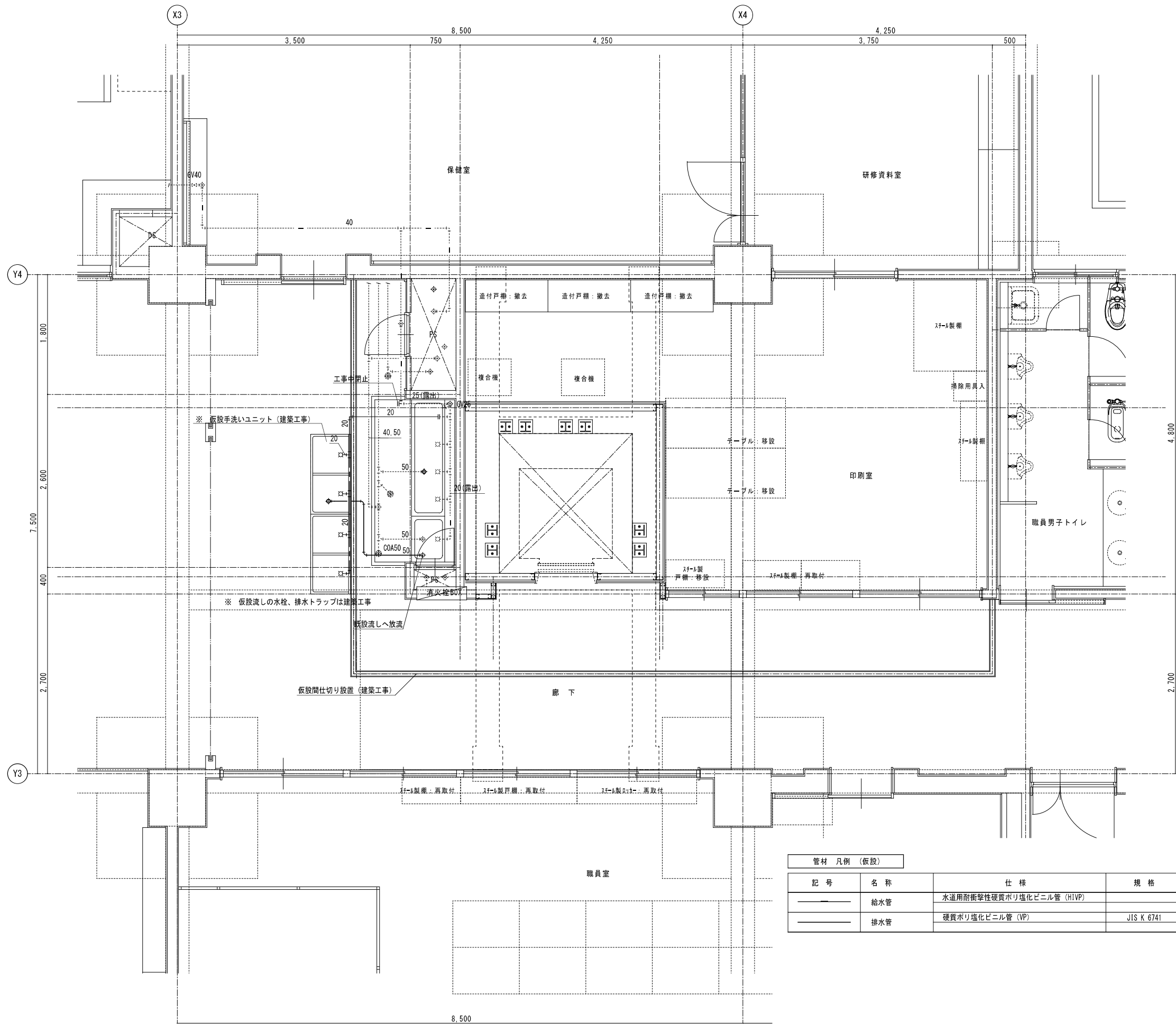
1 階平面図 S=1:30

管 材 凡 例 (既 存)					
記 号	名 称	仕 様	規 格	使用ヶ所	備 考
—	給水管	水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 (SGP-VB)		屋内一般部分	水掛かり部のみ
		ステンレス鋼管 (SUS)		屋内露出 (25A以下)	
		被覆ステンレス鋼管 (SUS)		屋内露出 (25A以下)	
		水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 (SGP-VD)		地中埋設部分	
		給水用ポリエチレン管 (PE)		地中埋設部分	
—	排水管	硬質ポリ塩化ビニル管 (VP)	JIS K 6741	土間部分・ビット	
		排水・通気用耐火二層管 (TMP-VP)	—	屋内一般部分	

凡 例	
—	撤去配管を示す。
---	既存配管を示す。

※ 改修後は、既存流しの復旧を行う。

工事中



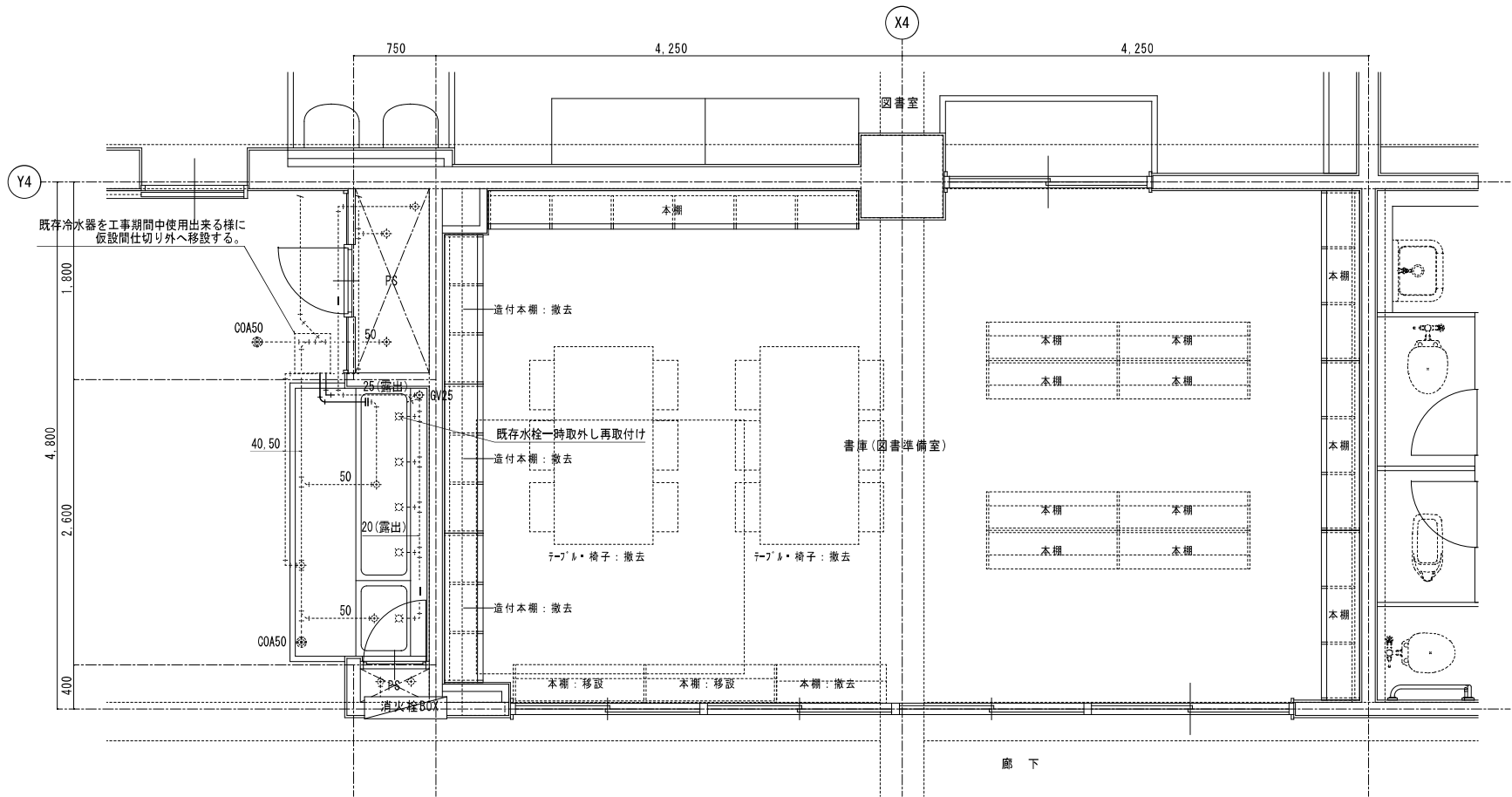
1階平面図 S=1:30

管材 凡例 (仮設)					
記 号	名 称	仕 様	規 格	使用ヶ所	備 考
——	給水管	水道用耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管 (HIVP)		屋内一般部分	
——	排水管	硬質ポリ塩化ビニル管 (VP)	JIS K 6741	屋内一般部分	

凡例	
——	新設配管を示す。
.....	既存配管を示す。

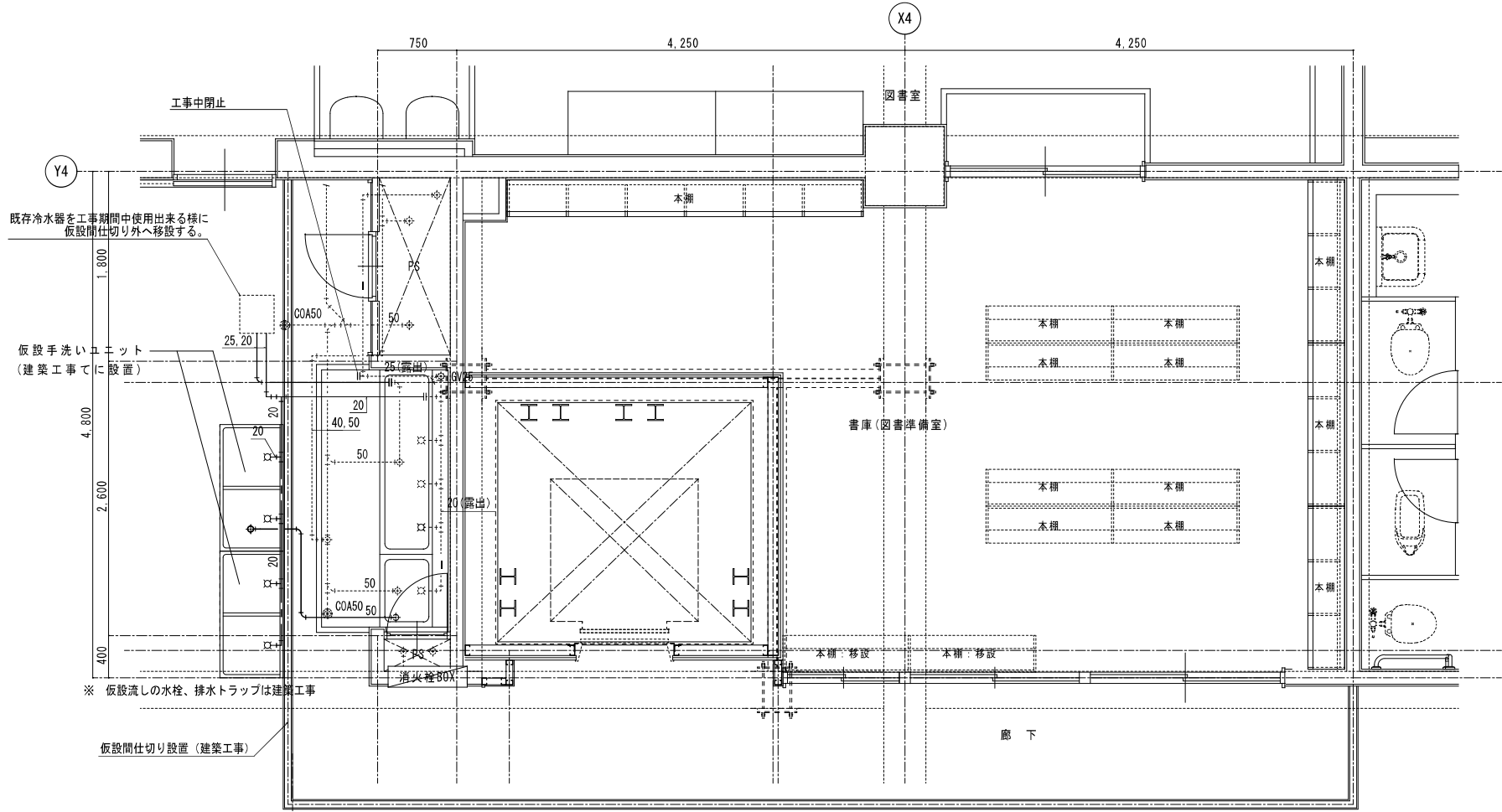
※ 改修後は、既存流しの復旧を行う。

既存



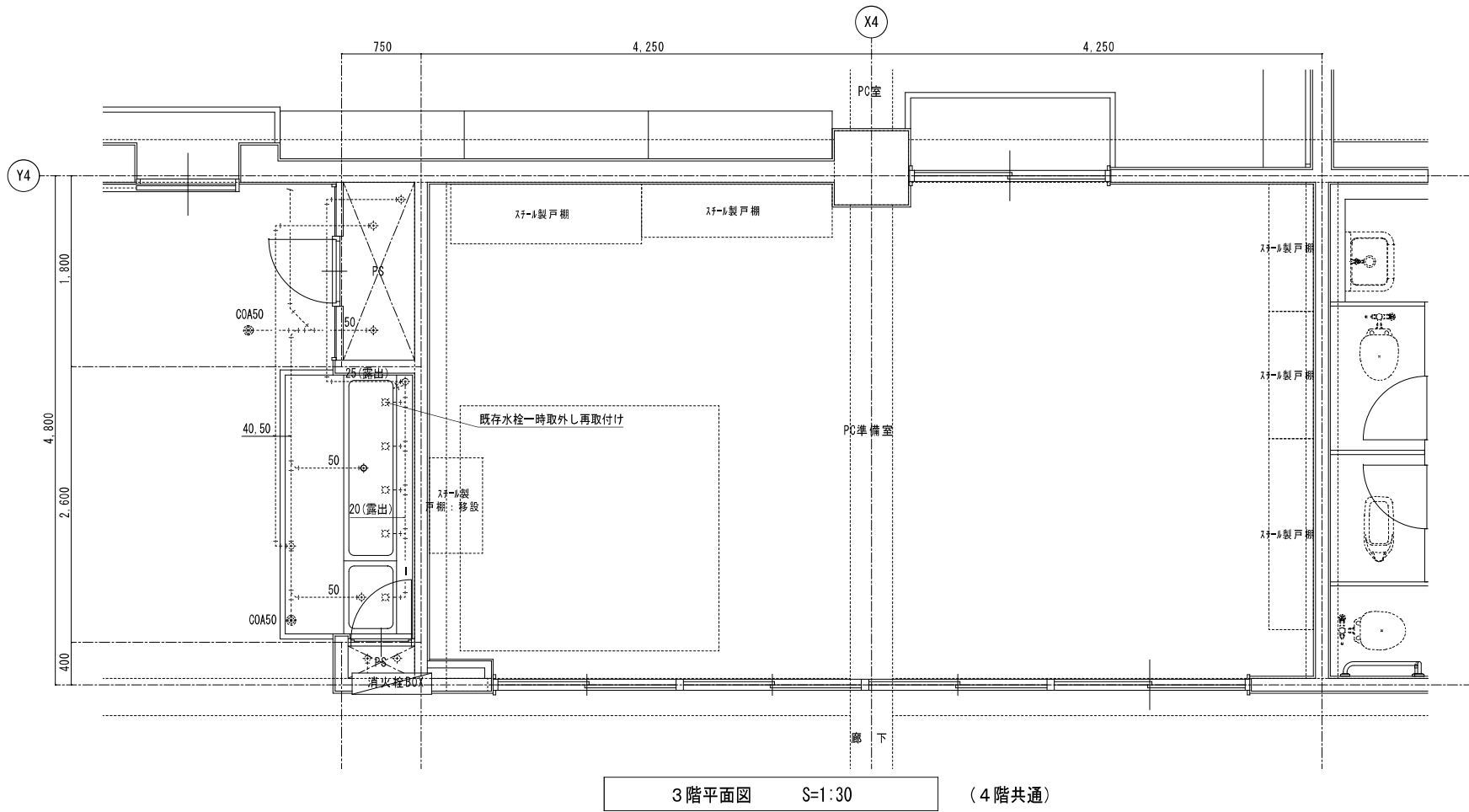
2階平面図 S=1:30 (5階共通)

工事中



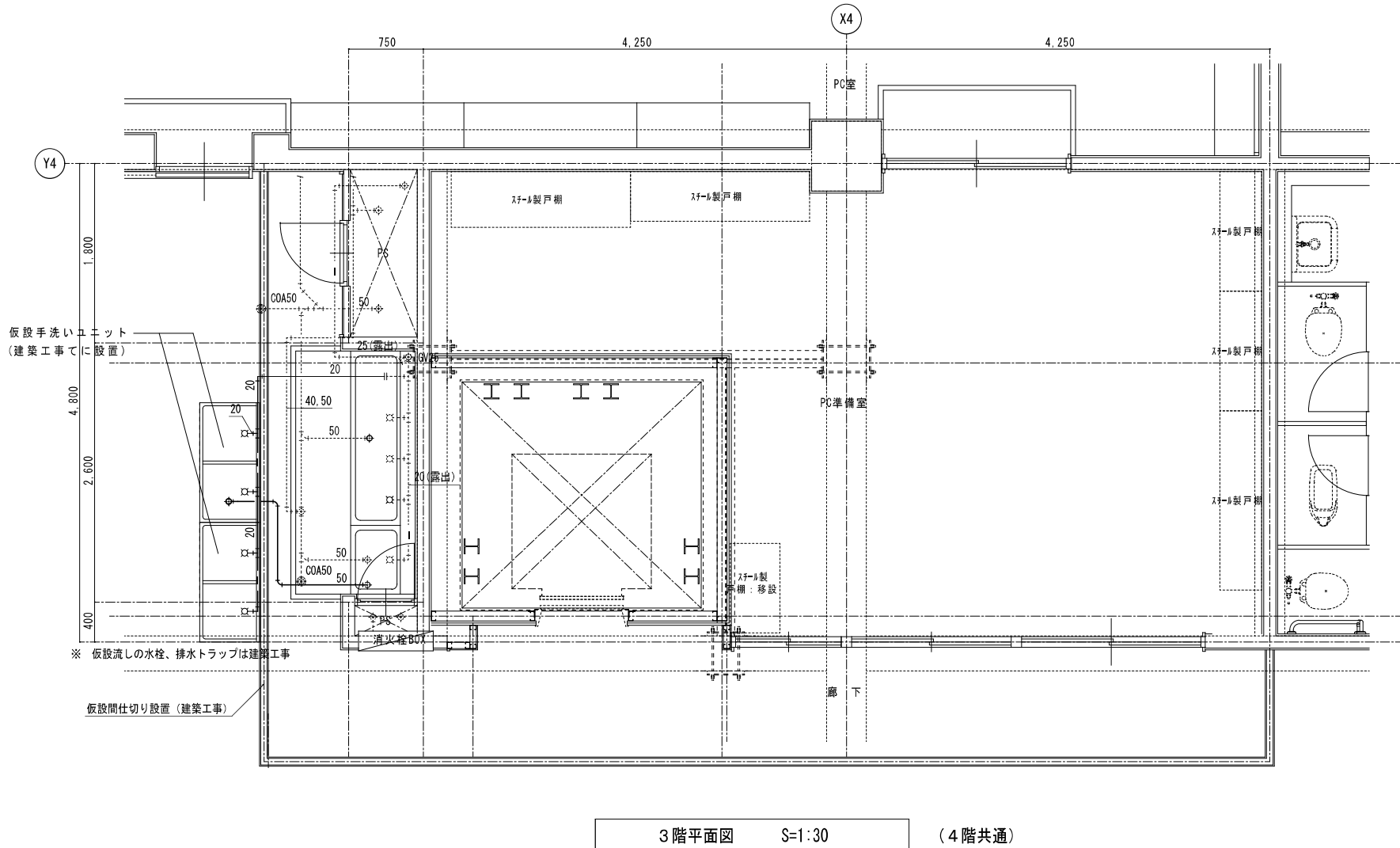
2階平面図 S=1:30 (5階共通)

既存



凡例
—— 撤去配管を示す。
..... 既存配管を示す。
※ 改修後は、既存流しの復旧を行う。

工事中

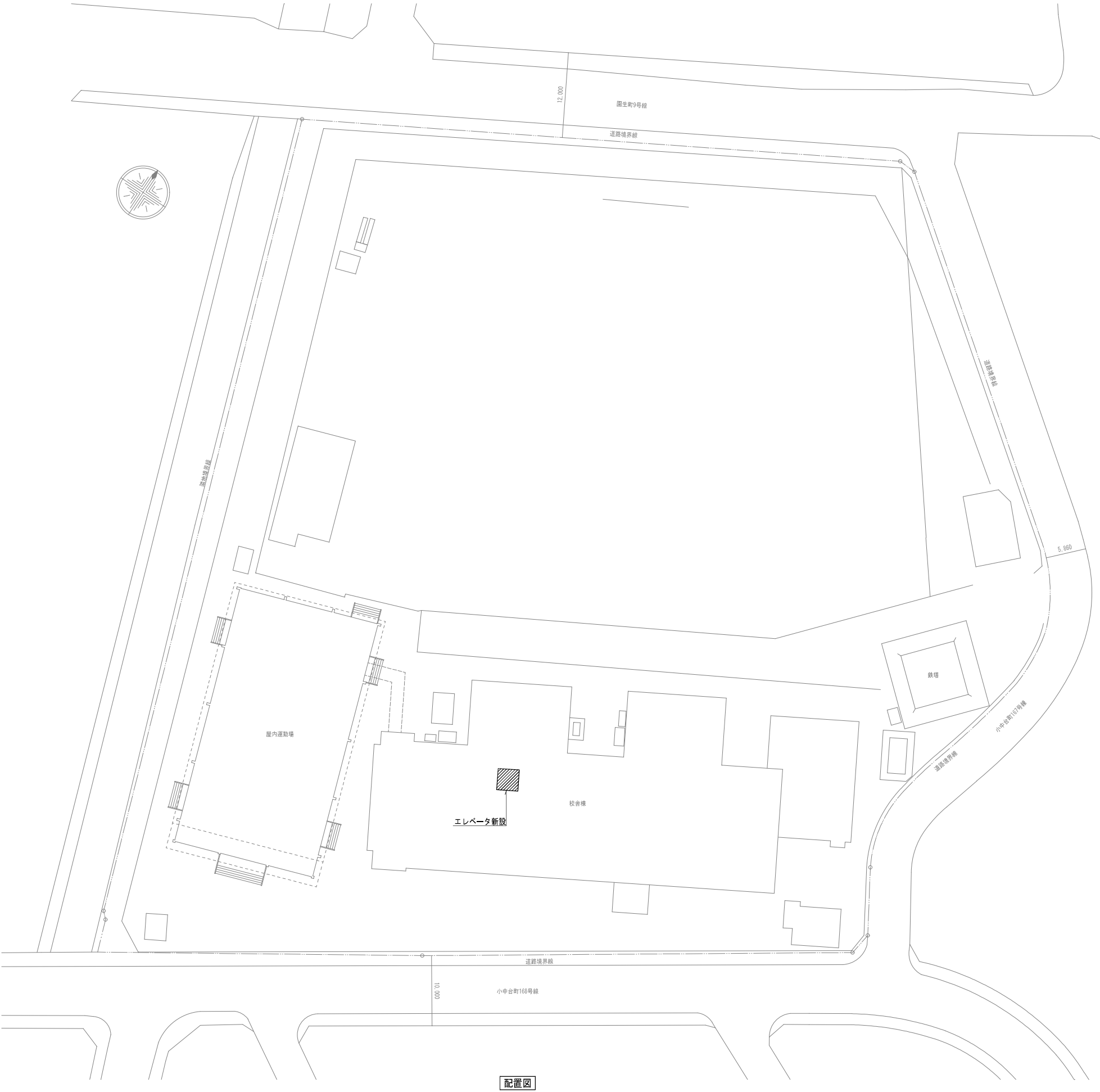


凡例
—— 新設配管を示す。
..... 既存配管を示す。
※ 改修後は、既存流しの復旧を行う。

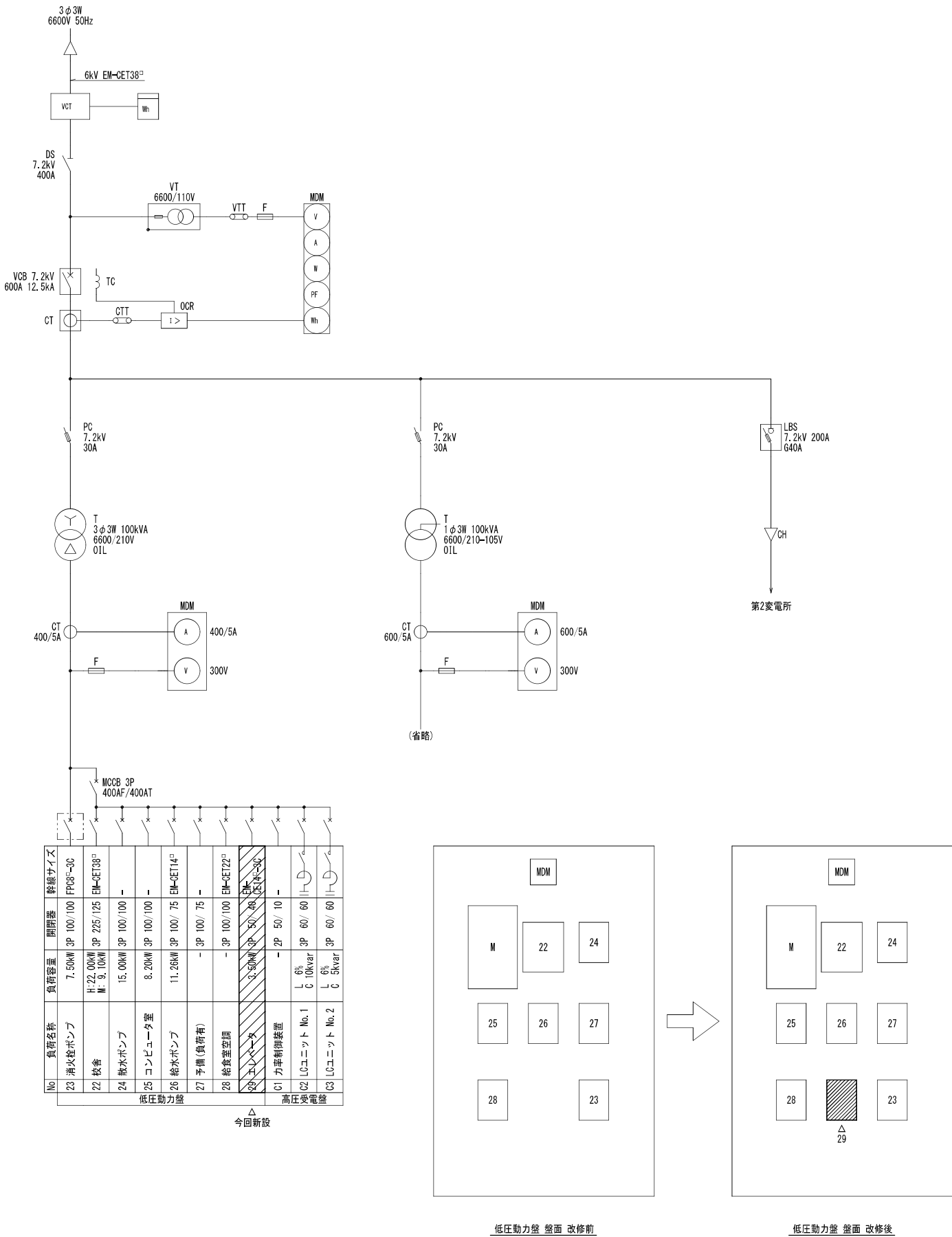


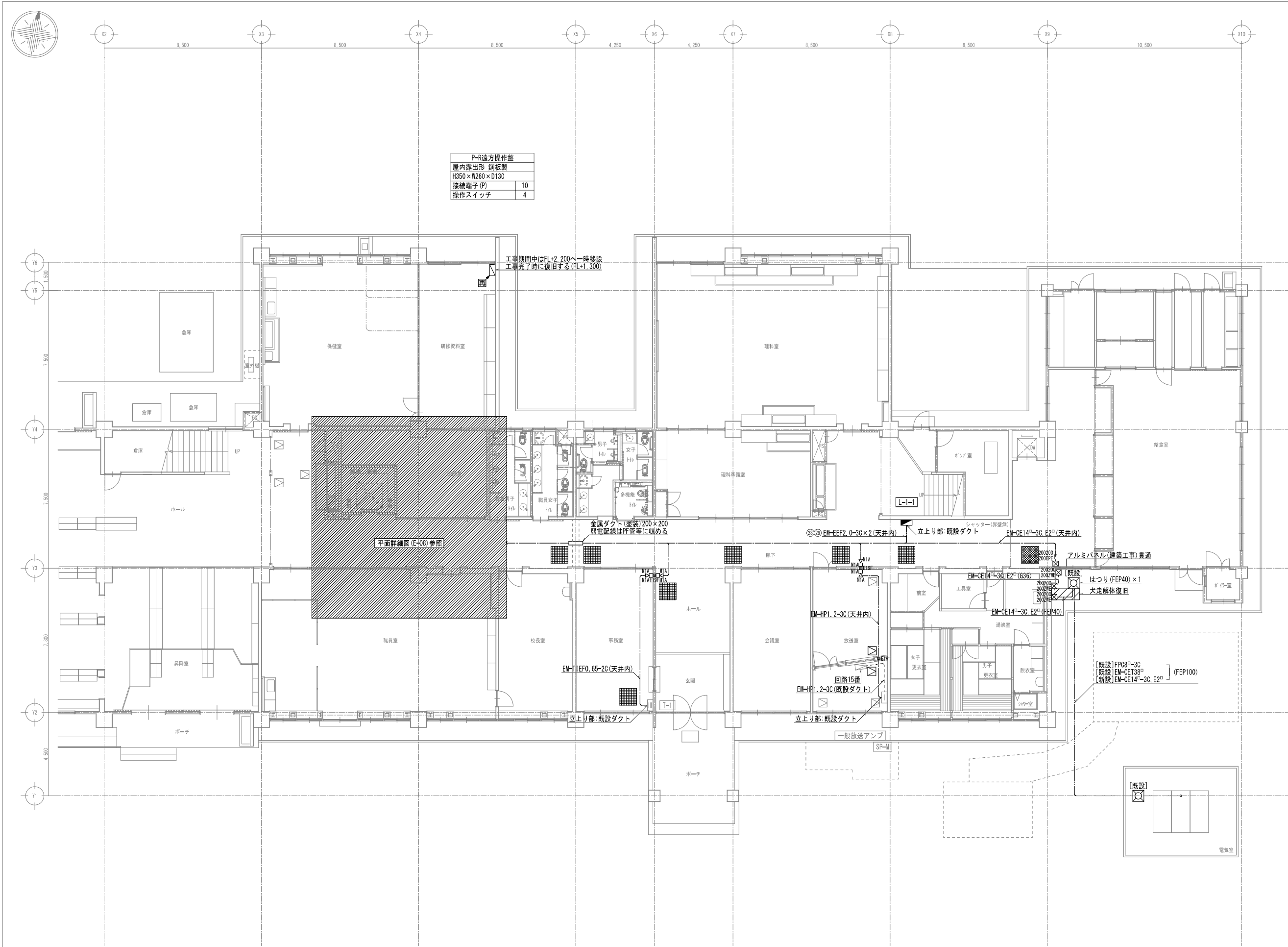
エレベータ工事特記事項

- エレベータシャフト内の制御盤取り付け位置、
点検コンセントの取り付け位置や数量等のレイアウト、
及び各種配線の仕様については参考とし、
選定されたエレベータメーカーの仕様に基づいた最適な施工を行うこと。
- また、エレベータメーカーの仕様により、
接地の打設工事が必要な場合には、受注者の負担で打設を行うこと。



配置図





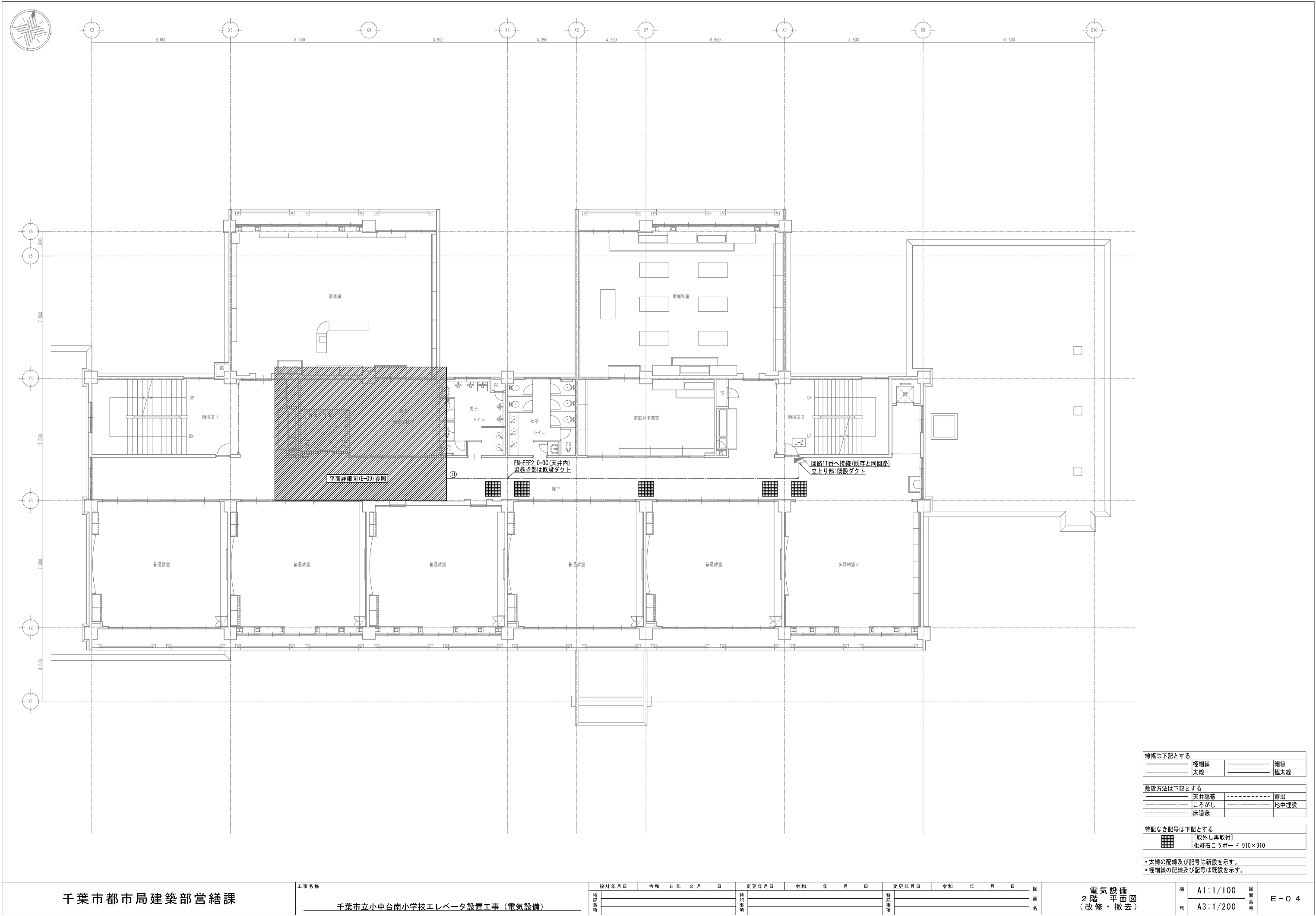
1階 平面図











線幅は下記とする	
極細線	細線
太線	極太線

敷設方法は下記とする	
天井隠蔽	露出
ころがし	地中埋設
床隠蔽	

特記なき記号は下記とする	
D-W*	1種金属線び コーナーボックス 傍記「*」は型を示す
□W*	1種金属線び ジャンクションボックス 傍記「*」は型を示す
WMLL 000***	プルボックス [W] [L] [D]:寸法 [W]:材質等 F=銅板製 S=SUS製 V=硬質ビニル製 C=錆止め塗装 P=指定色塗装 Z=溶融亜鉛めっき W=防水 E=接地端子付
E**	貫通部 傍記「**」は管サイズを示す
E**F	区画貫通部(国土交通大臣認定工法) 傍記「**」は管サイズを示す
450×450	天井点検口 450×450
910×910	[取外し再取付] 天井石こうボード 910×910
910×910	[取外し再取付] フレキシブルボード 910×910

・太線の配線及び記号は新設を示す。
・極細線の配線及び記号は既設を示す。
・[図] は取外し再取付(再使用)を示す。



線幅は下記とする			
	極細線		細線
	太線		極太線
敷設方法は下記とする			
	天井隠蔽		露出
	ころがし		地中埋設
	床隠蔽		
特記なき記号は下記とする			
	[取外し再取付] 化粧石こうボード 910×910		
<ul style="list-style-type: none">・太線の配線及び記号は新設を示す。・極細線の配線及び記号は既設を示す。			

千葉市都市局建築部営繕課

工事名称
千葉市立小中台南小学校エレベータ設置工事（電気設備）

設計年月日
令和 6 年 2 月 日

特記事項

変更年月日
令和 年 月 日

特記事項

変更年月日
令和 年 月 日

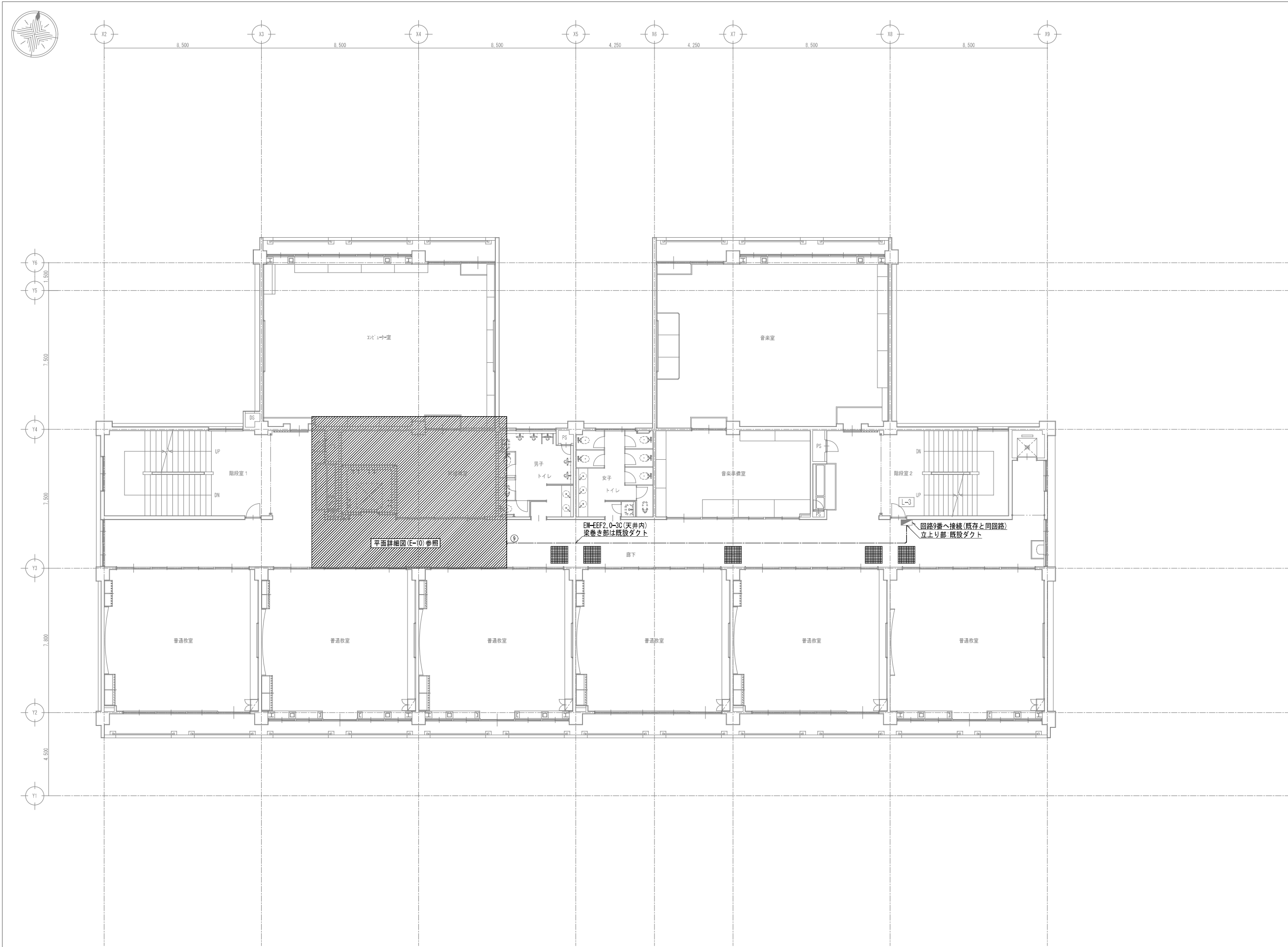
特記事項






図面名

電気設備
2階 平面図
(改修・撤去)

縮尺
A1:1/100
A3:1/200

図面番号
E-O 4



線幅は下記とする			
	極細線		細線
	太線		極太線
敷設方法は下記とする			
	天井隠蔽		露出
	ころがし		地中埋設
	床隠蔽		
特記なき記号は下記とする			
	[取外し再取付] 化粧石こうボード 910×910		
・太線の配線及び記号は新設を示す。			
・極細線の配線及び記号は既設を示す。			

千葉市都市局建築部営繕課

工事名称
千葉市立小中台南小学校エレベータ設置工事（電気設備）

設計年月日
令和 6 年 2 月 日

変更年月日
令和 年 月 日

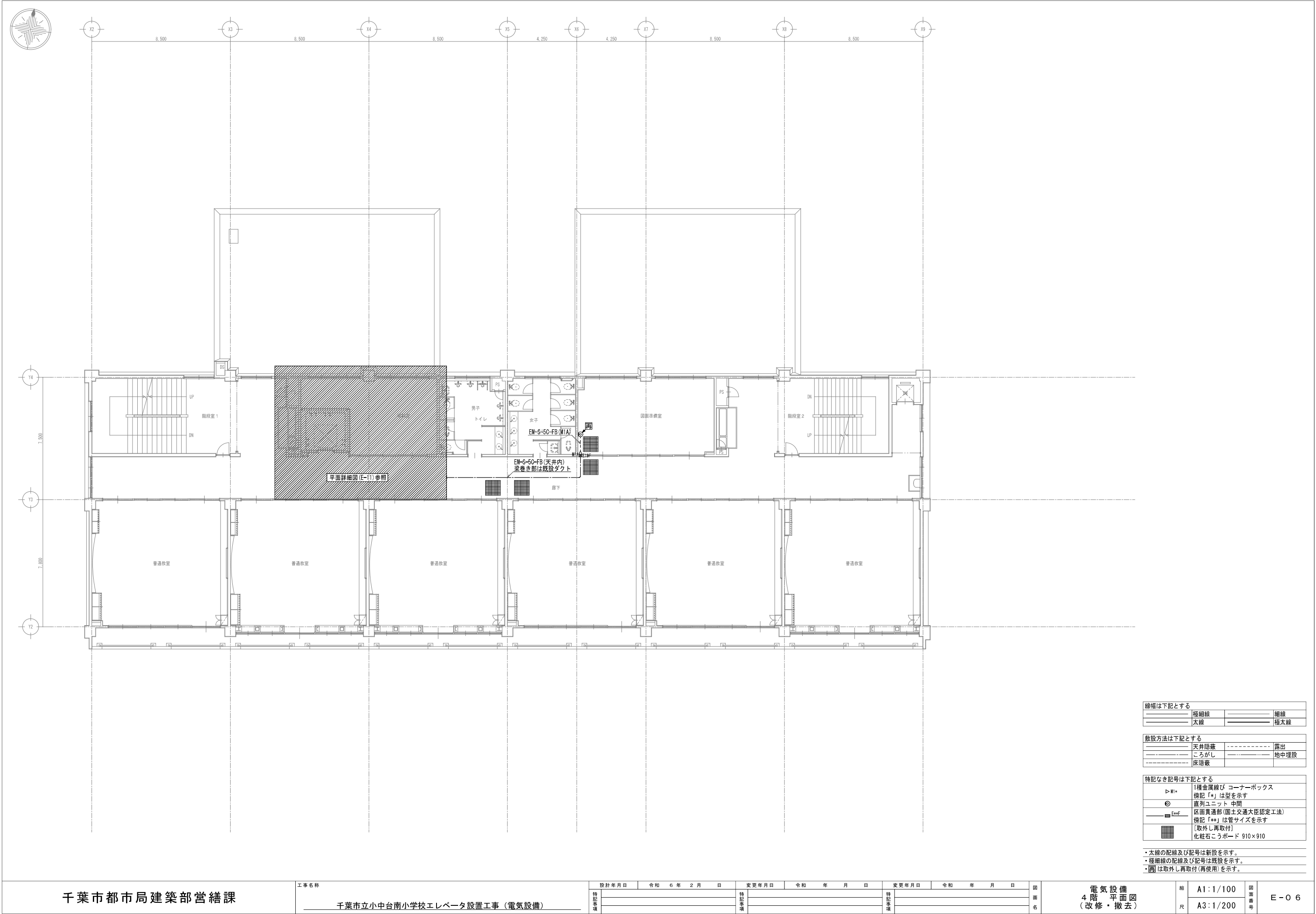
変更年月日
令和 年 月 日














図
面
名

電気設備
3階平面図
(改修・撤去)

縮
尺
A1:1/100
A3:1/200

図
面
番
号
E-O 5



線幅は下記とする			
	極細線		細線
	太線		極太線
敷設方法は下記とする			
	天井隠蔽		露出
	ころがし		地中埋設
	床隠蔽		
特記なき記号は下記とする			
	1種金属線び コーナーボックス 傍記「+」は型を示す		
	直列ユニット 中間		
	区画貫通部 (国土交通大臣認定工法) 傍記「**」は管サイズを示す		
	[取外し再取付] 化粧石こうボード 910×910		
・太線の配線及び記号は新設を示す。			
・極細線の配線及び記号は既設を示す。			
・[図] は取外し再取付 (再使用) を示す。			

千葉市都市局建築部営繕課

工事名称
千葉市立小中台南小学校エレベータ設置工事 (電気設備)

設計年月日
令和 6 年 2 月 日
特記事項

変更年月日
令和 年 月 日
特記事項

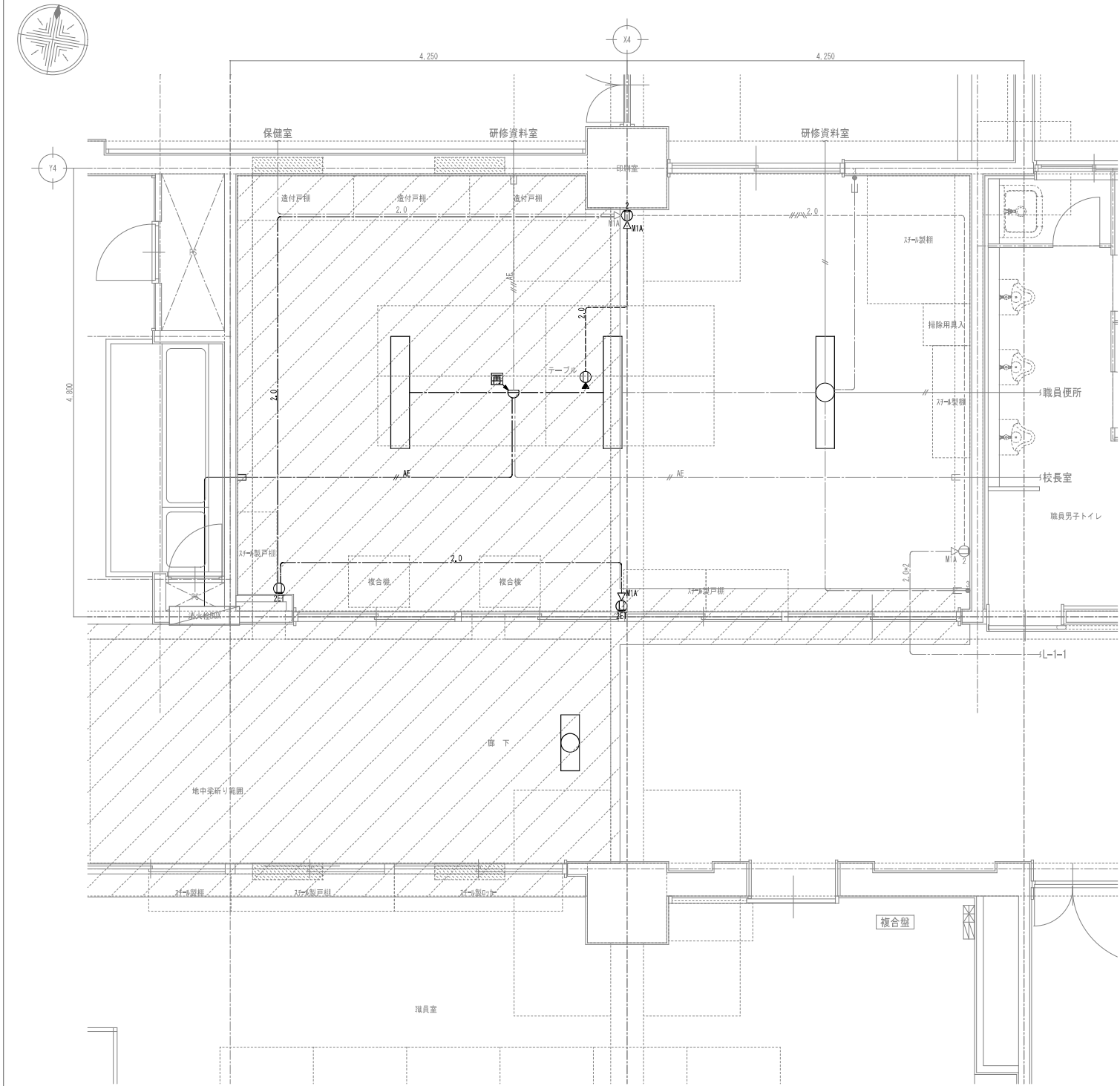
変更年月日
令和 年 月 日
特記事項

図面名
電気設備
4階平面図
(改修・撤去)

縮尺
A1:1/100
A3:1/200

図面番号
E-O 6



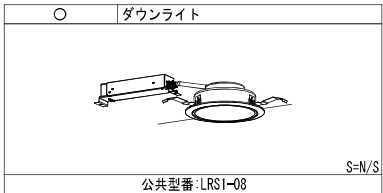
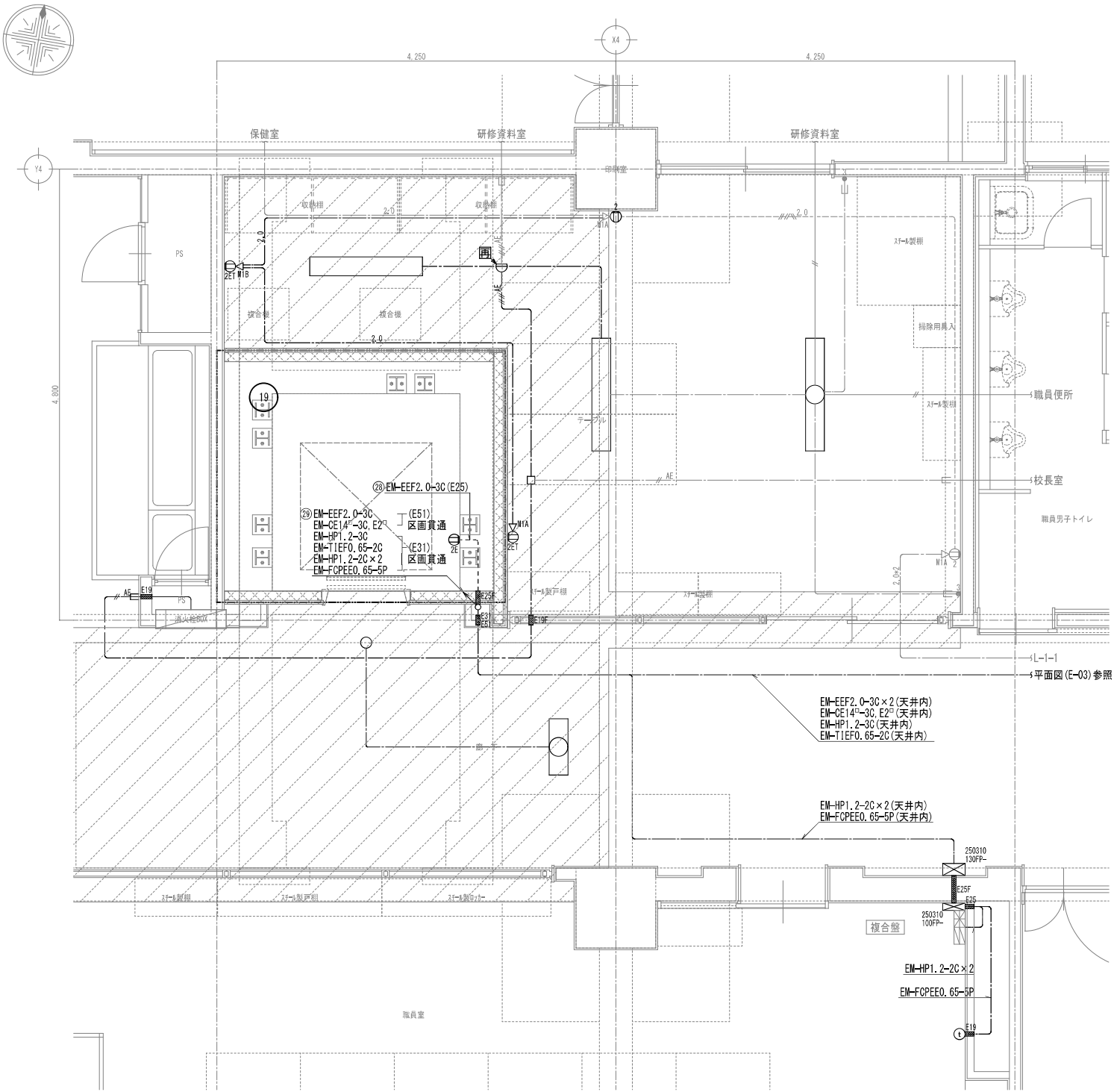


線幅は下記とする		
-----	極細線	-----
=====	太線	=====

敷設方法は下記とする		
-----	天井隠蔽	-----
-----	ころがし	-----
-----	床隠蔽	-----
-----	露出	-----
-----	地中埋設	-----

特記なき配線は下記とする	
-----	VVF1. 6-3C (天井内)
-----	IV1. 6×2 (E19)
-----	VVF2. 0-2C (天井内)
-----	VVF2. 0-3C (天井内)
-----	VVF2. 0-3C×2 (天井内)
-----	IV2. 0×3 (E19)
-----	IV2. 0×6 (E19)
-----	AE1. 2-2C (天井内)
-----	AE1. 2-4C (天井内)

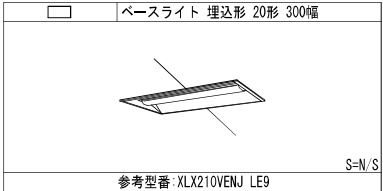
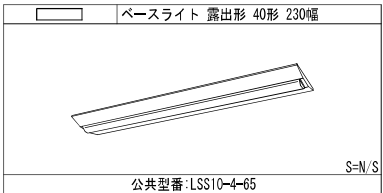
1階 平面詳細図



線幅は下記とする		
-----	極細線	-----
=====	太線	=====

敷設方法は下記とする		
-----	天井隠蔽	-----
-----	ころがし	-----
-----	床隠蔽	-----
-----	露出	-----
-----	地中埋設	-----

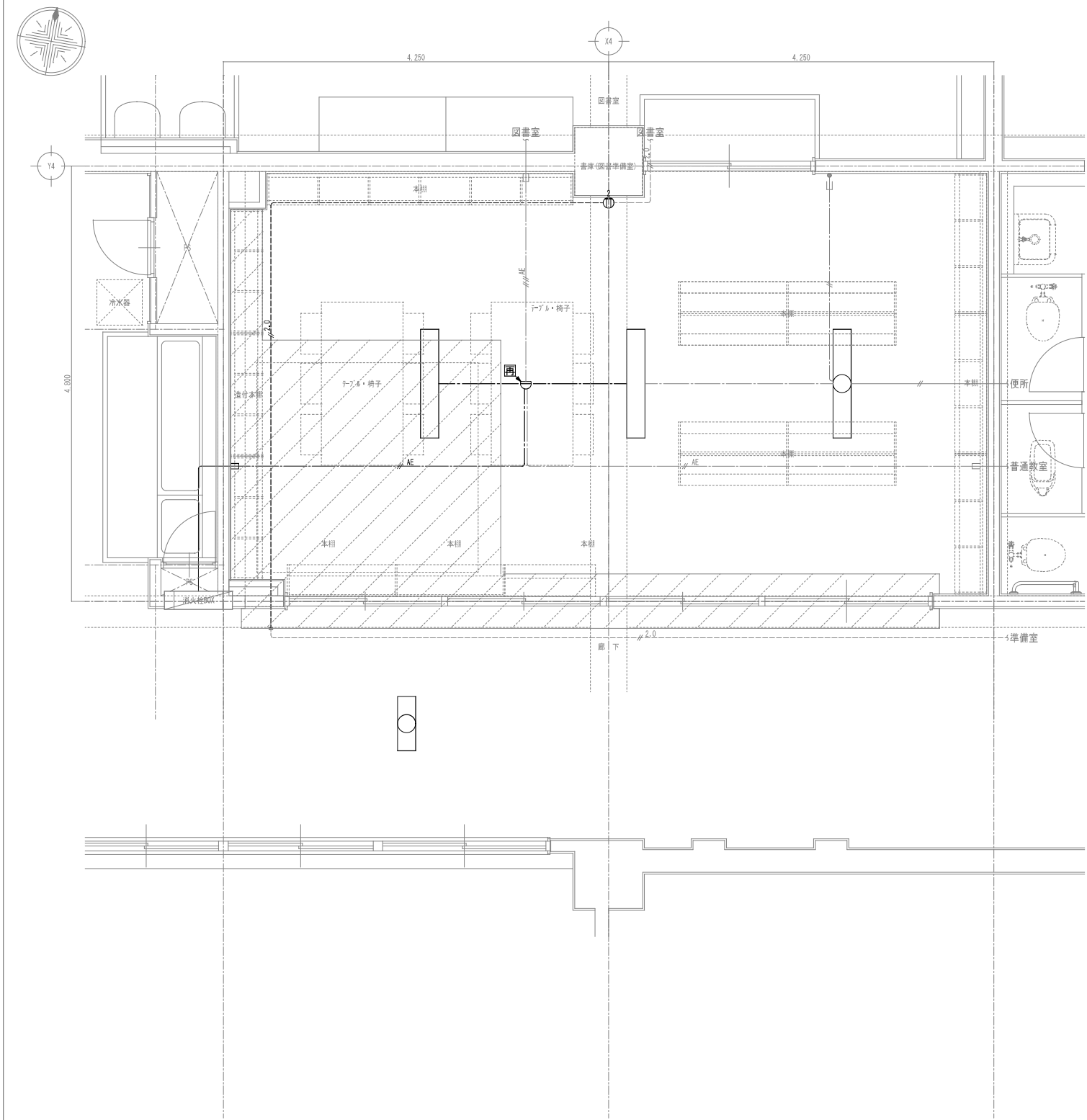
特記なき配線は下記とする	
-----	EM-EFF1. 6-3C (天井内)
-----	EM-EFF2. 0-3C (天井内)
-----	EM-AE1. 2-2C (天井内)
-----	EM-AE1. 2-4C (天井内)



1階 平面詳細図

特記なき記号は下記とする	
▷ M1*	1種金属線び コーナーボックス 傍記「*」は型を示す
▷ M1LL UD0***	フルボックス [W] [L] [D] : 寸法 [*] : 材質等 F=銅板製 S=SUS製 V=硬質ビニル製 C=錆止め塗装 P=指定色塗装 Z=溶融垂鉛めっき W=防水 E=接地端子付
⊙2	コンセント 2個口
⊙2E	コンセント 2個口 接地極付
⊙2ET	コンセント 2個口 接地端子付
○	インターホン(支給品)
貴通部	傍記「**」は管サイズを示す
区画貫通部	区画貫通部(国土交通大臣認定工法)
傍記「**」	傍記「**」は管サイズを示す

- ・太線の配線及び記号は新設を示す。
- ・極細線の配線及び記号は既設を示す。
- ・既設の配線及び記号は撤去図を参照のこと。
- ・「国」は再取付(再使用)を示す。
- ・上階スラブ貫通箇所は区画貫通処理とする。
- ・シャフト内は配線の余長を見込むこと。
- ・受信機(火災報知設備)の警戒区域図面を更新すること。



線幅は下記とする			
-----	極細線	-----	細線
=====	太線	=====	極太線

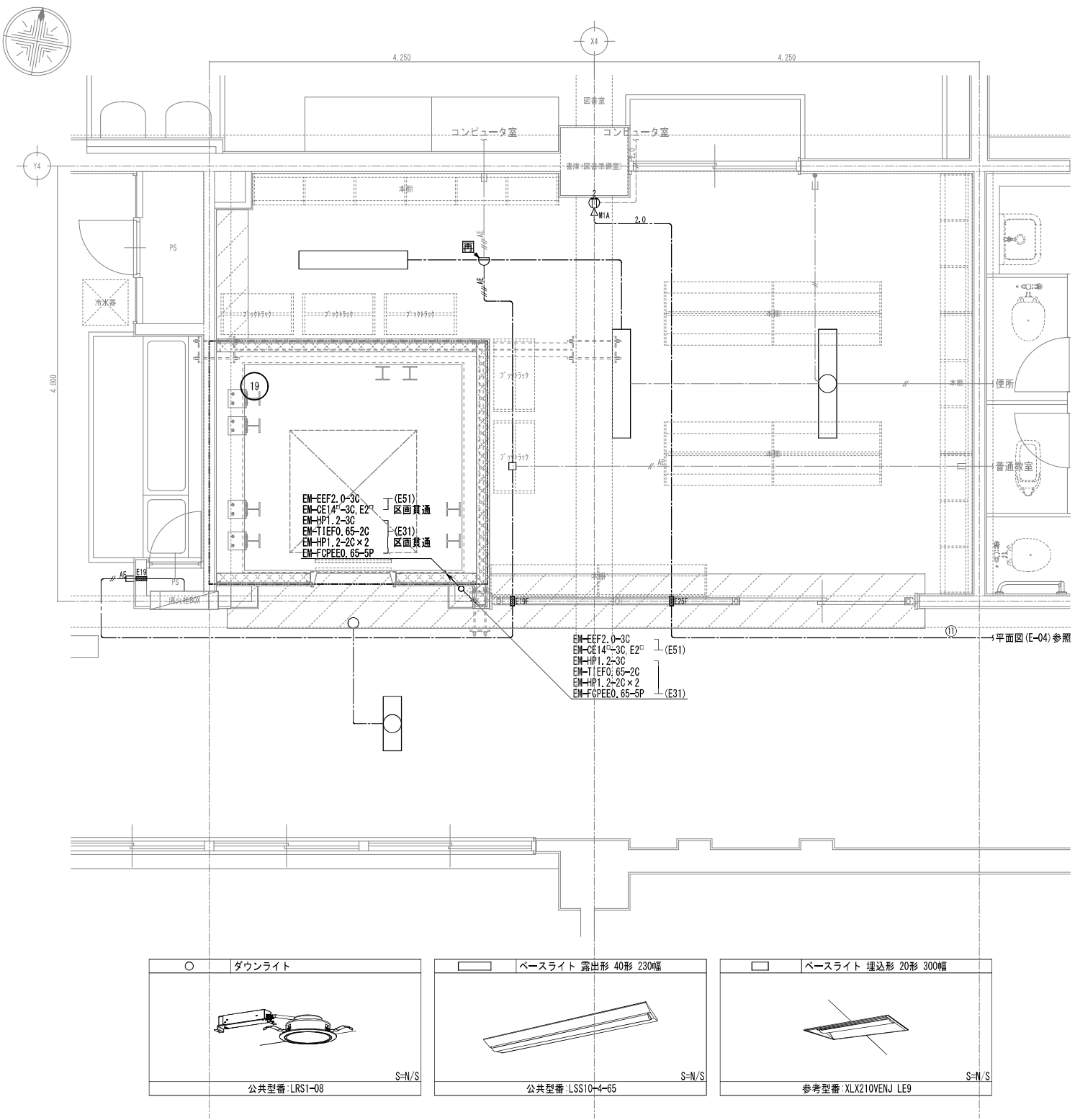
敷設方法は下記とする			
-----	天井隠蔽	-----	露出
-----	ころがし	-----	地中埋設
-----	床隠蔽	-----	

特記なき配線は下記とする	
-----	VVF1. 6-2C (天井内)
-----	VVF1. 6-3C (天井内)
-----	IV1. 6×2 (E19)
-----	VVF2. 0-2C (天井内)
-----	VVF2. 0-3C (天井内)
-----	IV2. 0×2 (E19)
-----	AE1. 2-2C (天井内)
-----	AE1. 2-4C (天井内)

2階 平面詳細図

特記なき記号は下記とする	
●	スイッチ 片切
⊖2	コンセント 2個口
□	蛍光灯器具 (埋込型) FL20W×2
□	蛍光灯器具 (露出型) FL40W×2
▽	スポット形感知器 差動式

- ・太線の配線及び記号は撤去を示す。
- ・極細線の配線及び記号は残置を示す。
- ・隠蔽部の配管は残置とし配線のみ撤去する。
- ・Ⓜは取外し(再使用)を示す。



線幅は下記とする			
-----	極細線	-----	細線
=====	太線	=====	極太線

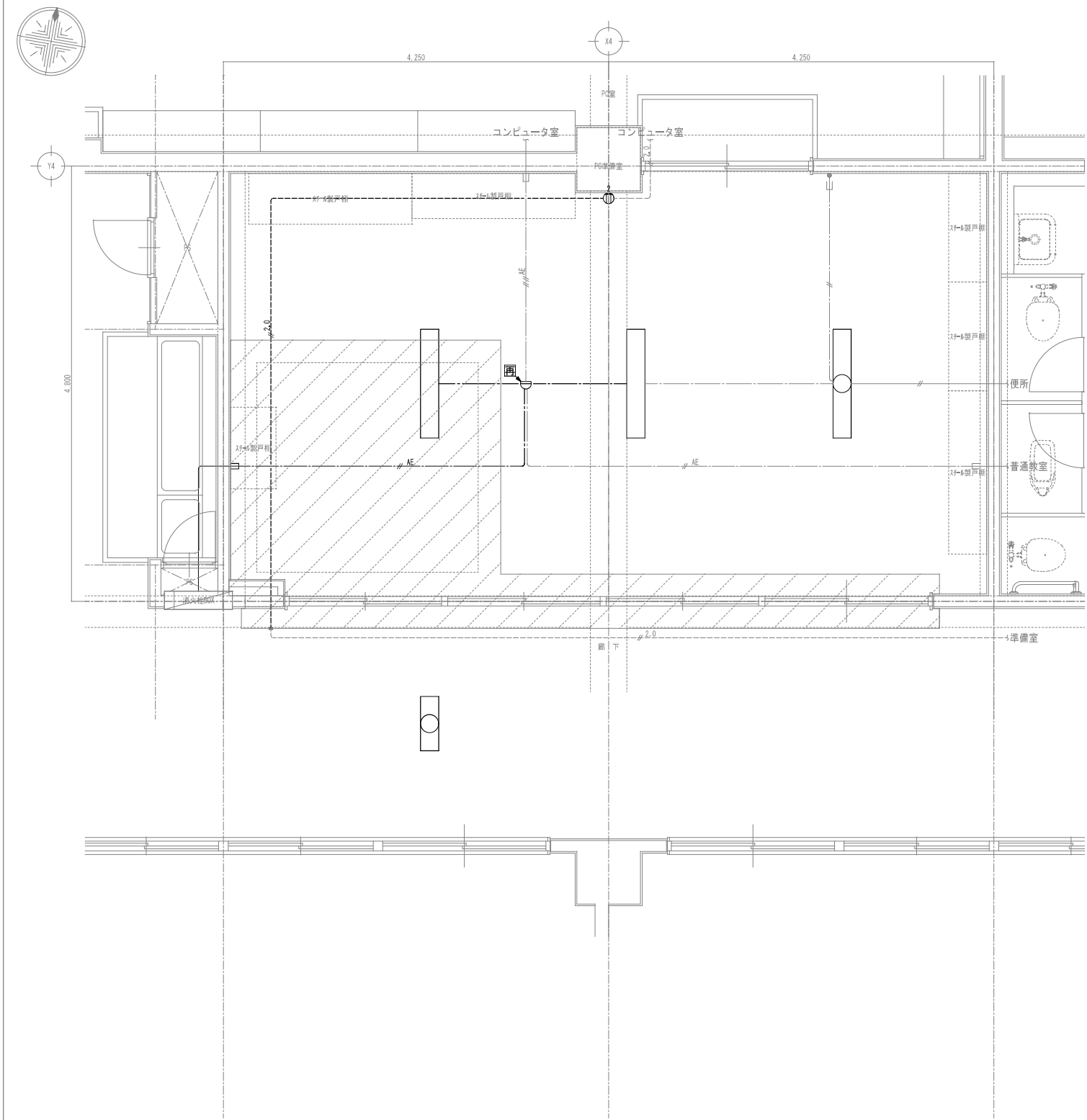
敷設方法は下記とする			
-----	天井隠蔽	-----	露出
-----	ころがし	-----	地中埋設
-----	床隠蔽	-----	

特記なき配線は下記とする	
-----	EM-EFF1. 6-3C (天井内)
-----	EM-EFF2. 0-3C (天井内)
-----	AE1. 2-2C (天井内)
-----	EM-AE1. 2-4C (天井内)

2階 平面詳細図

特記なき記号は下記とする	
▷ M*	1種金属線び コーナーボックス 傍記「*」は型を示す
⊖2	コンセント 2個口
---E**---	貫通部 傍記「**」は管サイズを示す
---E**F---	区画貫通部(国土交通大臣認定工法) 傍記「**」は管サイズを示す

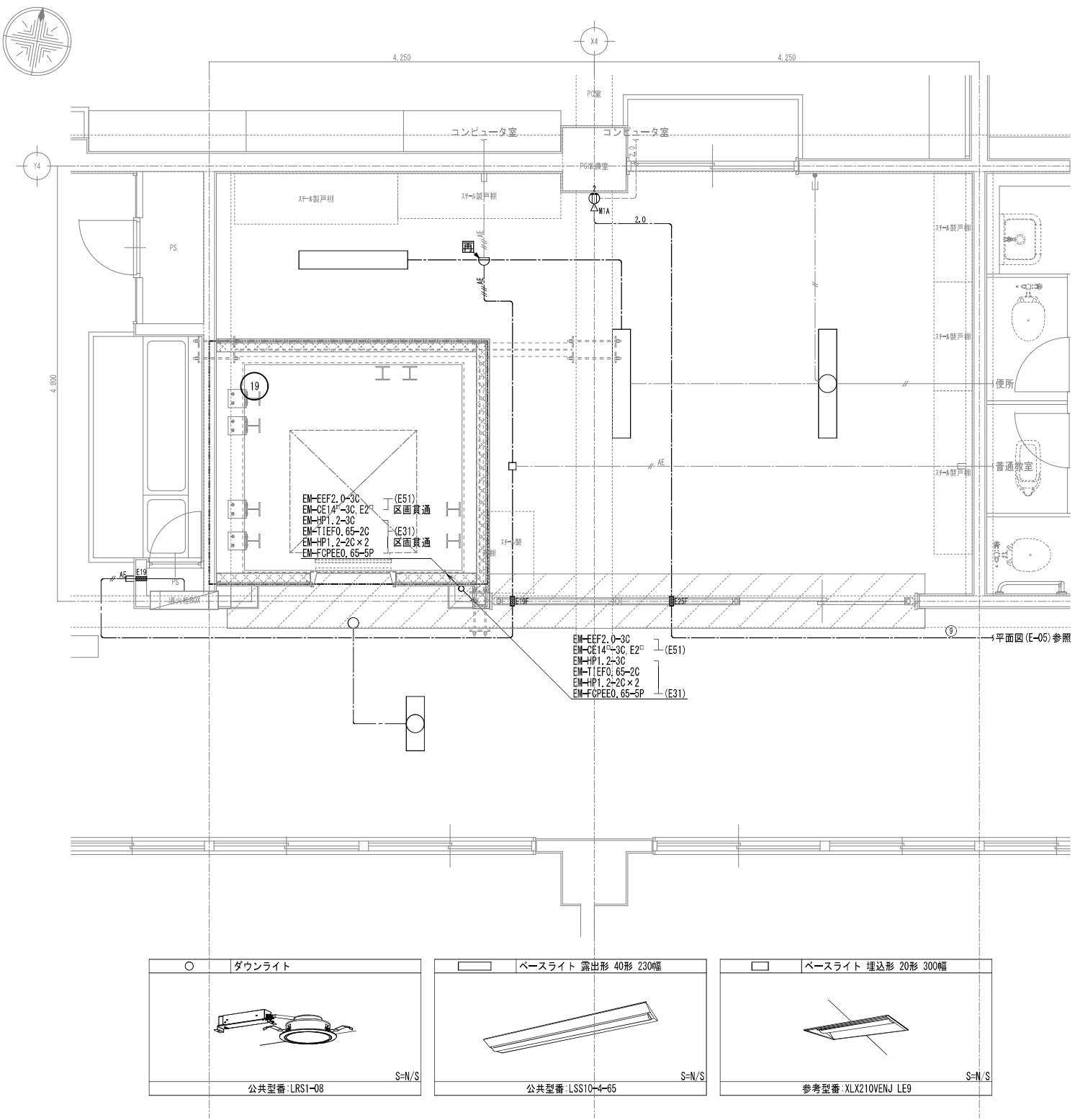
- ・太線の配線及び記号は新設を示す。
- ・極細線の配線及び記号は既設を示す。
- ・既設の配線及び記号は撤去図を参照のこと。
- ・Ⓜは再取付(再使用)を示す。
- ・上階スラブ貫通箇所は区画貫通処理とする。
- ・シャフト内は配線の余長を見込むこと。



線幅は下記とする		
	極細線	細線
	太線	極太線
敷設方法は下記とする		
	天井隠蔽	露出
	ころがし	地中埋設
	床隠蔽	
特記なき配線は下記とする		
	VVF1.6-2C(天井内)	
	VVF1.6-3C(天井内)	
	IV1.6×2(E19)	
	VVF2.0-2C(天井内)	
	VVF2.0-3C(天井内)	
	IV2.0×2(E19)	
	AE1.2-2C(天井内)	
	AE1.2-4C(天井内)	

3階 平面詳細図

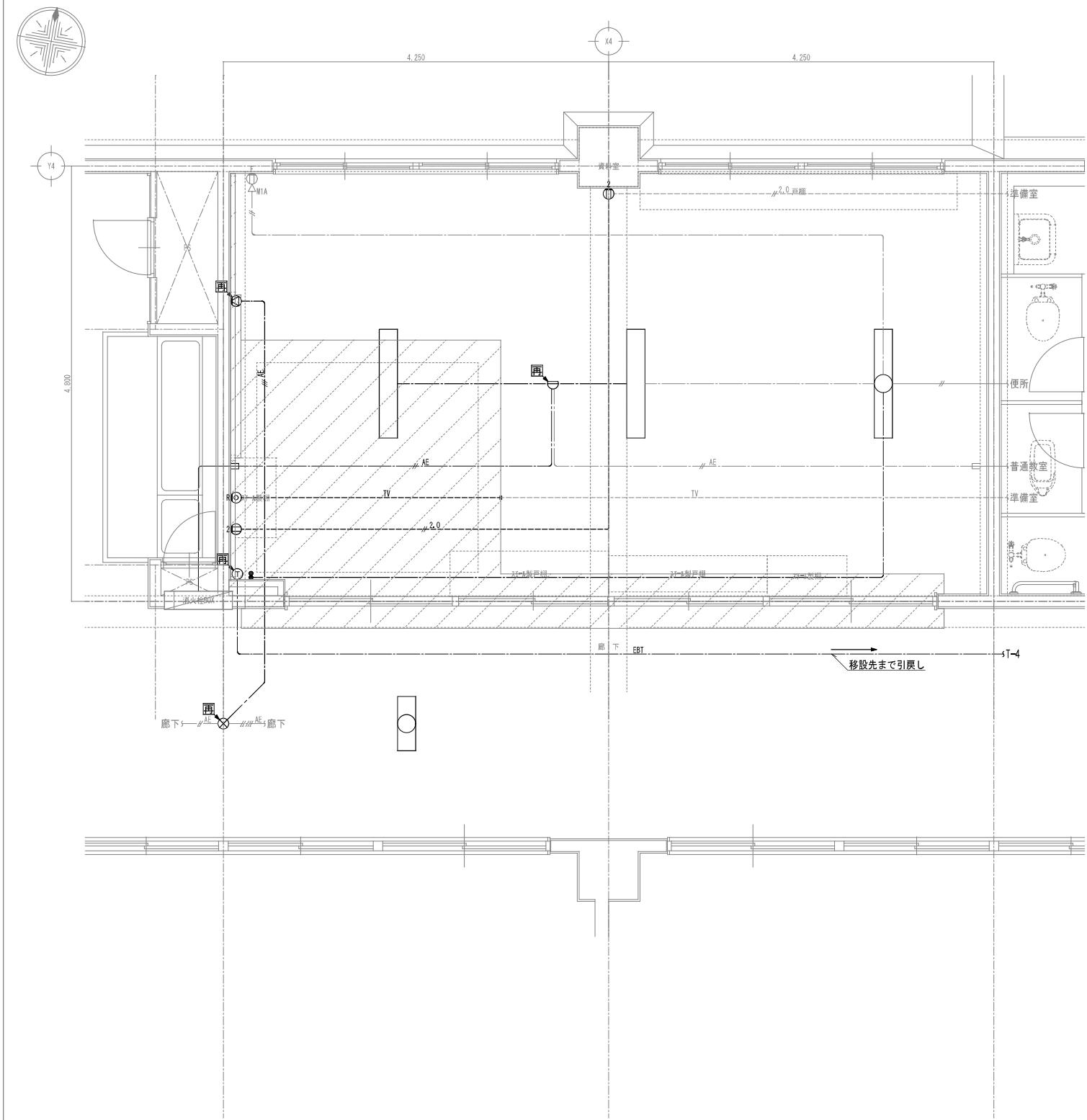
特記なき記号は下記とする	
	スイッチ 片切
	コンセント 2箇所
	蛍光灯器具(埋込型)FL20W×2
	蛍光灯器具(露出型)FL40W×2
	スポット形感知器 差動式
・太線の配線及び記号は撤去を示す。	
・極細線の配線及び記号は残置を示す。	
・隠蔽部の配管は残置とし配線のみ撤去する。	
・[図]は取外し(再使用)を示す。	



線幅は下記とする	
	極細線
	太線
敷設方法は下記とする	
	天井隠蔽
	ころがし
	床隠蔽
特記なき配線は下記とする	
	EM-EFF1.6-3C(天井内)
	EM-EFF2.0-3C(天井内)
	EM-AE1.2-2C(天井内)
	EM-AE1.2-4C(天井内)

3階 平面詳細図

特記なき記号は下記とする	
	1種金属線び コーナーボックス
	傍記「*」は型を示す
	コンセント 2箇所
	貫通部
	傍記「**」は管サイズを示す
	区画貫通部(国土交通大臣認定工法)
	傍記「**」は管サイズを示す
・太線の配線及び記号は新設を示す。	
・極細線の配線及び記号は既設を示す。	
・既設の配線及び記号は撤去図を参照のこと。	
・[図]は再取付(再使用)を示す。	
・上階スラブ貫通箇所は区画貫通処理とする。	
・シャフト内は配線の余長を見込むこと。	



線幅は下記とする		
極細線	細線	
太線	極太線	

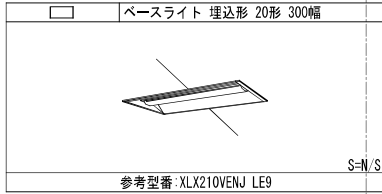
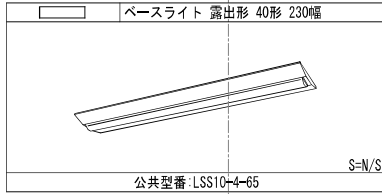
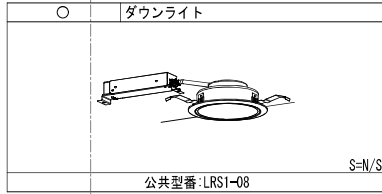
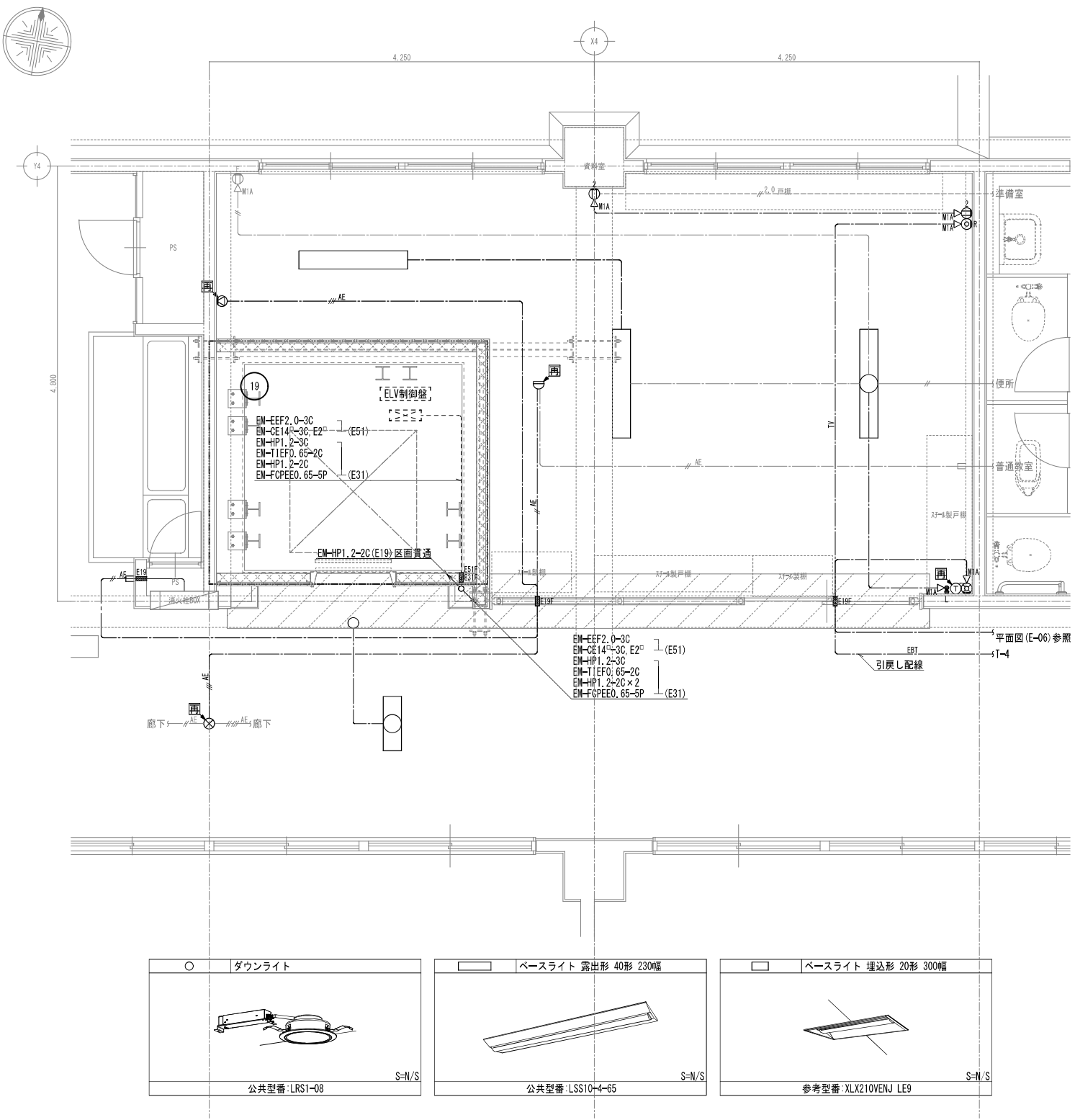
敷設方法は下記とする		
天井隠蔽	露出	
かがし	地中埋設	
床隠蔽		

特記なき配線は下記とする	
VF1. 6-3C(天井内)	
IV1. 6×2 (E19)	
IV1. 6×3 (E19)	
VF2. 0-2C(天井内)	
VF2. 0-3C(天井内)	
IV2. 0×2 (E19)	
EBT. 5-1P(天井内)	
AE1. 2-2C(天井内)	
AE1. 2-3C(天井内)	
AE1. 2-4C(天井内)	
AE1. 2-2C+3C(天井内)	
IV. S-50-FB (E19)	

4階 平面詳細図

特記なき記号は下記とする	
D-W*	1種金属線び コーナーボックス
※	傍記「*」は型を示す
⊗	フラッシュプレート 丸型 ブランク
●	スイッチ 片切
⊕F	コンセント 1個口(換気扇用)
⊕2	コンセント 2個口
□	蛍光灯器具(埋込型) FL20W×2
□	蛍光灯器具(露出型) FL40W×2
⊕	スピーカ 壁掛形
○	内線電話機
⊕R	直列ユニット 端末
▽	スポット形感知器 差動式

- ・太線の配線及び記号は撤去を示す。
- ・極細線の配線及び記号は残置を示す。
- ・隠蔽部の配管は残置とし配線のみ撤去する。
- ・(再) は取外し(再使用)を示す。



線幅は下記とする		
極細線	細線	
太線	極太線	

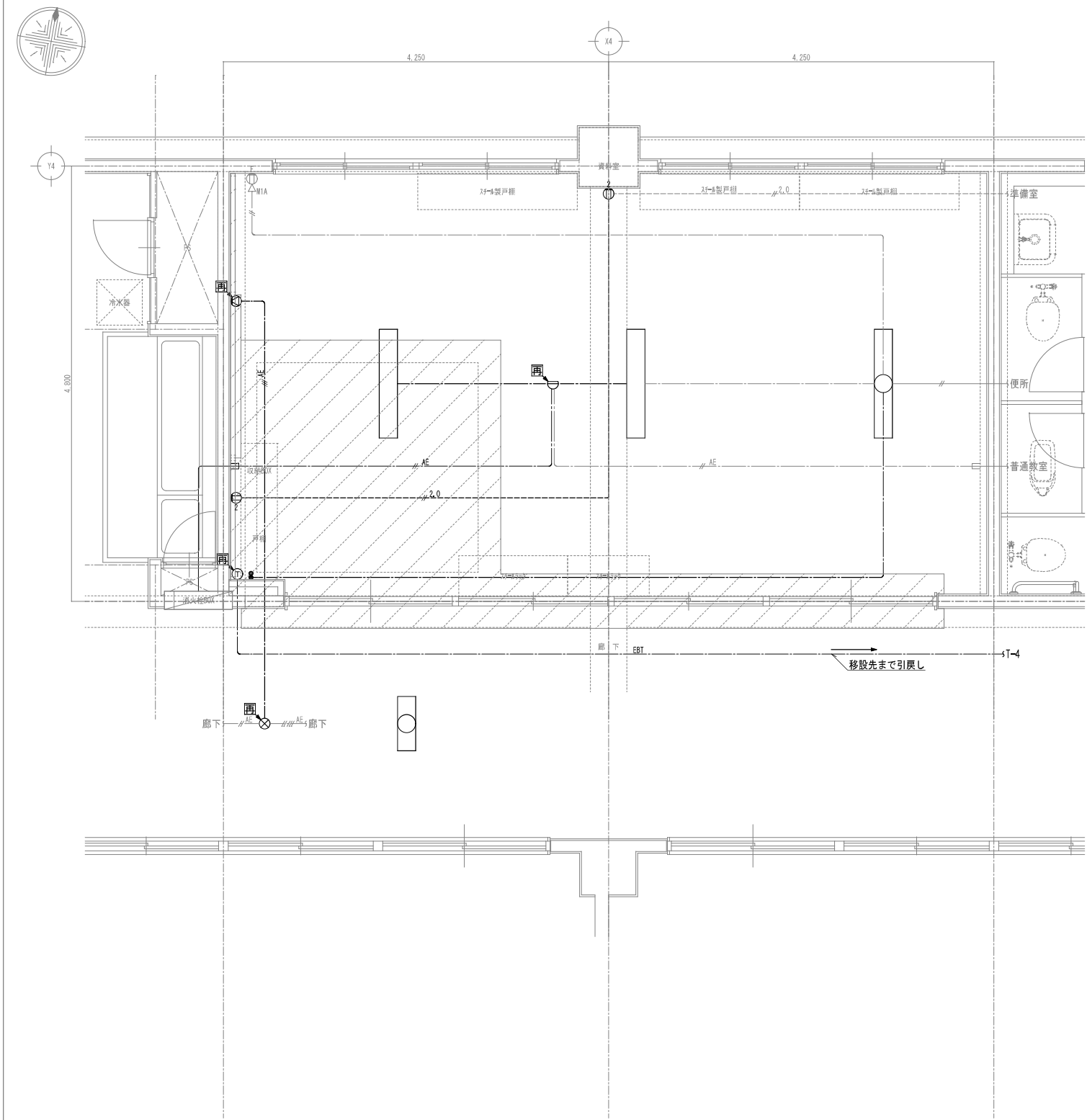
敷設方法は下記とする		
天井隠蔽	露出	
かがし	地中埋設	
床隠蔽		

特記なき配線は下記とする	
EM-EFF1. 6-3C(天井内)	
EM-EFF2. 0-3C(天井内)	
EM-AE1. 2-2C(天井内)	
EM-AE1. 2-3C(天井内)	
IV. S-50-FB (E19)	

4階 平面詳細図

特記なき記号は下記とする	
D-W*	1種金属線び コーナーボックス
※	傍記「*」は型を示す
⊗	フラッシュプレート
●	スイッチ 片切
●L	スイッチ 片切 確認表示灯
⊕2	コンセント 2個口
⊕R	直列ユニット 端末
■E**	貫通部
■E**F	傍記「**」は管サイズを示す
■E**F	区画貫通部(国土交通大臣認定工法)
■E**F	傍記「**」は管サイズを示す

- ・太線の配線及び記号は新設を示す。
- ・極細線の配線及び記号は既設を示す。
- ・既設の配線及び記号は撤去図を参照のこと。
- ・(再) は再取付(再使用)を示す。
- ・上階スラブ貫通箇所は区画貫通処理とする。
- ・シャフト内は配線の余長を見込むこと。



線幅は下記とする		
極細線		細線
太線		極太線

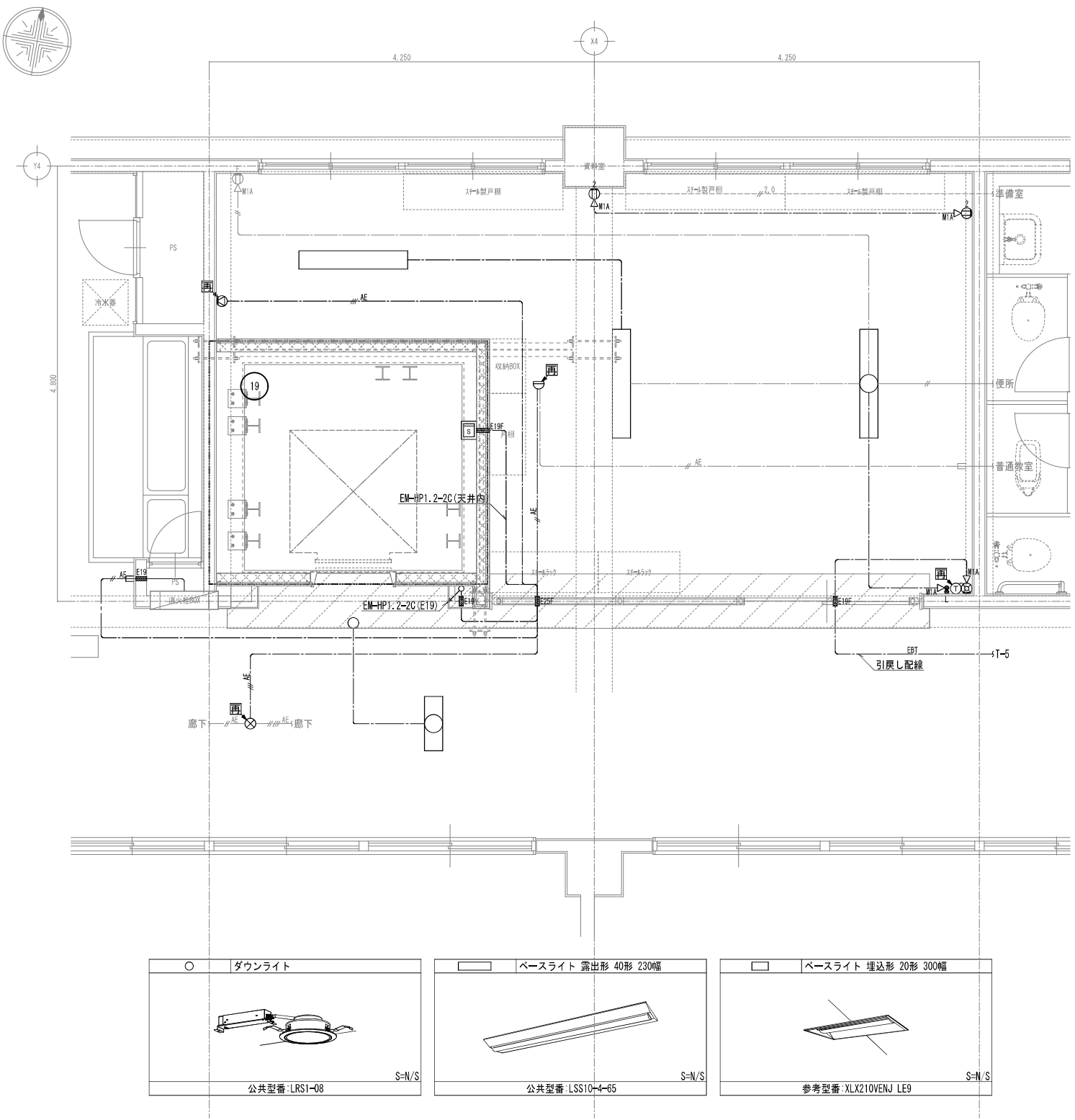
敷設方法は下記とする		
天井隠蔽	-----	露出
こしがし	-----	地中埋設
床隠蔽	-----	

特記なき配線は下記とする	
-----	VVF1. 6×3C (天井内)
-----	IV1. 6×2 (E19)
-----	IV1. 6×3 (E19)
-----	VVF2. 0-2C (天井内)
-----	VVF2. 0-3C (天井内)
-----	IV2. 0×2 (E19)
-----	EBT. 5-1P (天井内)
-----	AE1. 2-2C (天井内)
-----	AE1. 2-3C (天井内)
-----	AE1. 2-4C (天井内)
-----	AE1. 2-2C+3C (天井内)
-----	S-50-FB (E19)

5階 平面詳細図

特記なき記号は下記とする	
▷M1*	1種金属線び コーナーボックス 傍記「*」は型を示す
⊙	フラッシュプレート 丸型 ブランク
●	スイッチ 片切
⊕F	コンセント 1個口 (換気扇用)
⊕2	コンセント 2個口
□	蛍光灯器具 (埋込型) FL20W×2
□	蛍光灯器具 (露出型) FL40W×2
⊕	スピーカ 壁付
⊙	内線電話機
⊕	直列ユニット
▽	スポット形感知器 差動式

- ・太線の配線及び記号は撤去を示す。
- ・極細線の配線及び記号は残置を示す。
- ・隠蔽部の配管は残置とし配線のみ撤去する。
- ・⊕は取外し (再使用) を示す。



線幅は下記とする		
極細線		細線
太線		極太線

敷設方法は下記とする		
天井隠蔽	-----	露出
こしがし	-----	地中埋設
床隠蔽	-----	

特記なき配線は下記とする	
-----	EM-EFF1. 6-3C (天井内)
-----	EM-EFF2. 0-3C (天井内)
-----	EM-AE1. 2-2C (天井内)
-----	EM-AE1. 2-3C (天井内)

5階 平面詳細図

特記なき記号は下記とする	
▷M1*	1種金属線び コーナーボックス 傍記「*」は型を示す
⊕	ノズルプレート
●	スイッチ 片切
●L	スイッチ 片切 確認表示灯
⊕2	コンセント 2個口
⊕	直列ユニット
⊕	光電式煙感知器 2種 露出 点検ボックス付
⊕**	貴通部 傍記「**」は管サイズを示す
⊕**	区画貴通部 (国土交通大臣認定工法) 傍記「**」は管サイズを示す

- ・太線の配線及び記号は新設を示す。
- ・極細線の配線及び記号は既設を示す。
- ・既設の配線及び記号は撤去図を参照のこと。
- ・⊕は再取付 (再使用) を示す。
- ・上階スラブ貫通箇所は区画貴通部とする。
- ・シャフト内は配線の余長を見込むこと。

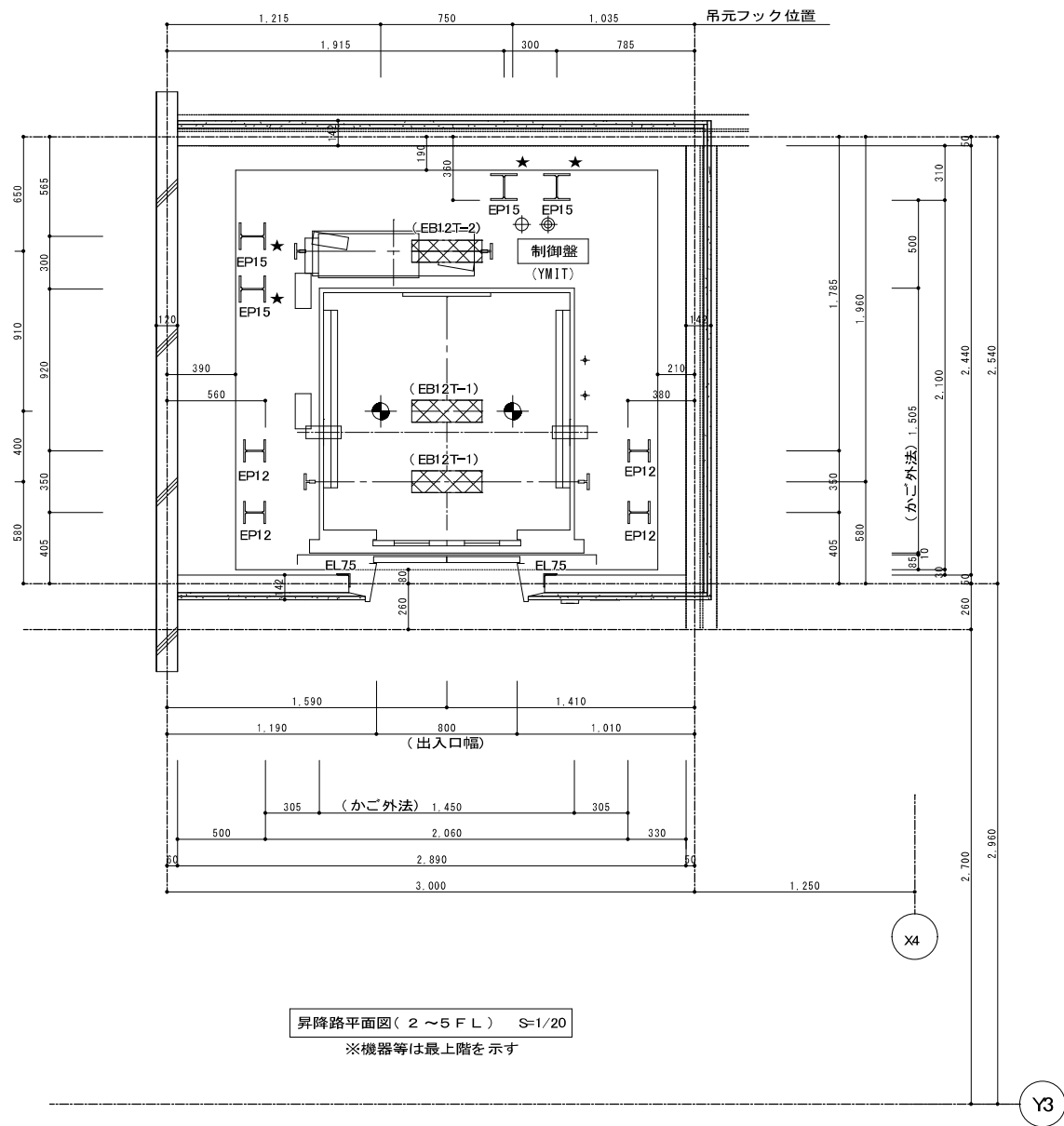
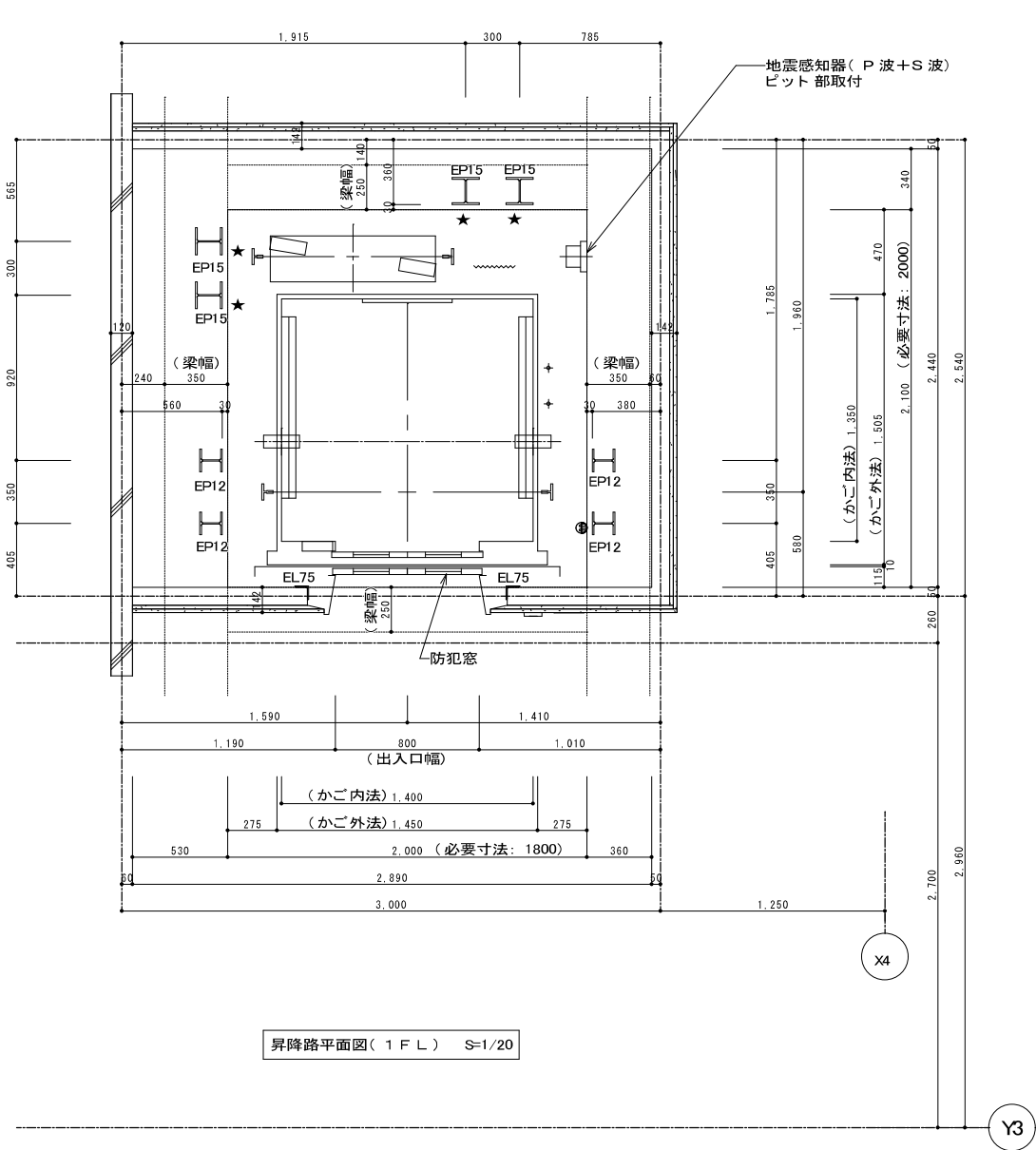
工 事 区 分 表								
分類	No.	工事項目	昇降路構造		建築			
			RC	S	建築	電気	設備	昇降機
昇 降 路	1	昇降路の築造工事及び躯体・オーバーヘッド・ピット寸法が昇降機承諾図と異なる場合は正工事 オーバーヘッド：昇降機承諾図寸法に対し20mm以上低い場合（ただし、必要寸法を確保のこと） ピット：昇降機承諾図寸法に対し浅い場合又は30mm以上深い場合（防水面から確保のこと）	○	○	○			
	2	天井フック又はトロリービーム設置工事（荷重に対し安全率5を確保のこと）（オーバーヘッド高さが4000mmを超える場合、トロリービーム設置は必須のこと）	○	○	○			
	3	中間ビーム・セパレータビーム設置・インサート埋め込み工事	○	○	○			
	4	ガイドレール支持用ファスナー及び立柱設置・インサート埋め込み工事	○	○	○			
	5	溶接レスの場合のガイドレール支持用ファスナー及び立柱・三方枠取付用アングルへの加工	○	○	○			
	6	フェッシアプレート取付材設置工事（フェッシアプレート本体は昇降機工事）		○	○			
	7	昇降路内鉄骨材の耐火処理工事		○	○			
	8	ピット内防水工事	○	○	○			
	9	ピット下を使用する場合の建築躯体処置工事	○	○	○			
	10	併設されたエレベーターのピットに段差がある場合の間仕切り工事	○	○	○			
	11	急行ゾーンがある場合の昇降路救出口設置工事	○	○	○			
	12	昇降路内建築工事仮設床用（水平養生）の金網、デッキプレート等の撤去工事	○	○	○			
	13	昇降機承諾図に記載のない突出物や不要物の撤去切断等工事	○	○	○			
	14	昇降路内温度が40℃を超える場合の換気設備工事又は空調設備工事	○	○			○	
乗 場	1	乗場出入口の敷居取付用欠き込み・敷居受け持ち出し工事及び敷居取付後のモルタル充填工事	○	○	○			
	2	乗場出入口壁穴あけ・乗場出入口用品取付材設置工事及びインサート埋め込み工事（三方枠・バックアングル・ドア・敷居・押しボタン・インジケータ・モニター等）	○	○	○			
	3	乗場出入口用品取付後の壁並びに床・天井等の仕上工事	○	○	○			
	4	三方枠・インジケータ等と壁間のモルタル又はロックウール充填工事	○	○	○			
	5	三方枠・インジケータ等と壁間の塞ぎ板による隙間塞ぎ工事	○	○				○
	6	開放廊下及び屋上等直接外気と接する乗場における雨水対策工事（排水溝・水たまり・庇等）	○	○	○			
電 気	1	昇降路頂部の煙感知器設備の設置工事（外部より点検可能な点検口の設置を含む）	○	○		○		
	2	昇降路内配管工事に伴う区画貫通部の耐火処理工事（昇降機工事による押しボタン・警報盤等の配線工事は除く）	○	○		○		
	3	昇降路内受電端子までの動力用電源・照明用電源・接地線の引き込・立上工事及び一次側端子への接続工事	○	○		○		
	4	昇降路内受電端子までのインターホン・その他機器の配管配線工事並びに引き込・立上工事（放送・遠隔監視・防犯カメラ・故障信号・非常呼び信号・火災信号・セキュリティ連動信号・監視盤等）	○	○		○		
	5	遮煙のりばドア適用時の建屋火災信号の供給	○	○		○		
	6	ピット内点検用コンセントの設置工事（単独回路）	○	○		○		
そ の 他	1	エレベーター工事着工前までの各階出入口開口部の養生作業	○	○	○			
	2	エレベーター工事着手後の昇降路内への浸水防止工事、出入口先行着工時の止水工事	○	○	○			
	3	居室側防音及び防振工事	○	○	○			
	4	搬入用仮設開口及び搬入経路の段差解消・搬入後の復旧工事	○	○	○			
	5	エレベーターを工事用として使用する場合の各種養生手配及び設置工事	○	○	○			
	6	その他建築・電気・設備に関する工事	○	○	○	○	○	

(1台1 回線)

電源設備 (参考) (高田)				
号機名		No. 1		
電源設備容量	動力	200 V 4 kVA		
	照明	100 V 1.5 kVA		
最大電流		21.3 A		
動力線サイズ (mm ²)		5. 5	8	14
最大引き込み距離 (m)		76	118	205
建屋側 MCCB		30 A		
接地線最小サイズ		2 mm ²		
インターホン用配線		φ 0.9 × 10 本		
電話用配管・配線		φ 19 配管・電話線 1 P		
ピットコンセント容量		1 kVA / 台		

エレベーター仕様			
概略仕様	号機名(台数)		No. 1 (1台)
	用途(形式)		乗用 車いす仕様
	積載量(定員)		750 kg (11人)
	速度		45 m/min
	制御方式		交流インバータ制御方式(回生無)
	操作方式		乗合全自動方式
	停止ヶ所・出入口方向		(1~5FL) 5ヶ所 1方向
	かご内法(Wx Dx H)		1400 mm X 1350 mmX 2300 mm
	出入口寸法(Wx H)		800 mm X 2100 mm
	ドア方式		2枚戸中央開き(電動式)
	電動機出力		AC-3.5kW(W・ギヤレス)
	電源	動力	三相3線 200V 50Hz
		照明	単相 100V 50Hz
	管制運転	地震時	有(P波+S波感知器(3段検知)リスタート機能付)
		火災時	有
		自家発電時	無
		浸水時/冠水時	有 全自動形(ピット冠水時(指定階))
停電時自動着床装置		有	
耐震クラス		A14	
かご内連絡装置		24V同時通話インターホン	
基本仕様及び標準装備仕様		ローラーガイド(かご、おもり) 照明・換気装置自動休止機能 2D多光軸(マルチビーム)ドアセフティ 反転時呼び一括キャンセル機能 戸開放時間自動延長設定 行先階取消し機能 故障時最寄階自動着床運転	
乗場仕様	三方枠		全階 大枠・全縁材 ステンレス製ヘアライン仕上
	ドア		全階 鋼板製単色塗装仕上
		防犯窓	1FL 網入ガラス(t6.8)(JIS R3204)とフロートガラス(t3.0)(JIS R3202)を合わせたもの・大窓[ドア面と面]
	敷居		全階 硬質アルミ製
	乗場	ボタン	全階 メーカー仕様
	インジケータ	インジケータ	全階 メーカー仕様
かご仕様	ボタン	フェースプレート	全階 メーカー仕様
	天井照明		LED照明
	換気装置		ファン
	リターンパネル		ステンレス製ヘアライン仕上
	出入口柱		ステンレス製ヘアライン仕上
	ドア		化粧銅板
		防犯窓	網入ガラス(t6.8)(JIS R3204)とフロートガラス(t3.0)(JIS R3202)を合わせたもの・大窓[ドア面と面]
	幕板		化粧銅板
	側板		化粧銅板
	幅木		化粧銅板
床		ビニタイル (t2)	
操作盤	敷居		硬質アルミ製
	ボタン	インジケータ	メーカー仕様
		フェースプレート	メーカー仕様
		特記事項	
・スタンダード天井照明 ・非常放送スピーカー付 ・音声案内装置付 ・車いす仕様一式 かご内鍵付 キックプレート付 かご手摺付(ステンレス製 2方向) ・かご荷摺付(分割型)ス止め、H350) ・点字銘板付 ・乗場点字注意銘板付 ・国土交通省仕様 ・高層階対策付 ・バリアフリー新法準拠 ・千葉県福祉のまちづくり条例準拠			

千葉市都市局建築部営繕課	工事名称 千葉市立小中台南小学校エレベータ設置工事	設計年月日	令和 6年 2月 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	図 面 名	縮 尺	A1：－ A3：－	図 面 番 号	EV-01
		特記事項		特記事項		特記事項						



●	ビット点検用コンセント	(電気工事)
〰	保護金網	(エレベーター工事)

鉄骨部材記号表 (建築工事)		
部材記号	部材用途	部材サイズ
EP15	レール支持柱	H-150x150x7x10
EP12	レール支持柱	H-125x125x6.5x9
EL75	三方枠取付材	L-75x75x6
EL65B	バックアングル取付材	L-65x65x6
EL10S	敷居取付材	L-100x100x10
EHST9	吊元(荷重9.8kN用)	t12(φ75穴付)
EB12T-2	トロリービーム(荷重9.8kN)	H-125x125x6.5x9
EB12T-1	トロリービーム(荷重19.6kN)	H-125x125x6.5x9

レール反力リスト(地震時作用荷重) No. 1			
	かご側	Px	4.00 kN
	一般階	Py	2.00 kN
	かご側	Px	4.50 kN
	最上階	Py	3.20 kN
	おもり側	Px	6.30 kN
	一般階	Py	3.20 kN
	おもり側	Px	9.50 kN
	最上階	Py	6.40 kN

上記 荷重による柱及び梁のたわみは5mm以下となるよう選定すること。

◆	吊元フック ・荷重: 9.8 kN	(建築工事)
◇	電源引込み(受電盤への接続) ・動力・照明、接地線 最上停止階F.L. - 1350mm 引出長さ3m	(電気工事)
◆	配線引込み ・インターホン配線、電話線 最上停止階F.L. - 650mm 引出し3m	(電気工事)

煙感知器詳細

施錠装置付点検扉

1.5mm以上の鋼板製(電気工事)
リットスイッチ付(エレベーター工事)

昇降路頂部に煙感知器を設置する場合は、外部に引き出した状態で点検可能な構造とする。
屋外の場合は、防水形点検扉とする。

点検ボックスは下記エレベーター昇降路専用品とすること。

- ・ホーチキ (KUS-1C(W))
- ・能美防災 (FXS J001A-HU)
- ・ニッタン (NID-T-G)
- ・パナソニック (BV95351+BV95381H)

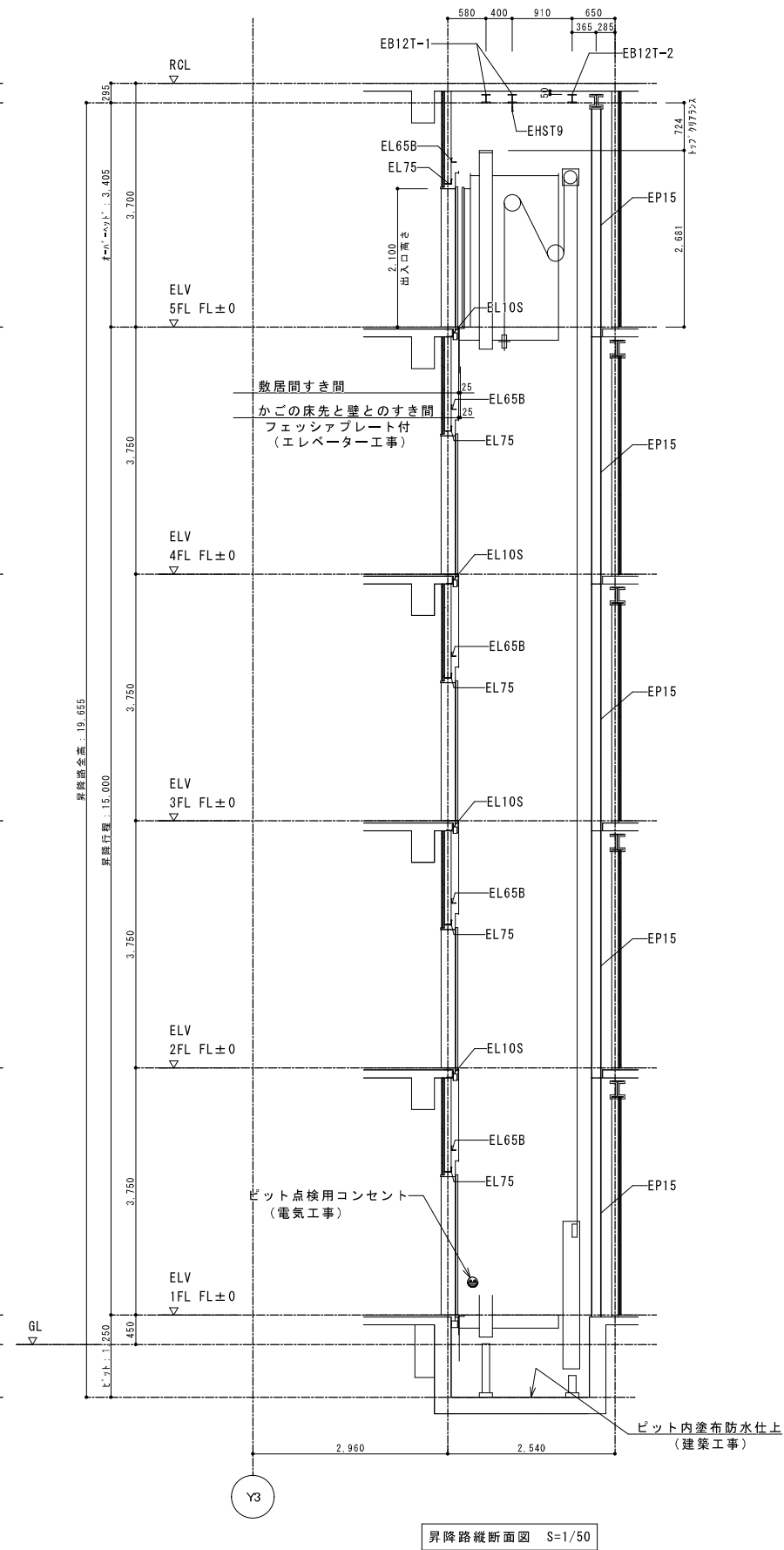
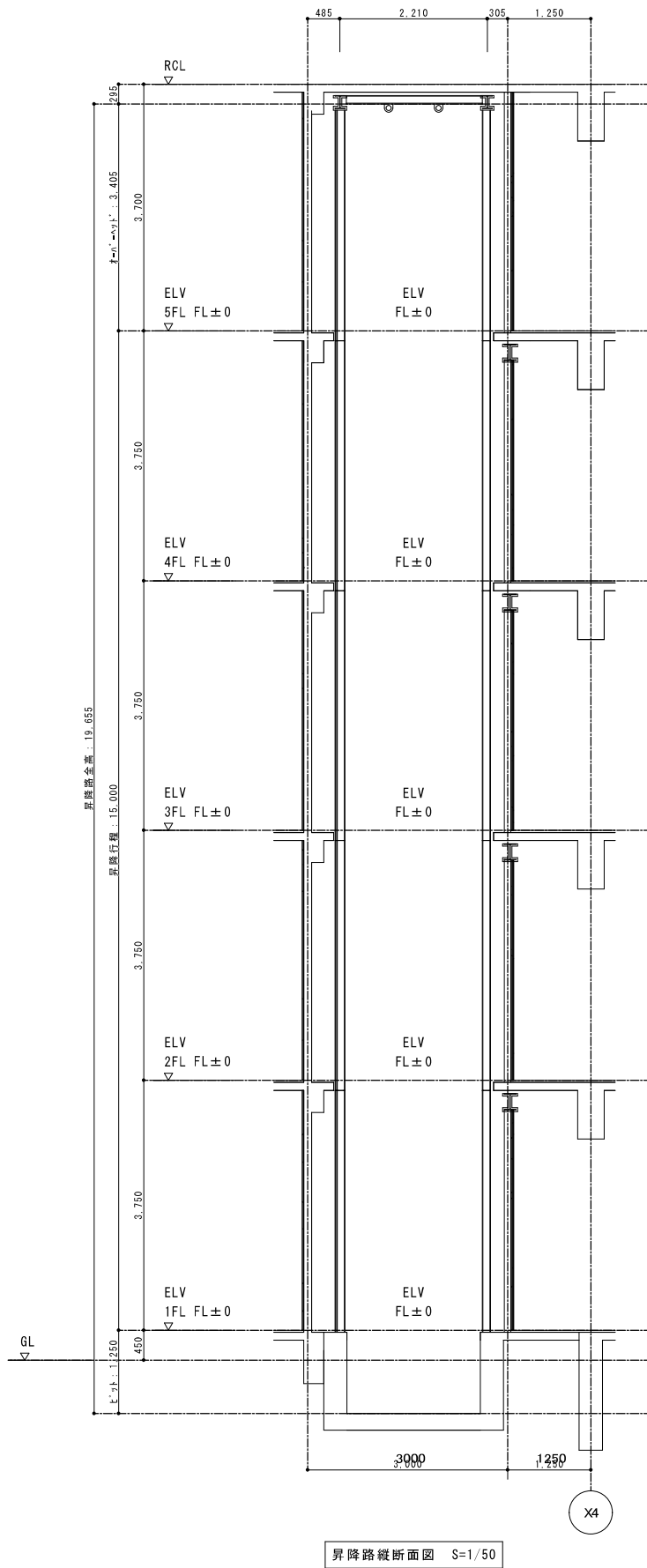
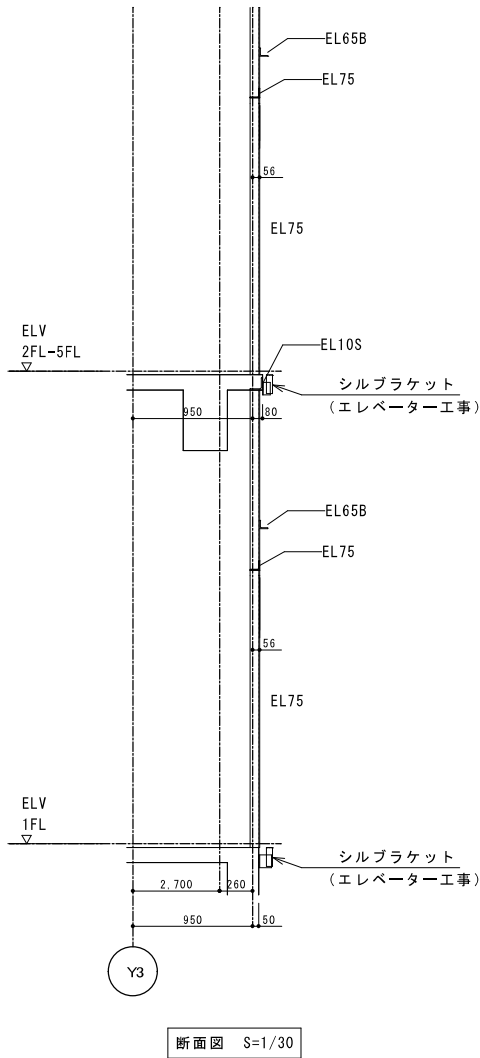
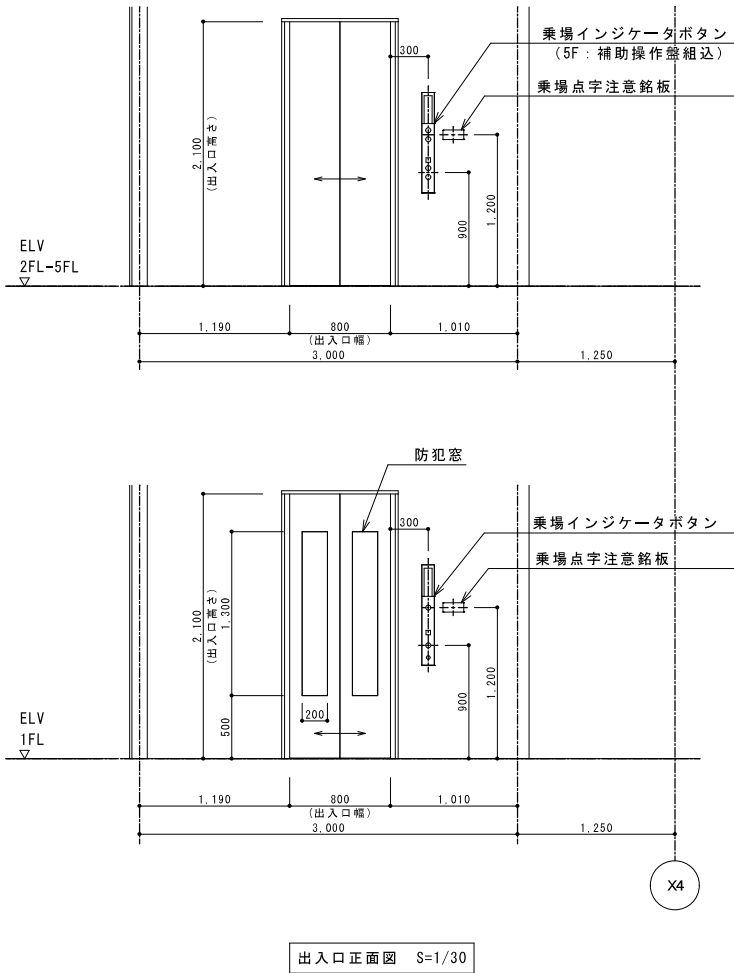
製品の型番は、仕様変更などで変更・廃止されている場合があります

吊元フック詳細 (建築工事)

吊元フック荷重: 9.8kN (NEHST9)

※全周すみ肉溶接脚長 8mm

鉄骨部材記号表 (建築工事)		
部材記号	部材用途	部材サイズ
EP15	レール支持柱	H-150x150x7x10
EP12	レール支持柱	H-125x125x6.5x9
EL75	三方枠取付材	L-75x75x6
EL65B	バックアングル取付材	L-65x65x6
EL10S	敷居取付材	L-100x100x10
EHST9	吊元 (荷重9.8kN用)	t12 (φ75穴付)
EB12T-2	トロリービーム (荷重9.8kN)	H-125x125x6.5x9
EB12T-1	トロリービーム (荷重19.6kN)	H-125x125x6.5x9



№. 1

ビット反力	72.60kN
ビット衝撃荷重	60.30kN
C/W側	47.40kN

※点検用タラップはビットに保管